

山形県鶴岡市温海地域担当



教養学部学際科学科 4年 曾我部千洋
法学部法学総合コース 3年 横澤海太
技術経営戦略学専攻 修士2年 周澤宇



対象地域の概要・背景

目的

活動内容

提案内容

今後の展望

活動を通じた学び

山形県鶴岡市温海地域

2005年の鶴岡市合併まで「温海町」であった地域

・人口：6,169人（2024年1月現在）

特徴

- ・ 東側が山、西側が海に面した自然豊かな地域
→海・山両方の自然を楽しめる
- ・ **温海温泉**：開湯1200年、県内有数の温泉地
美しい温泉街の景観が魅力的

背景

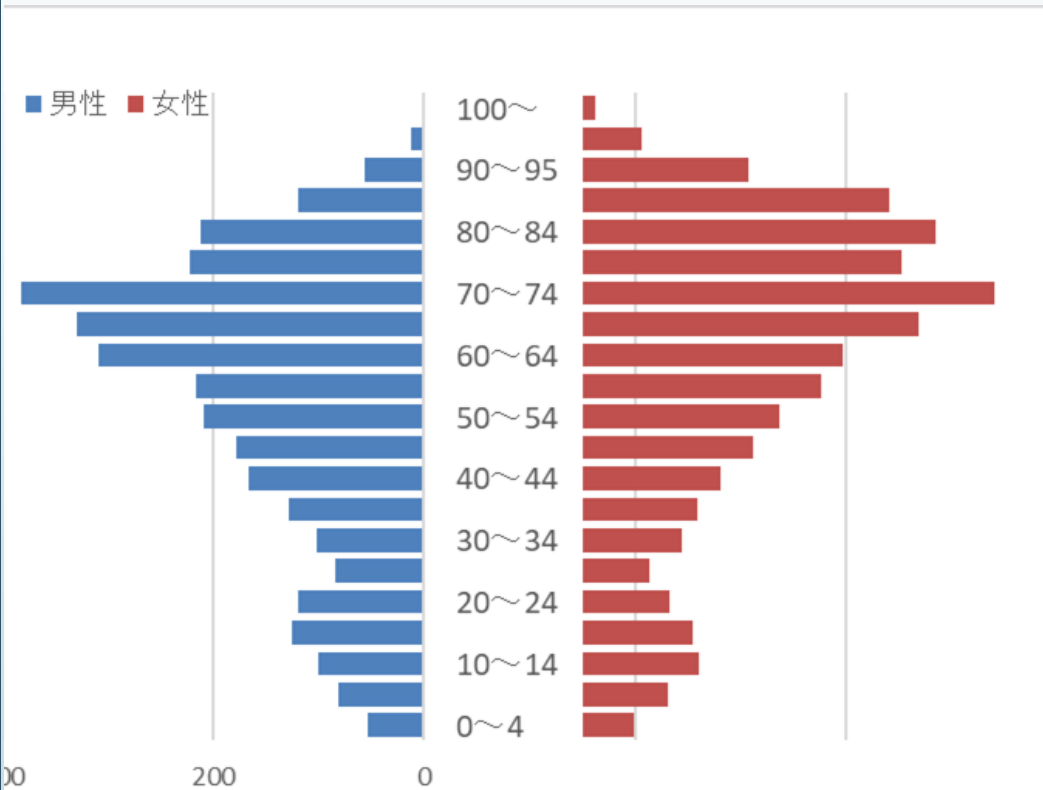
- ・ 人口減少 & 高齢化の進行
→これまで維持・継承されてきた**地域行事・祭典・伝統芸能・文化・農作業・地域の共同作業**などの実施および継続が困難に



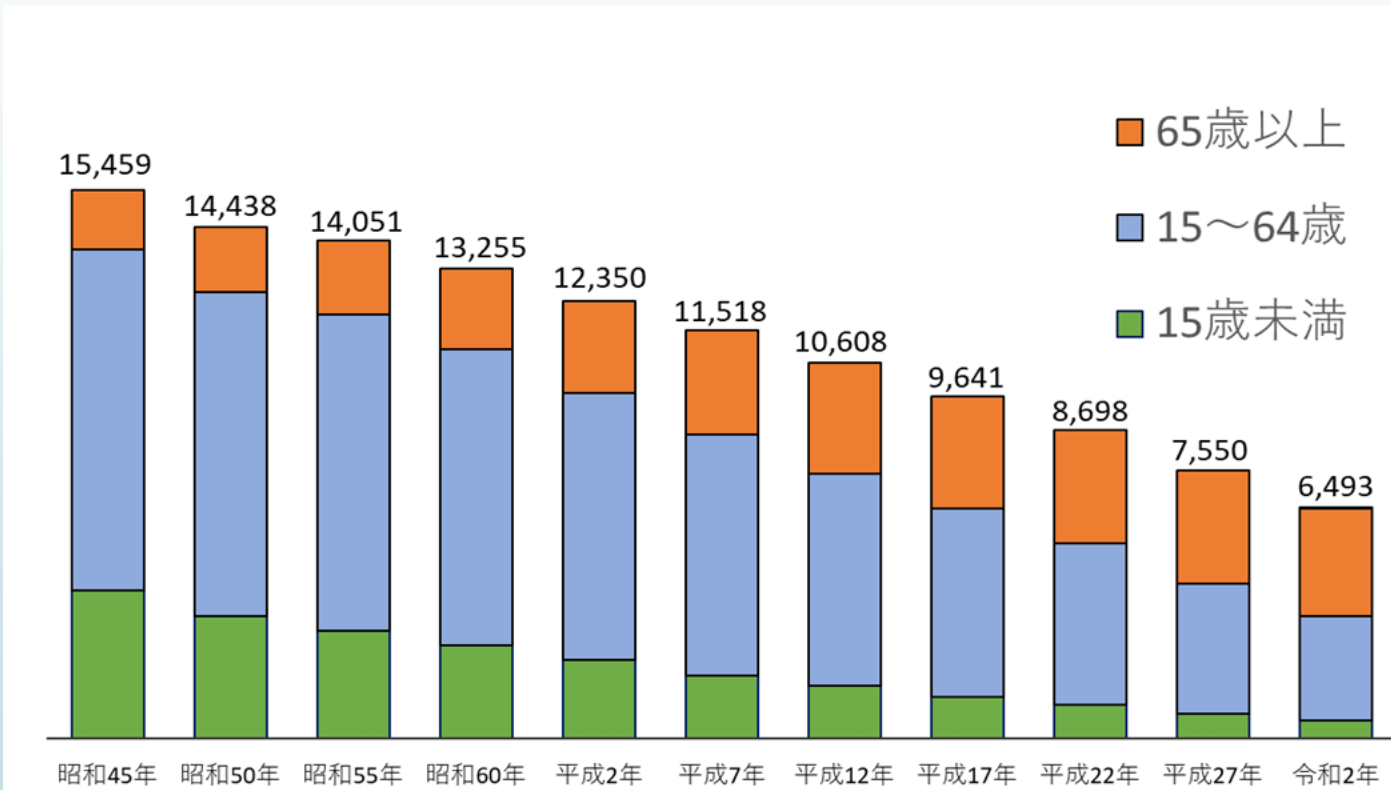


数値でみる温海地域の高齢化と人口減少

高齢化



人口減少



テーマ

関係人口として温海と繋がる仕組みづくり・土壌づくり

関係人口の創出・拡大

温海地域の人口減少に歯止めをかけることは難しい...

しかし

地域外の人（特に20～30代の都市住民）をターゲットに
温海地域の担い手としての活躍を促進



地域活動の活性化

- ・ 地域の活力の維持・発展
- ・ 若者との交流による住民への刺激

提示された背景・課題に対し、
まずは『現地を知る』『現地と繋がる』ことが重要であると考えた。

（施策具体案）

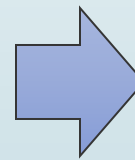
【プログラムでの提案課題】

地域づくりのパートナーとなる関係人口の創出に向けた施策提案

関係人口として、20～30代を呼び込みたい！

地域活動の活性化

- ・ 地域の活力の維持・発展
- ・ 若者との交流による住民への刺激



- SNSを活用した観光促進施策
- 農作物体験施策
- 農業ICT化
- ネットワークを活用した施策
- 地方創生に資するデジタル推進

活動内容（概要）



～8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月～
担当内検討	初回訪問 (9/1-3)	課題再検討	解決具現化	2回目訪問 (12/8-9)	取組の 未来構想	SNS講座 報告会	実現継続検討

ICTを活用した課題解決の 余地検討

- SNSを活用した観光促進施策
- 農作物体験施策
- 農業ICT化
- ネットワークを活用した施策
- 地方創生に資するデジタル推進

体験型イベント企画

- 温海の魅力を知ってもらいたい
都内開催 or 現地開催 ??

みんなでつくる あつみ構想

- 企画案から展開へ

活動内容（概要）



～8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月～
担当内検討	初回訪問 (9/1-3)	課題再検討	解決具現化	2回目訪問 (12/8-9)	取組の 未来構想	SNS講座 報告会	実現継続検討

ICTを活用した課題解決の 余地検討

- 表敬訪問
- チットモツシェ訪問
(相沢自治会長, 五十嵐代表, 佐藤代表)
- 温海観光協会訪問
- 若者交流会
- 鍋倉集落訪問
- シーカヤック体験
- あつみ自然体験コーディネット訪問
- 越沢運動会 + 反省会
- 焼畑温海かぶ
- 楯山荘

体験型イベント企画

- チットモツシェ訪問
(相沢自治会長, 五十嵐代表, 佐藤代表)
- 関川しな織体験
- 三角そば打ち体験 + 交流会
- あつみ未来塾
- 鼠ヶ関辨天太鼓創成会
- あつみ自然体験コーディネット訪問
- 猫カフェ訪問

みんなでつくる あつみ構想

- 企画案から展開へ

活動内容（初回）



～8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月～
担当内検討	初回訪問 (9/1-3)	課題再検討	解決具現化	2回目訪問 (12/8-9)	取組の 未来構想	SNS講座 報告会	実現継続検討

表敬訪問



温海観光協会様



地域住民の方との交流会



鍋倉集落訪問



活動内容（初回）



～8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月～
担当内検討	初回訪問 (9/1-3)	課題再検討	解決具現化	2回目訪問 (12/8-9)	取組の 未来構想	SNS講座 報告会	実現継続検討

シーカヤック体験（鼠ヶ関）



小国楯山荘



焼き畑温海かぶ



活動内容 (初回)



~8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月~
担当内検討	初回訪問 (9/1-3)	課題再検討	解決具現化	2回目訪問 (12/8-9)	取組の 未来構想	SNS講座 報告会	実現継続検討



越沢集落運動会



活動内容（初回）



～8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月～
担当内検討	初回訪問 (9/1-3)	課題再検討	解決具現化	2回目訪問 (12/8-9)	取組の 未来構想	SNS講座 報告会	実現継続検討

温海エリア

表敬訪問

温海観光協会様

地域住民の方との交流会

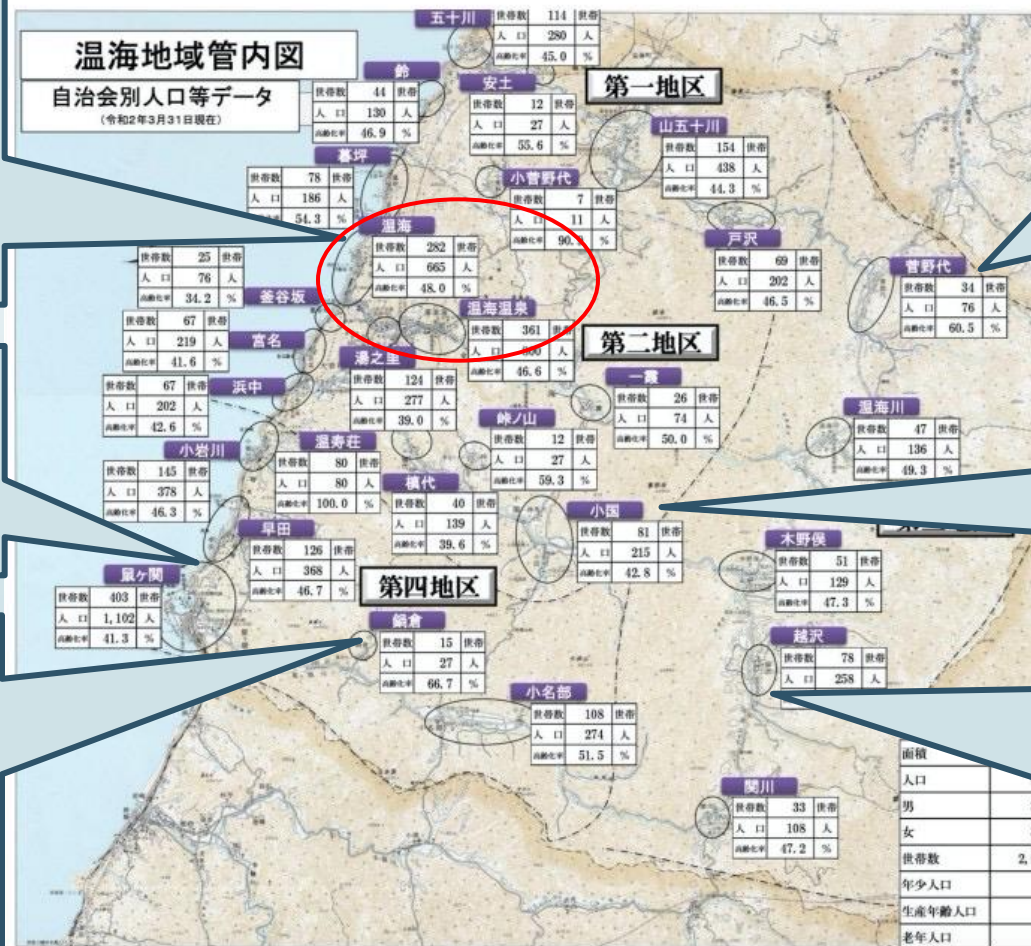
鼠ヶ関エリア

シーカヤック体験（鼠ヶ関）

鍋倉エリア

- ・人口20人弱の限界集落の一つ（59歳が最小年齢）
 - ・雪灯籠祭り
 - ・古式弓
- などの伝統を有する

鍋倉集落訪問



菅野代エリア 山中

焼き畑温海かぶ

小国エリア

- ・学校跡地を宿泊利用

小国楯山荘

越沢エリア

- ・越沢三角そば（内閣総理大臣賞、農林水産大臣賞を受賞）
- ・越沢集落運動会（パン食い競争、スリッパ飛ばし、越沢音頭など）

越沢集落運動会

活動内容 (2回目)



~8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月~
担当内検討	初回訪問 (9/1-3)	課題再検討	解決具現化	2回目訪問 (12/8-9)	取組の 未来構想	SNS講座 報告会	実現継続検討

会合
(チットモツシエ)



関川しな織



越沢三角そば



活動内容 (2回目)



~8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月~
担当内検討	初回訪問 (9/1-3)	課題再検討	解決具現化	2回目訪問 (12/8-9)	取組の 未来構想	SNS講座 報告会	実現継続検討



あつみ未来塾



あつみコーディネット様



ちゃんねるあづみ
相澤様



鼠ヶ関辨天太鼓



活動内容 (2回目)



~8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月~
担当内検討	初回訪問 (9/1-3)	課題再検討	解決具現化	2回目訪問 (12/8-9)	取組の 未来構想	SNS講座 報告会	実現継続検討

温海エリア

会合
(チットモツシェ)

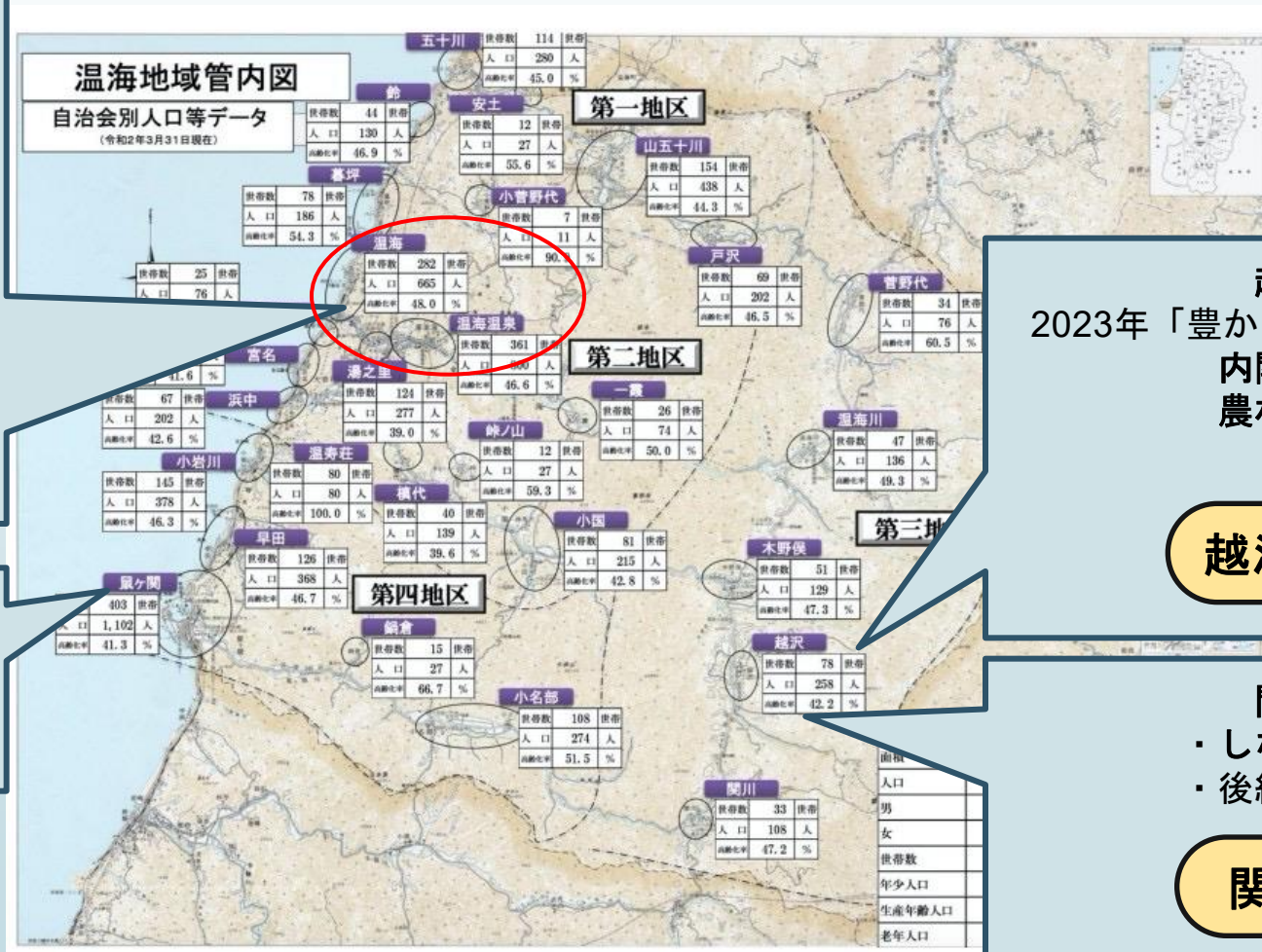
あつみ未来塾

あつみコーディネット様

ちゃんねるあづみ
相澤様

鼠ヶ関エリア

鼠ヶ関辨天太鼓



越沢エリア
2023年「豊かなむらづくり全国表彰」
内閣総理大臣賞
農林水産大臣賞
を受賞

越沢三角そば

関川エリア
・しな織体験が可能
・後継者不足が課題

関川しな織

現地訪問型イベント開催

背景

関係人口になってもらうにはまず実際に温海に来てもらい、
魅力を知ってもらわないことには始まらないのではないかと



温海に来て魅力を知ってもらう機会の提供

単なる一過性ではなく、**継続して関わりを持ってもらえるような仕組みづくりの必要性**



観光としての魅力だけでなく**地域に愛着を持ってもらえるような設計に**

ターゲット層

20～30代の都市住民（活動目的抜粋）



学生をはじめとする関東圏の若者

現地訪問型イベント開催

具体的な構想



都会等からの若者

- ・ そば打ち体験
- ・ しな織体験
- ・ お湯輿祭り
- ・ シーカヤック
- ・ 弓矢など観光体験



地域住民の方との
交流の機会



空き家リノベーション

現地訪問型イベント開催

具体的な構想



都会等からの若者

- ・ そば打ち体験
- ・ しな織体験
- ・ お湯輿祭り
- ・ シーカヤック
- ・ 弓矢など観光体験



地域住民の方との
交流の機会



空き家リノベーション

来訪者と住民が相互に学び合う空間をつくる

- 単なる旅行とならないようにアンケートで振り返りを実施

来訪者（関係人口含む）が気軽に訪れられる
&
地域との交流拠点になる

- 再訪契機拠点づくりの一環
用地など課題があるため詳細は今後検討

現地訪問型イベント開催

具体的な構想



都会等からの若者

FSメンバーを
中心に周知
関係案内所（仮）
内発信

- ・ そば打ち体験
- ・ しな織体験
- ・ お湯輿祭り
- ・ シーカヤック
- ・ 弓矢など観光体験

往復の交通費or
現地での体験活動費の補助
→初回訪問障壁を低減



地域住民の方との
交流の機会



空き家リノベーション

来訪者と住民が相互に学び合う空間をつくる

- 単なる旅行とならないように
アンケートで振り返りを実施

そば打ち体験講師、しな織指導者
お湯輿祭り関係者、
シーカヤックインストラクター、
弓矢体験/集落の方々 等を想定

来訪者（関係人口含む）が気軽に訪れられる
&
地域との交流拠点になる

- 再訪契機拠点づくりの一環
用地など課題があるため詳細は今後検討

提案内容（アンケート案）



都会等からの若者ら
に対して
アンケート収集

項目	内容	活用用途
来訪者属性	年齢、性別、出身	傾向分析
現地訪問	何を感じたか。 何を学んだか。 今回の訪問で最も印象に残った ことは何か。	リノベーシ ョンハウス に集約
継続性評価	また来たいかどうか。 どういう関わりがしたいのか。	改善活動検 討に繋げる
改善評価	どのような取組、活動があったら また来たいと思えるか。	



空き家リノベーション



現地訪問型イベントの開催



温海の魅力を知ってもらう機会の提供

(空き家リノベーション、蕎麦打ち体験、SNSツールでの発信etc...)

地域住民とのふれあいの時間を確保



地域に愛着を持てる、継続的な関わりしるに寄与
関係人口の創出・拡大につなげたい



それまで行ったことのない場所で会ったことのない方に出会い、いろいろな体験・お話をさせていただくことで自分の世界が広がる実感があった。東京でなかなか得られない経験は、必ず将来の糧になると感じた。そういった意味でも地域とのつながりを作っていくことは両者にとって重要だと思う。

温海地域には、人、自然、食、イベントetc.. 数多くの、魅力が存在。しかし、知ってもらわないことにはその魅力も伝わらないため、関わりしろをもたらすためのきっかけが必要だと感じた。百聞は一見に如かず。



「百聞は”一験”に如かず」であり、都会とは異なる豊かな大自然、良質な温泉、美味しい食事、集落文化、地元の方々の温かさを体現し、価値観が変わるきっかけになった。
プログラムが終了しても繋がりたい。その想いを広げていきたい。



ご清聴ありがとうございました
本年度のFSにご協力いただいた全ての皆様に、
この場を借りて厚く御礼申し上げます。

山形県鶴岡市温海地域担当 2023年度FS生一同

FS高畠町担当 最終報告



メンバー：眞下和士、川畑明子、鈴木彩乃、山本博健、釜賀健太郎

目次

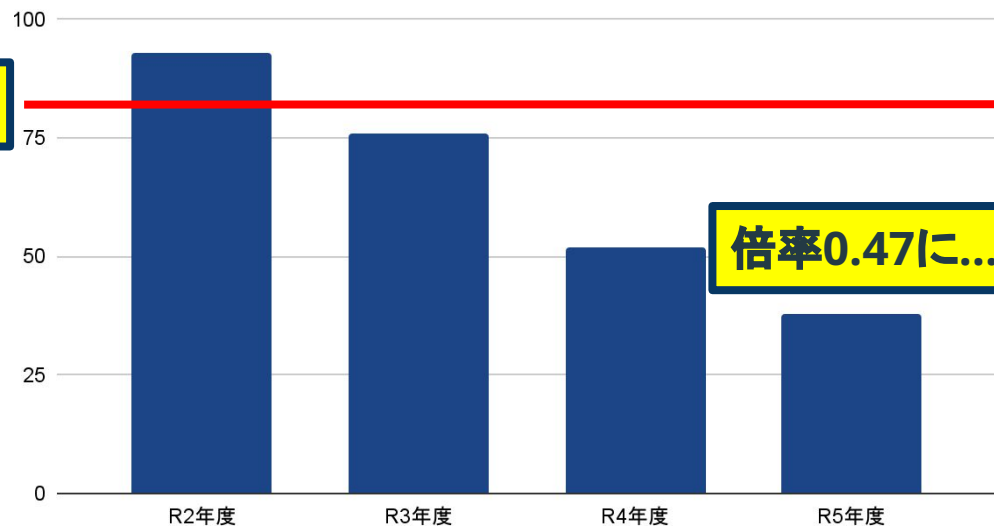
1. 高畠町・高畠高校とは？
2. 私たちのミッション
3. 活動内容
4. 課題感と政策・その成果
5. 今後のビジョン
6. 活動を通じた学び

高畠町・高畠高校とは？

- 人口約23000人(減少傾向)
- 有機農業、食品加工業が有名
- 高校:高畠町出身者が約半数



高畠高校志願者数



私たちのミッション

- 地域の魅力を知らずに町を出ていく若者の増加
- 町内唯一の高畠高校の生徒数の急速な減少
- 地域力の低下、地域産業の弱体化



- **高畠高校を魅力化し、地域で育つ若者を増やす**
- **高校を中心とした町の活性化を促進し、町へ人が集まるサイクルを作る**

1年間の主な活動

計45回の大学生
ミーティング！

町役場・地域おこし協力隊・ 先生とのミーティング

授業方針や町、高校の将来についての協議。月に約一回と現地活動時に開催。



高畠ゼミの授業カリキュラム作 成と運営・支援

毎週の総合的な探究の時間で「高畠ゼミ」の授業を担当。オンラインでゼミ生とともに活動。



3度の現地活動

- 第1回：高畠町を体感する
- 第2回：はたこうカフェ実施
- 第3回：東京研修説明会実施

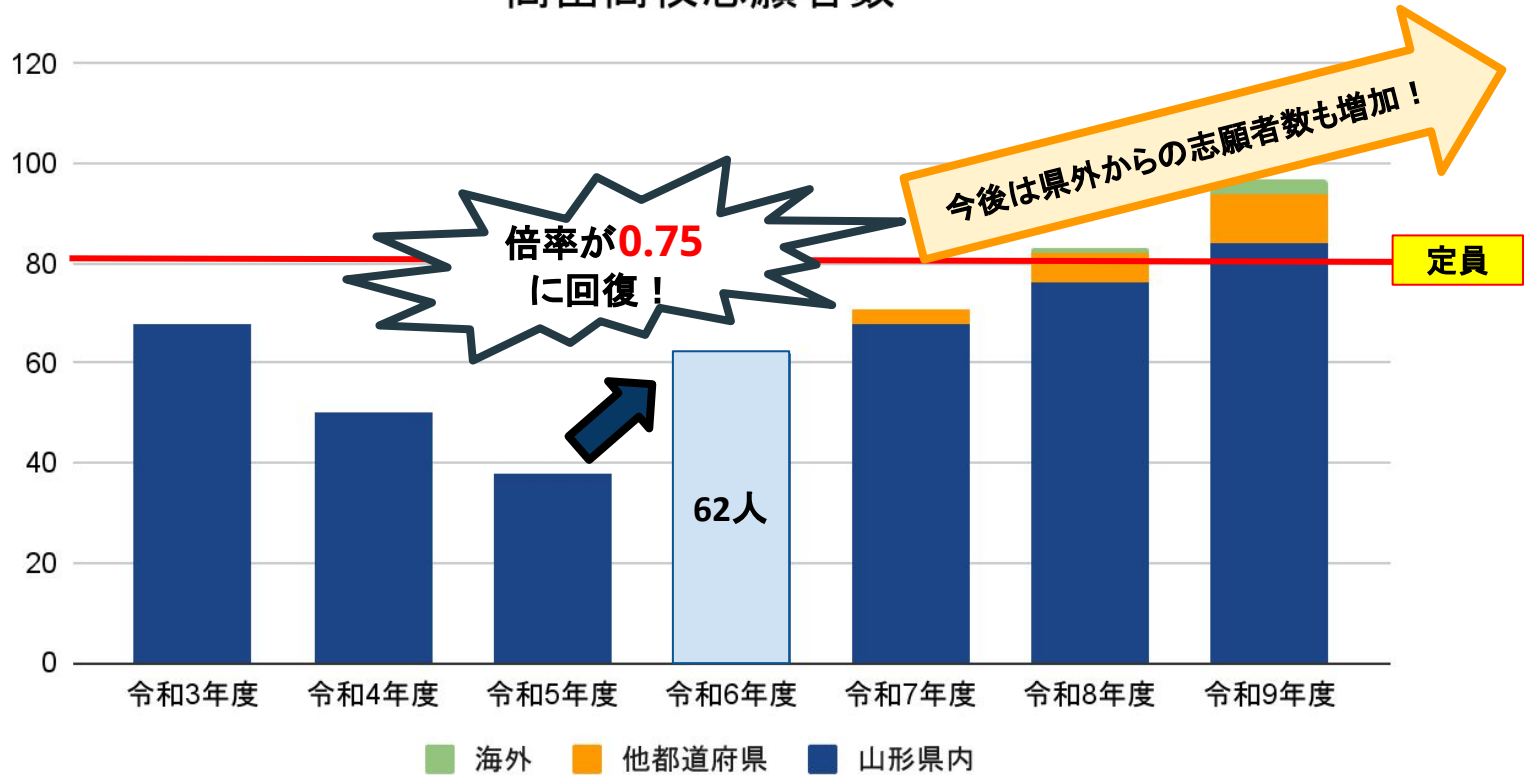


活動中の課題感と政策実施

- 地域の魅力に気づかない人が多い
- ➡ **文化祭の魅力化**
 - 地元企業と交渉し、商品を販売
- 自分の地域のことしか知らず、発想が限られてしまう
- ➡ **東京研修**
 - 外に飛び出して「魅力的な町」のヒントを探り、魅力化に役立てる



高畠高校志願者数



今後のビジョン

- **実際に高畠高校の志望者が増加！**



今後は...



- **高校生のアイデアをさらに発展させる**
 - 高校と町・企業のコラボ、県内外出張など
- **県外・海外から高畠高校への入学者数を増やす**
 - 魅力発信の強化・ゼミの内容充実化を進める

施策提言

1. 「高島高校の魅力＝高島ゼミ」にする高校魅力化方針
2. 町の魅力発信をテーマに豊富なインプット・自由なアウトプットができる環境を用意
3. あらゆる人との接点を持てるフィールドを用意



来年度からの高島ゼミ×東大FS

1. 高校生のアイデア構想・実現の機会創出
2. 高校生のアイデア吸収・魅力発見の機会創出
3. 高校生と他機関・組織・人とをつなぐハブとしての役割

活動を通じた学び

- 町に高校があること
- 各アクターとの連携
- 関係者間の意見調整

の重要性



謝辞

現地活動：高畠町役場の方々

授業運営：山形県立高畠高校の先生方

地域おこし協力隊 柿木さん

学園祭：高畠町の企業様

この場をお借りして厚く御礼申し上げます。
本当にありがとうございました！



FS最終報告会
福島県金山町

2024年3月15日

目次

1. 自己紹介、活動報告
2. 背景
3. 只見線関連施策の評価
4. 宿泊施設の課題
5. 駅舎利活用と駅前再開発
6. 二次交通
7. 只見線の案内強化
8. まとめ



メンバー

東真優

教養学部理科一類1年

佐々木柊

教養学部文科三類2年

服部美里

農学部農業・資源経済学専修4年

谷水城

工学系研究科原子力国際専攻博士課程3年



金山町の課題

「全線運転再開となった只見線を活用して
住民自らの主体的なまちづくりを後押しする
事業策定」

1. 金山町民が只見線に乗りたくなるための事業
 2. 金山町民や民間団体が只見線を活用した地域づくりを行うための事業
 3. 金山町民が只見線を”地域の宝”として誇りをもつための事業
- を考えてほしい！

活動報告

○オンラインミーティング

- 計5回実施
- 金山町企画課、福島県庁の方と打ち合わせ
- 只見線や金山町の事業紹介や、情報交換など

- その他メンバー内でのミーティングを実施
- 大学の関連ワークショップにも参加

活動報告

○第一回現地活動

- 9/13(水)~9/15(金)
- 只見線全線初乗車
- ヒアリング調査
町役場、観光物産協会、
移住定住活性化委員会坂内さん、
地域コーディネーター酒井さんなど
- 金山町内の只見線駅を訪問



活動報告

○第二回現地活動

- 11/2(木)~11/5(日)
- ヒアリング調査
只見線管理事務所、星賢孝さん、
奥会津かねやま福業協同組合、
みお里など
- サイクリング体験
- 霧幻峡
- 提案内容についての意見交換



活動報告

○第三回現地活動

- 2/4(日)~2/6(火)
- 報告会準備
- 活動報告会



聞き取り調査を経て…

金山町で行政が主導する施策

- 手を振ろう運動
- のりのり倶楽部
- 花で彩ろう運動
- 乗車時の補助金制度
- ...



大塩駅近辺にて撮影

町が旗を振ってできることはたくさんやってきた

観光物産協会

町内の観光コンテンツ充実

- 夢幻峡の渡し
- 滝沢川おう穴群
- 物販

今後は

拡充・パッケージ化を進める



その他の取り組み

ドラマ放映
古民家再生
新白河からのルート整備...

写真展による
プロモーション



(参考)頓挫したものもある

観光地域づくり法人 (DMO)の設立や
統一ホームページなど

情報の集約化

理由

- 隣町同士でビジョンを共有できなかった
- 「公平な」行政と「柔軟な」民間

只見線

- JRが負担する費用
- 約7000万円/年



出典：NHK

鉄道設備の維持費は

- 約2億円/年 (県：地元=7：3)

公的資金投入の合理性を説明することは必要

具体的な目標

平均通過人員

区間	水害前	2022年度	今後目標
坂下～川口	279人/日	182人/日	
川口～只見	49人/日	79人/日	100人/日
只見～小出	147人/日	107人/日	

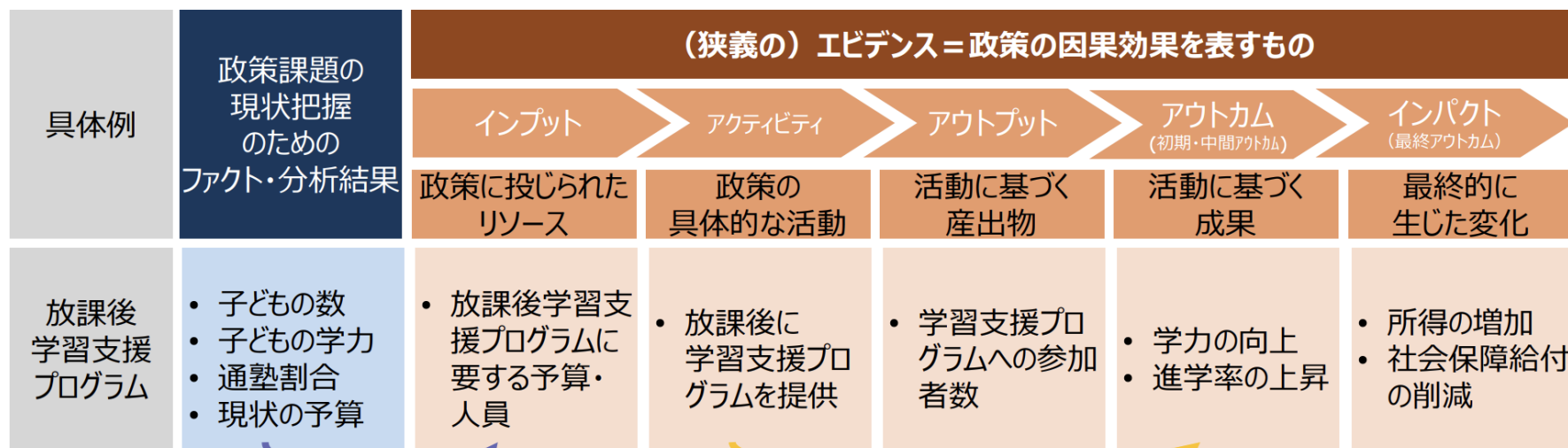
出典：JRE

どうして100人/日？

只見線関連施策の評価

どうして評価(=根拠明確化)が必要か

- 公的資金投入の合理性の説明
- 数値目標の設定/達成度確認
- 中間目標の設定 / 達成度確認



ファクト = 政策の必要性の根拠

エビデンス = 政策手段の有効性の根拠

(参考)エビデンスに基づく政策立案

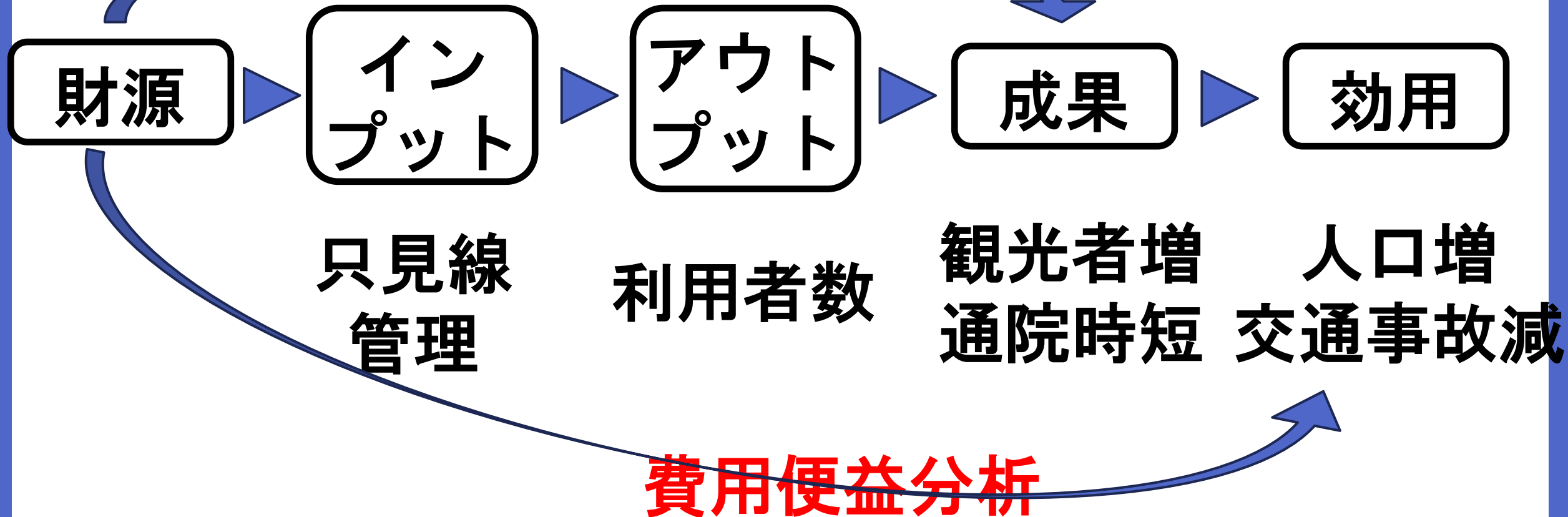
- 政策目的を明確化させ、
- その目的達成に効果的な手段は何かを明確にし、
- これらの裏付けとなるデータ(根拠)を可能な限り求め、

政策の基本的枠組みを明確にする取り組み

論理的に政策を展開する、世界的潮流

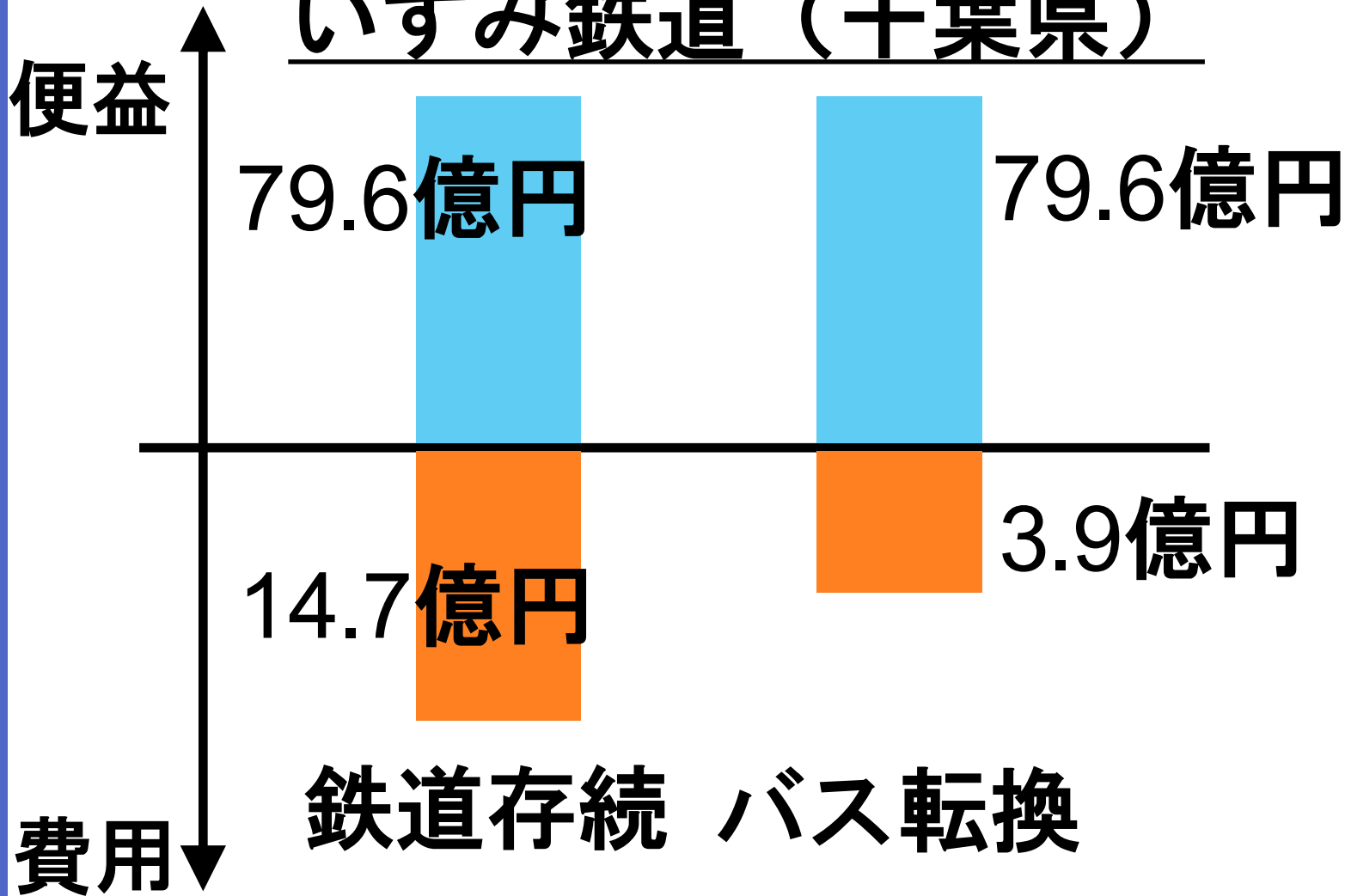
具体的な手法(只見線管理の場合の例)

費用効果分析



鉄道における費用便益分析の事例

いすみ鉄道（千葉県）



Google Map

鉄道における費用便益分析の事例 2

	鉄道存続	バス転換
収支	64.9億円	75.8億円

出典：千葉県

今後のあり方の検討材料

最終的には地元の熱意や意向も含め総合的に判断
⇒ 存続を選択

費用便益分析の手続き

1. どの施策について評価するか決める
只見線の維持、二次交通、町営宿泊施設など
2. 便益(成果)・費用のリストアップ
3. 便益・費用の貨幣価値への換算
人口増加や耐災害性なども貨幣に換算
4. 感度分析
各仮定値の変動が計算結果に及ぼす影響算定

小まとめ

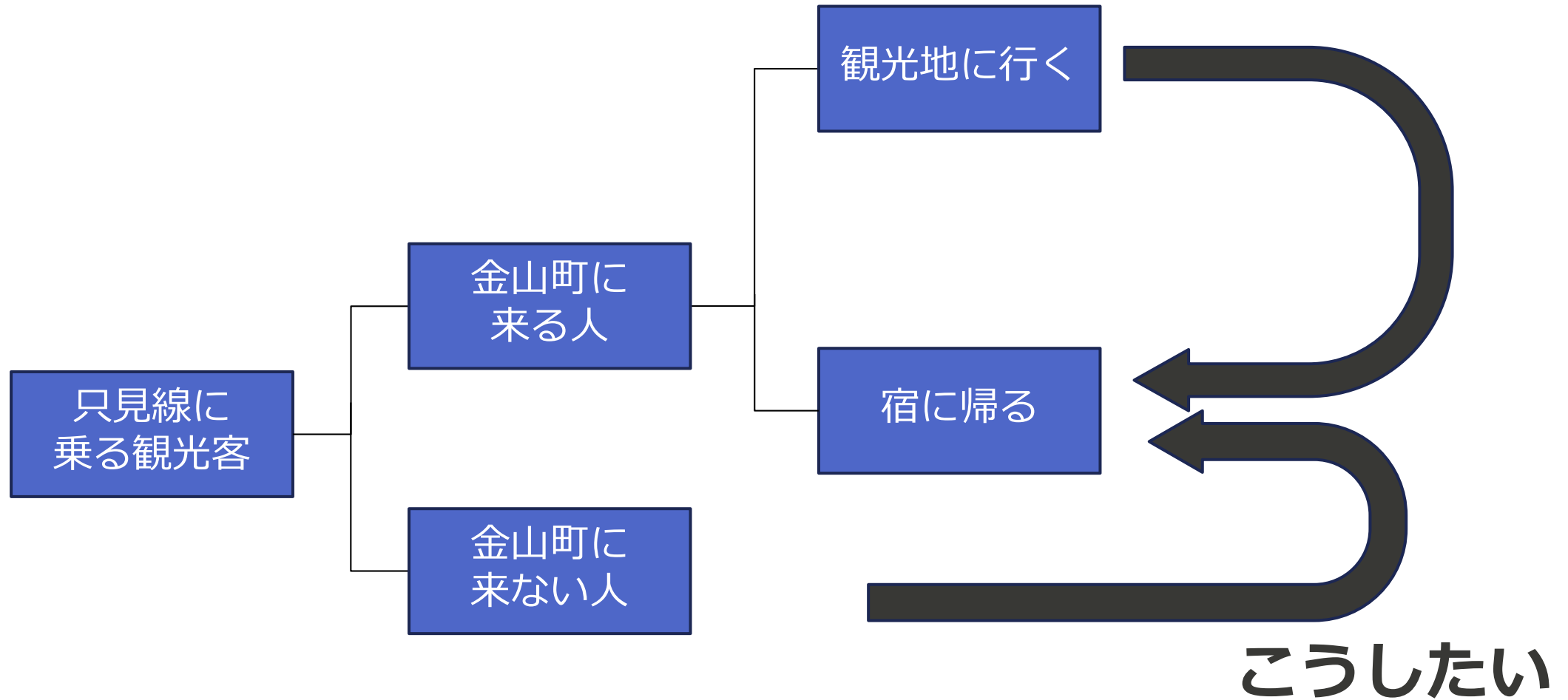
- 2次交通整備
 - モデルコース/パッケージの設定
 - 県の財源による只見線維持
- といった主要な施策の評価を実施してはどうか？

方法の例：費用便益(効果)分析

- シンクタンク/研究機関などを利用
- 他の自治体からノウハウを伝授してもらうetc.

宿泊施設について

現状：只見線に乗っても、金山で降りてくれない



課題

1. 宿泊施設の絶対数が足りない
2. ネットで宿泊施設を見つけられない

1. 宿泊施設の数が少ない

ポテンシャルはある

- 只見線全線開通は大きな話題に！！
- 只見線の本数の関係上、途中駅で観光をするなら泊まる必要
- 会津川口駅は終点になっている

 もったいない

なぜ現在足りていない？

- 高齢化によって旅館が閉業してしまった
- 新しく始める人が足りていない
- 土地が足りていない

外部から宿泊施設の誘致

- 茨城県坂東市



- 市有地の無償提供
- 税制の優遇
- 下水道使用料の免除
- 多様な資金調達スキーム

出典：<https://travel.rakuten.co.jp/HOTEL/158765/158765.html>

外部から宿泊施設の誘致

Trip Base 道の駅プロジェクト



- 積水ハウス株式会社とマリオット・インターナショナルによる地方創生事業
- 道の駅の隣にホテルを建設

廃校等空き施設の活用

福島県小野町「イトコ」



- 廃校を利用した複合施設
- 一部は宿泊施設で、人が泊まれるようになっている

2. ネットで宿泊施設を見つけられない

問題点

- 宿がないと勘違い
→電車を降りてくれない
- 外国人観光客の方が予約できない
- ネットに情報が少ないと、「なんとかなる」と思えないので行きにくい

解決策：宿泊予約サイト掲載促進

- 広報
- 金銭的補助
 - <掲載料>
 - 楽天トラベル 7~10%
 - じゃらんネット 6~12%
 - Airbnb 3%
 - これに加え、宣伝撮影等をするとならにお金がかかる

駅舎利活用と駅前再開発

背景と課題

- 現状で会津川口駅周辺に来た人が滞在できる場所が、駅構内のわずかなベンチしかない。
- 会津川口駅の事務室からJR職員の方が撤退→町が業務委託をする形になるが、駅施設で町が使える部分が拡大する

→駅もしくは駅前の利活用を考えなければならない！

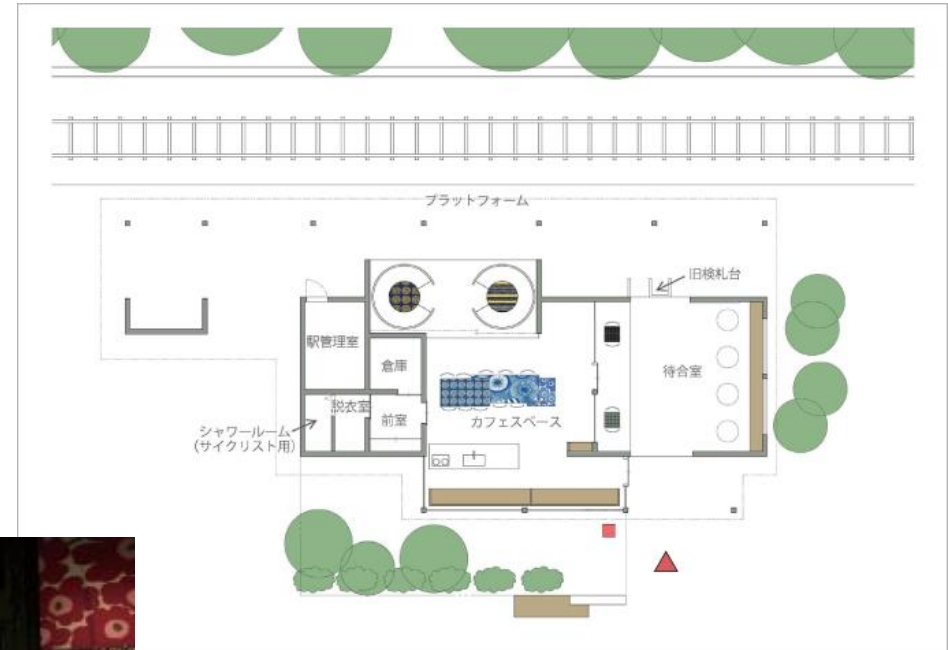
天竜浜名湖線での無人駅利活用

国鉄時代の歴史的建造物保護の目的も兼ねて、天竜浜名湖鉄道として元事務室の利活用を提案：

- 都田駅（駅カフェ）
- 二俣本町駅（駅ホテル）
- 西気賀駅（洋食店）
- 遠江一宮駅（蕎麦店）

都田駅 (静岡県・天竜浜名湖線) miyakoda駅 cafe

- 無人駅のリノベーション
- サイクリストのためのスペースも確保
- 個性的なデザインの実現



駅ホテルの事例（高付加価値）

高野下駅「高野下駅舎ホテル」

（一日二組限定）

- ・翌朝、高野山への参詣ができる立地
- ・レトロさを活用／鉄道部品の配置



出典：<https://thegate12.com/jp/article/306>

二俣本町駅「INN MY LIFE」

（一日一組限定）

- ・浜松にゆかりのある皿、食材などを活用
- ・完全に改装／天浜線一日券付き



出典：<https://basinviews.org/2022/07/29/innmylife/>

シェアキッチンの導入

シェアキッチンとは？

- ホールやキッチンを用意されている空間で、飲食を提供する店だけが交代して営業するシステム。
- 日替わりで、不定期で営業することが可能。
- 出店希望者がそれぞれ営業許可を取得する。

シェアキッチンの導入案

- 休日や繁忙期は、カフェやレストラン。
- 平日や閑散期は、待合室・交流の場
- 観光案内や町民向け本棚を設置。
- コーヒーマシンや自動販売機も設置。
- イベント開催時は出店の基地として。



- ▲高校生が本棚設置（琴電琴平駅）
- ▼コーヒーマシンを設置（相鉄新横浜駅）



出典：

<https://www.asahi.com/articles/ASQ1M75R3PDPPTLC00L.html>

<https://blog.sotetsu-re.co.jp/gourmet/coffee/shinyokohama-rootc-w385-20231024/>

シェアキッチン導入のメリット

- 本棚やカフェが目的で（鉄道以外の目的で）訪れる人が増える。→駅前の賑わいの復活
- JAや郵便局、市役所に来た人がついでに休憩できる→町民の交流の場としても機能
- 閑散期は飲食店を営業しなくて良い→人件費・人手不足の問題なし
- 営業を希望する人が気軽に出店できる。→町内ですでに飲食業を営んでいる方や、近隣や遠方の方が週末だけ出店することなども可能。



▲列車が見える憩いの場となるイメージ

川口以外の駅について

- 会津水沼駅のコミュニティノートには「早戸から歩いてきて、川口へ行く」という人が多数いた。
- 無人駅にスタンプやシールを設けるなどして、駅巡りをするコース作りをするのはどうか
- 長い距離を歩いたり自転車に乗ったりして来た人に向けて、冷水機などの工夫があると尚良い。

二次交通について

現状と課題

- 二次交通が足りず、結果的に町民の方は只見線を使わず、観光客は川口駅で身動きが取れなくなる。
- レンタサイクルなどの施策は効果を上げており、拡充が望まれる。

ライドシェアの導入

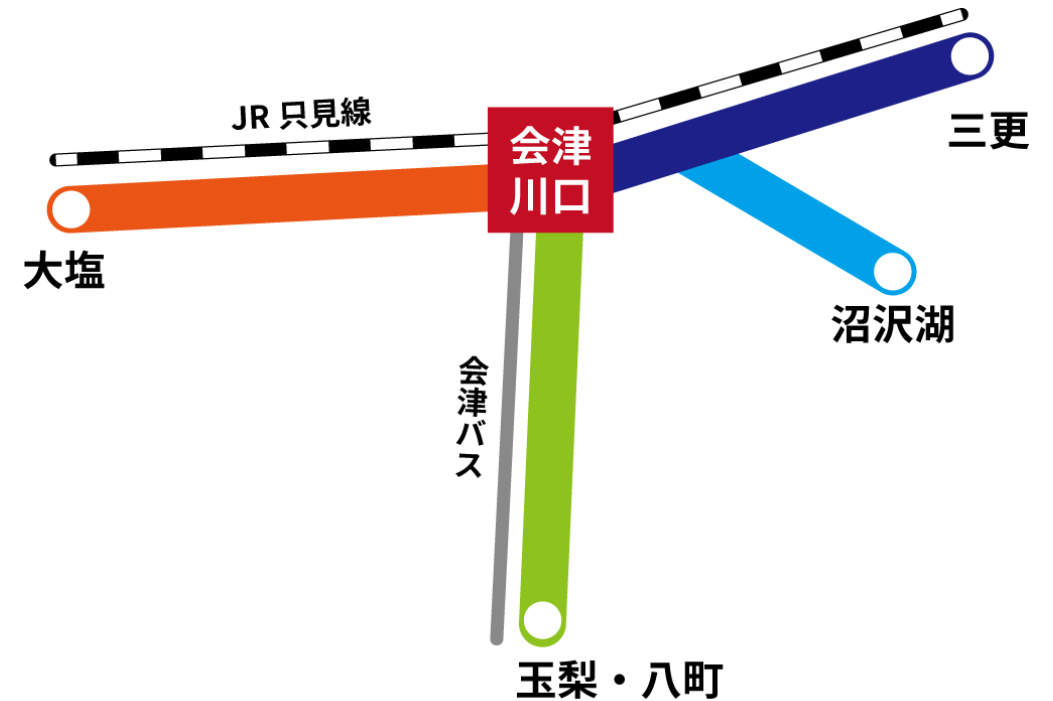
- 一般の乗用車に相乗りする形でタクシーのように使う。
- 海外では活用が進む（Uberなど）
- 日本では2024年から解禁が進む予定。交通空白地帯の補完やタクシードライバー不足への対応がねらい。

ライドシェア導入の今後

- 2024年4月から、タクシー事業者が配車アプリを活用する形で都市部を中心に始まる。
- だが当初の政府の方針では「交通空白地帯に限る」とのことだったので、追って制度設計がなされるはず。6月に全面解禁へ向けた法整備があるとのこと。
- 条件付きではあるが、登録した一般の（二種免許不所持の）ドライバーが有償で送迎可能に。

ライドシェア導入の場合

- 現状の乗合タクシーの増便・現状維持に有効。電話予約に加えてアプリも利用できるが良い。
- バスや鉄道が使えるときはそちらを使うように誘導。
- 鉄道への乗り継ぎ割引を設けるなどの工夫をする。



特定小型原付について

- 時速20km/hまでで走れる原付。
- 電動キックボードが有名。
- 16歳以上なら運転免許がなくても運転できる。

→体力に自信がなくても
周遊できる

既存の交通手段の活用

- 会津バス・只見線・乗合タクシーなどの案内を増やす
- ①玉梨温泉・昭和村方面への観光に使える会津バスのモデルルートを示す
 - + 只見線の時刻表と一体になった時刻表を作る。
- ②レンタサイクルや特定小型原付の乗り捨てをできるようにする。

既存の交通手段の活用①モデルルート

- 玉梨地区でのレンタサイクル利用率が低調→アクセスが難しいから？

【始発コース】

会津若松 6:08 ~ (只見線) ~ 8:05 会津川口 8:23 ~ (会津バス) ~

8:31 玉梨八町温泉→サイクリング：玉梨とうふ茶屋～せせらぎ荘

→玉梨八町温泉 11:44 ~ (会津バス) ~ 11:52 会津川口駅 (昼食)

会津川口駅 15:29 ~ (只見線) ~ 17:47 小出駅

※8:30からレンタサイクルが借りられるようにする

既存の交通手段の活用①モデルルート

【夕方コース】（日帰り可能）

会津若松 13:05 ~（只見線）~ 15:08 会津川口 15:33 ~

（会津バス）~15:41 玉梨八町温泉→サイクリング

→玉梨八町温泉 18:14 ~（会津バス）~ 18:22 会津川口駅

会津川口駅 19:01 ~（只見線）~ 21:26 小出駅

→23:40 東京駅

既存の交通手段の活用①モデルルート

- 接続時刻表がある
とわかりやすい

大芦方面

会津若松から		小出から	
会津若松	6:08	小出	5:36
会津柳津	7:04	只見	7:01
会津川口	8:05	会津川口	8:02

会津川口駅	8:23
玉梨八町温泉	8:31
昭和温泉 しらかば荘前	8:49
大芦	9:15

会津若松から		小出から	
会津若松	13:05	小出	13:12
会津柳津	14:05	只見	14:25
会津川口	14:58	会津川口	15:25

会津川口駅	15:33
玉梨八町温泉	15:47
昭和温泉 しらかば荘前	15:59
大芦	16:25

既存の交通手段の活用②乗り捨て

- 早戸駅でレンタル・乗り捨てを可能に。
※道の駅まで自転車で1時間弱で、概ね平坦な道のり。
- 乗り捨てやレンタルの運用コストが懸念
→ 予め枠数を決めて、事前予約制を導入。
- レンタル時にスマートフォンを利用する仕組みを導入すれば、無人でも貸出可能に。

二次交通をどうするか

1. ライドシェアの導入
2. 特定小型原付の導入
→アプリの導入で無人化も可能
3. 既存の交通手段の活用
→会津バスと只見線の接続をアピール
→早戸駅のレンタサイクル設置

只見線の案内強化に 関する提案

テーマ選定の背景

只見線に初乗車！ したものの・・・

- ・ 景色はとても綺麗だけどポイントがわからない

ガイドの人員不足、電車の案内不足(観光物産協会)

- ・ 各駅の特徴や観光資源がわからない

会津川口駅で下車して困っているお客さんに遭遇

→ 只見線の良さや沿線地域のことを効果的に伝えたい！

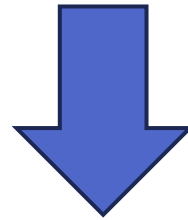
只見線の現状

- 車内でアナウンスや掲示による案内がない
- 絶景スポットでは電車の速度が遅くなるのみ
- 案内はボランティアガイド頼み
- 下車するのが心配になる駅もある
- 二次交通が必須
- 外国人観光客に対するサポート不足



解決策

情報不足による戸惑い、漠然とした不安



「わからないから乗らない、降りない」

「わかる」「興味を持つ」環境づくり

手段

①車内の案内強化



②駅周辺の案内強化



出典：<https://ameblo.jp/syanaihanbai/entry-12642874819.html>

只見線利活用計画における価値

生活を支える交通ネットワークとしての価値

交流人口を呼び込む観光資源としての価値

地域の象徴、誇らしさ、拠り所としての価値

関係人口を生む地域資源としての価値

交通以外で日々の暮らしに役立つ価値

車内の案内強化

① 絶景スポットマップの車内掲出

絶景スポットを一覧にしたマップを車内に掲示する
町民の意見（「推し」ポイント）も取り入れる
→どこで降りるか考えながら車内を楽しめる
絶景スポットの見るべきポイントが**わかる**

車内の案内強化

① 絶景スポットマップの車内掲出



出典：

<https://www.aizu-concierge.com/12282/>

https://www.hanshin.co.jp/?mode=detail&more_no=25

車内の案内強化

②車内アナウンスの実施

只見線の絶景スポットや各駅の紹介を車内アナウンスで流す

(平日や朝晩にも)

→「乗ってみたけどよくわからなかった」を防ぐ

ボランティアガイドの人手不足を軽減

車内の案内強化

②車内アナウンスの実施

事例：

三陸鉄道

あまちゃんのロケ地を解説

万葉線(富山県)

ゆかりの落語家や声優がアナウンス



出典：<https://www.hokkoku.co.jp/articles/-/1036827>

車内の案内強化

③情報源にアクセスできるQRコードの車内掲出

只見線ポータルサイトや各市町の観光情報サイトに
アクセスできるQRコードを車内に掲示

→どのサイトで何が紹介されているかわかる

外国人観光客もアクセスできる

車内の案内強化

④車内広告掲出

沿線地域の企業や施設に車内広告を出稿してもらう

→沿線地域への理解が深まる

只見線の収益の一部になりうる

車内の案内強化

④車内広告の掲出

事例：

いすみ鉄道・秋田内陸縦貫鉄道

コラボ中吊り広告

銚子電鉄：

地元商店の手書き広告



出典：

<https://www.akita-nairiku.com/topics/?p=1877>

<http://sakana0141.blog61.fc2.com/blog-entry-275.html>

駅周辺の案内強化

①看板の多言語化の促進

駅やビューポイントに設置している看板について、

英語や台湾語でも提供する

→外国人観光客も理解できる



駅周辺の案内強化

②写真コンテストとの連動

写真コンテストで応募された写真を駅に掲示

審査に地域の人に参加する

→地域の人、観光客それぞれが只見線の

魅力を実感する

地域人は駅に行く理由ができる

駅周辺の案内強化

③二次交通に関する情報集約

二次交通についての情報を集約して掲示する

→選択肢が**わかる**



只見線利活用計画における価値

生活を支える交通ネットワークとしての価値

交流人口を呼び込む観光資源としての価値

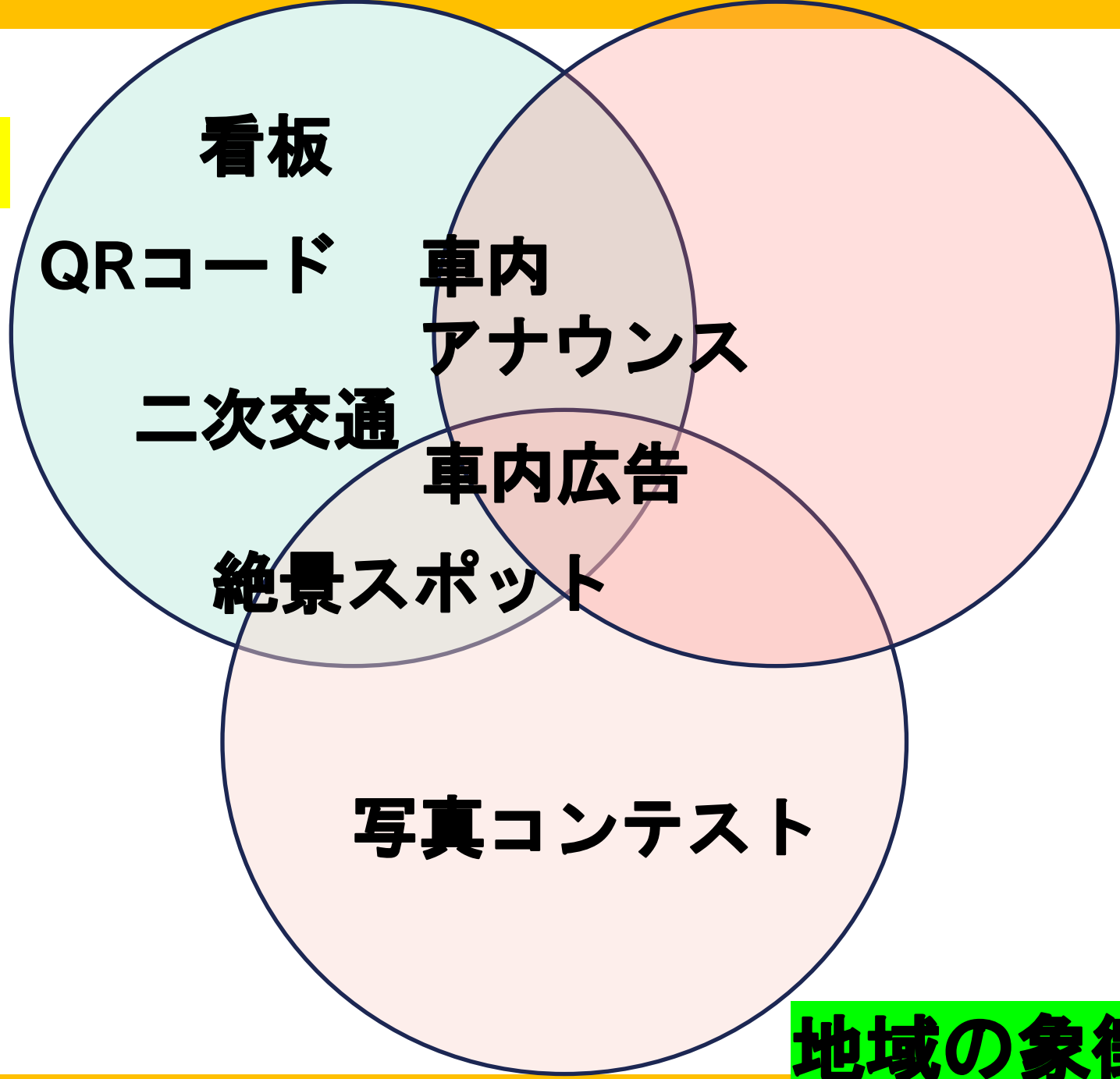
地域の象徴、誇らしさ、拠り所としての価値

関係人口を生む地域資源としての価値

交通以外で日々の暮らしに役立つ価値

交流人口

関係人口



地域の象徴

今後の課題

- JRとの連携の強化
- 取り組み主体の明確化
- 地域活性化起業人制度(総務省)の活用
 - 移住促進・都市農村交流・関係人口
 - 観光振興・観光誘客・DMO設立

まとめ

- 只見線関連施策の評価
 - 宿泊施設の課題
 - 駅舎利活用と駅前再開発
 - 二次交通
 - 只見線の案内強化
- ➡ 只見線全線再開通で取り戻した金山町の賑わいをいつまでも・・・



JR 双葉駅
Futaba Station

福島県双葉町

～空き地活用とデジタルマップを通じた関係人口の創出～

滝川誠人 田代智哉 富田美穂 西山奈那

0. 目次

1. 双葉町の概要・活動のテーマ
2. 第1回現地活動
3. 第2回現地活動
4. 提案の概要
 - 4.1. 空き地の活用
 - 4.2. デジタルマップ
 - 4.3. 提案を通じたつながり
5. 今後の展望・課題
6. 活動で学んだこと



1. 双葉町の概要・活動のテーマ

データ

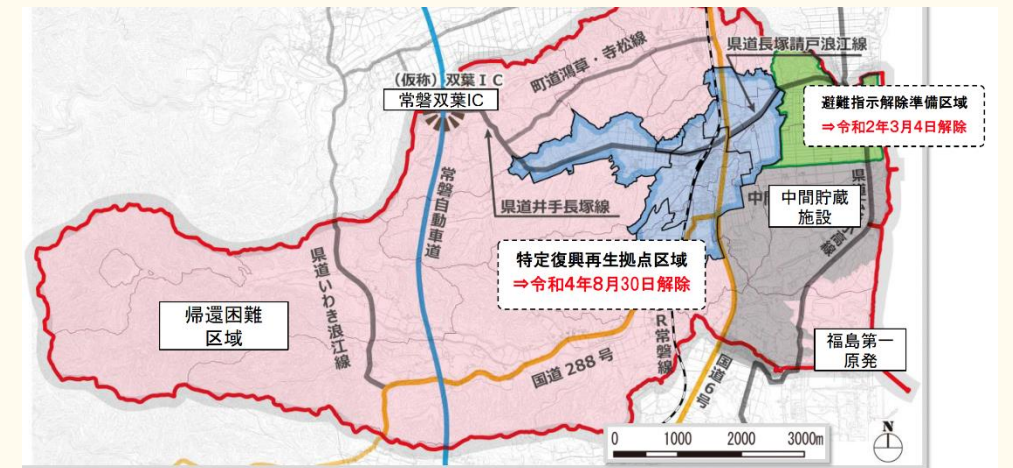
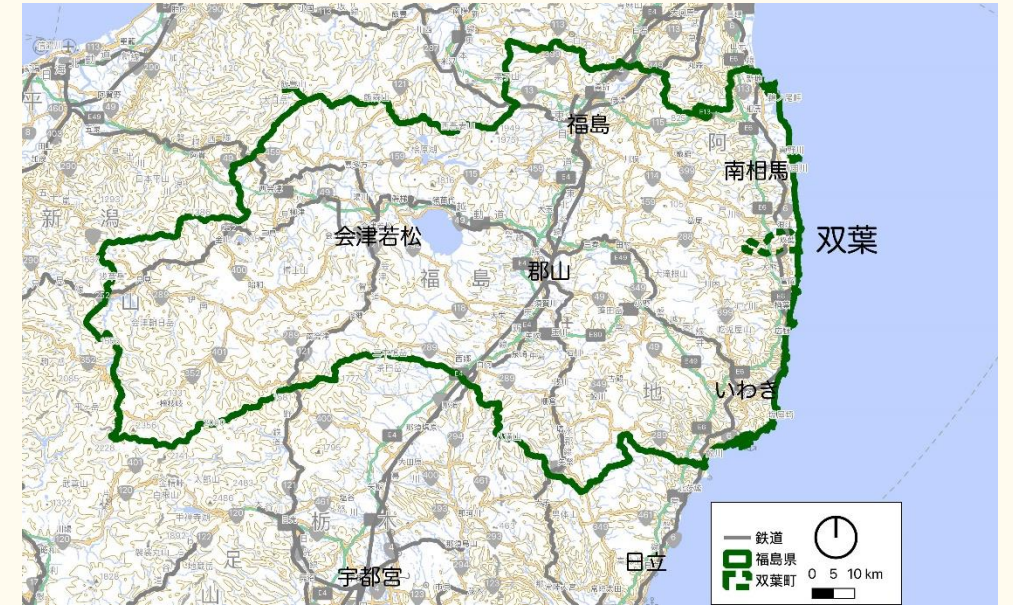
面積：約50km²

人口：6939人（2011年3月末）→ 5420人（2024年1月末）

アクセス：常磐線特急で東京から3時間、仙台から1時間半

現状

- ・ 2022年に面的に避難指示が解除、町内で役場再開
今も**約85%が帰還困難区域**
- ・ 2023年8月時点で**町内で暮らす人は86人にとどまる**
- ・ 2023年8月、旧特定復興再生拠点区域内の建物解体の申請期限を迎え、駅周辺もこれから大きく変化
- ・ 2025年度、スーパーやカンファレンスホテルが開業予定



1. 双葉町の概要・活動のテーマ

震災前

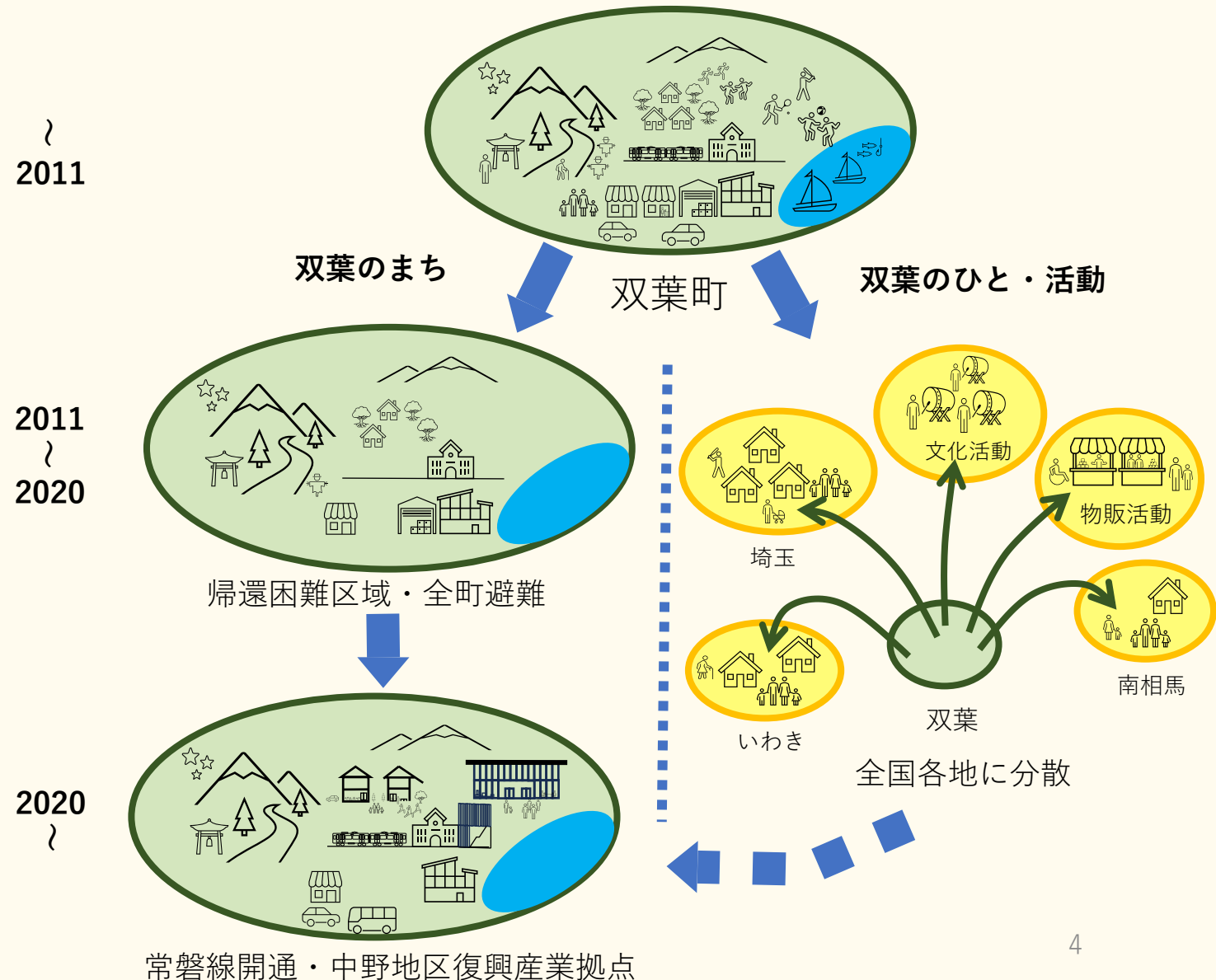
- ・双葉のひとが双葉のまちで活動

震災後

- ・双葉のひととまちが分離
- ・町民はいるが、いわき・加須など小さなまとまりで分散
→双葉のまちの外で生活基盤築く
- ・双葉のまちも大きく変化

活動のテーマ

- ・空き地を舞台に、小さくても将来の関係人口づくりに繋がる「面白い」「可能性がある」と思える活動の検討



2. 第1回現地活動（2023年8月28日～30日）

1. 双葉町の視察

- ・震災時から残る建物や取り壊しでできた空き地
- ・中野地区復興産業拠点の伝承館・産業交流センター



2. インタビュー

- ・復興の途上の双葉町で活動する方々にインタビュー
 - ダルマ市の主催者
 - 二拠点で暮らす元々の町民
 - 震災後に越してきた町民



3. 双葉町外の視察

- ・富岡町：東京電力廃炉資料館
- ・大熊町：福島第一原子力発電所
- ・浪江町：震災遺構の請戸小学校
 - なみえスマモビ
 - 浜通り地域デザインセンター



3. 第2回現地活動（2024年1月6日～7日）

1. ダルマ市視察

- ・ 双葉町で**300年続く**ダルマ市
- ・ 出店やダルマ神輿・ダルマ引きの視察を通じて**地域の賑わい**を体感

2. インタビュー

- ・ ダルマ市の来訪者にインタビュー
新成人
避難先（加須市）の自治会長
町内外在住の町民
URの復興の方

3. 町外での活動

- ・ 双葉町役場いわき支所の方にインタビュー



1日目のダルマ引き



2日目のダルマ神輿



初發神社のどんと焼き



加須の自治会長へのインタビュー

4.1. 提案の概要 ～空き地の活用～

1. 双葉町民の居場所

対象：町内外に暮らす町民、震災時に幼かった町民

目的

- ・ **交流の場の提供**

双葉に**町民の帰る場所がない**という声を反映

手段

- ・ 元医院やコミュニティセンターの更なる活用
- ・ 空き地は常設の**施設の補完用地**として、
ダルマ市や盆踊りに合わせイベント開催
→ワークショップで町民や学生が
使い方を**考え実践する場所**へ



新たに交流施設となる大正期の建物（元診療所）



双葉駅横の使われていないコミュニティセンター



駅周辺の空き地

4.1. 提案の概要 ～空き地の活用～

2. 学生などが双葉を感じる場所

対象：学生など双葉町で活動する人、震災以後の来訪者

目的

- ・被災地の一つとしてではなく、双葉町に来た意義を体感

双葉らしさ：海、暖かさ、ゆっくりした雰囲気

手段

- ・双葉の自然など、**変わらないものを体感**できる空き地を活用
- ・元々田畑の場所では、建物がないこと自体は特別でない

体験（既存）

- ・スーパーゼロミル工場見学
- ・新型移動サービスの体験
- ・展望台



4.1. 提案の概要 ～空き地の活用～

2. 学生などが双葉を感じる場所

体験（新規）

- ・ ブロッコリーの作付け：**コト（農業） + モノ（名産品へ）**
- ・ ギャラリーアート：**自由さ**
- ・ 海水浴場を生かした海体験
- ・ スポーツ施設などの整備
- ・ 散策コースの設定
- ・ スタンプラリー
- ・ 大熊など近隣との共同企画
- ・ 広く見晴らしの良い平らな土地



双葉町のブロッコリー
(出典：ふたばプロジェクトサイト)
(<https://futaba-pj.or.jp/2023/12/27/双葉町でのブロッコリー栽培についてインタビュー/>)



農業のイメージ
(出典：朝日新聞デジタル)
原発事故後初めて、地元農家が試験栽培の水稲を収穫した=2021年9月22日午後1時25分、福島県双葉町下羽鳥、古庄暢撮影



4.2. 提案の概要 ～デジタルマップ～

1. 震災後の双葉のひとの活動を記録

対象：町外に暮らす町民、学生など双葉町で活動する人

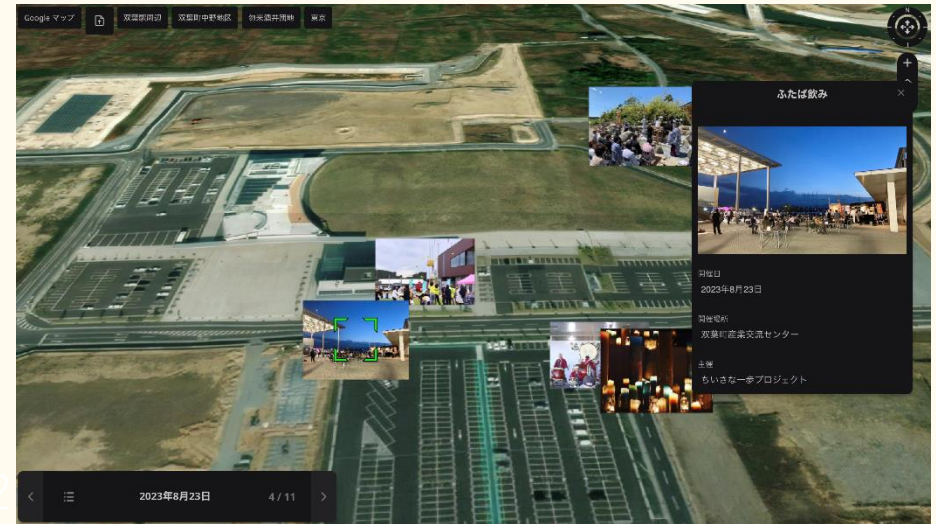
目的：関係人口の見える化

町外の人にまちでの活動を周知

活動の知見を引き継ぎ

手段：活動した学生が概要と写真を地図上に投稿 2024-02

ふたばアプリを用いて町民にも通知



双葉町での活動について開催順に記録したもの

2. 震災前後のまちの変化を記録

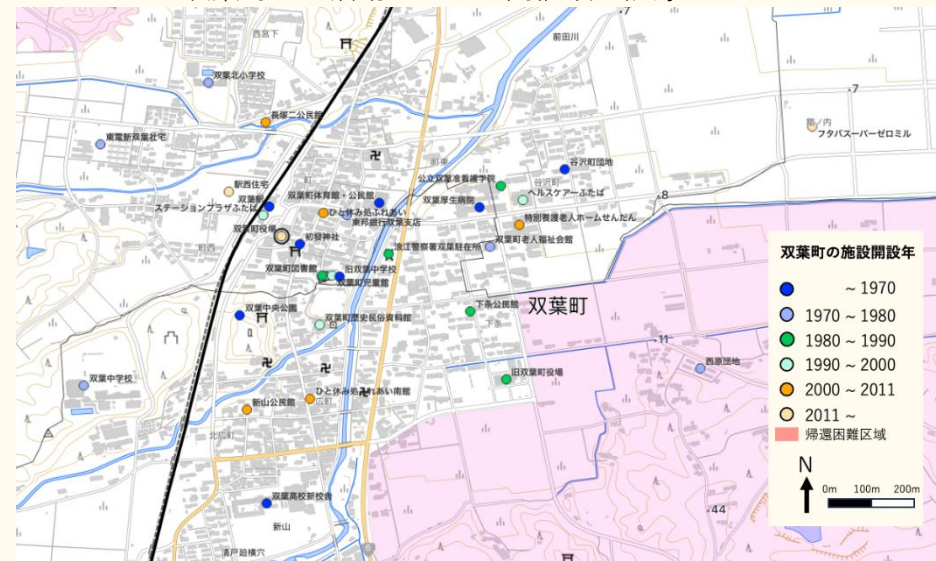
対象：震災時に幼かった町民、震災以後に訪問した人

目的：双葉のまちの場所性を伝承

活動のヒントに

手段：施設を開設順に地図化

土地の思い出も投稿



双葉町でのまちの施設について開設順に記録したもの 10

4.2. 提案の概要 ~デジタルマップ~

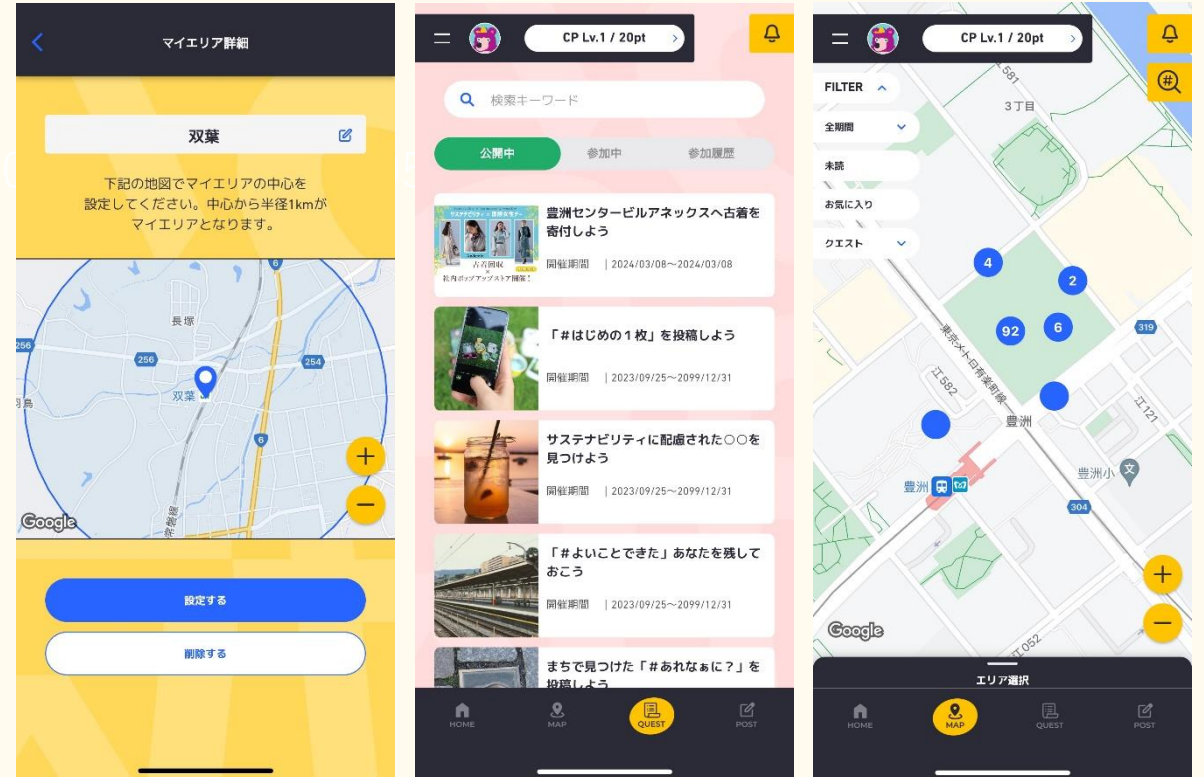
3. 既存アプリとの連携

ふたばアプリ (双葉町)

- ・ **町民**にまちでの学生等の活動も共有・周知

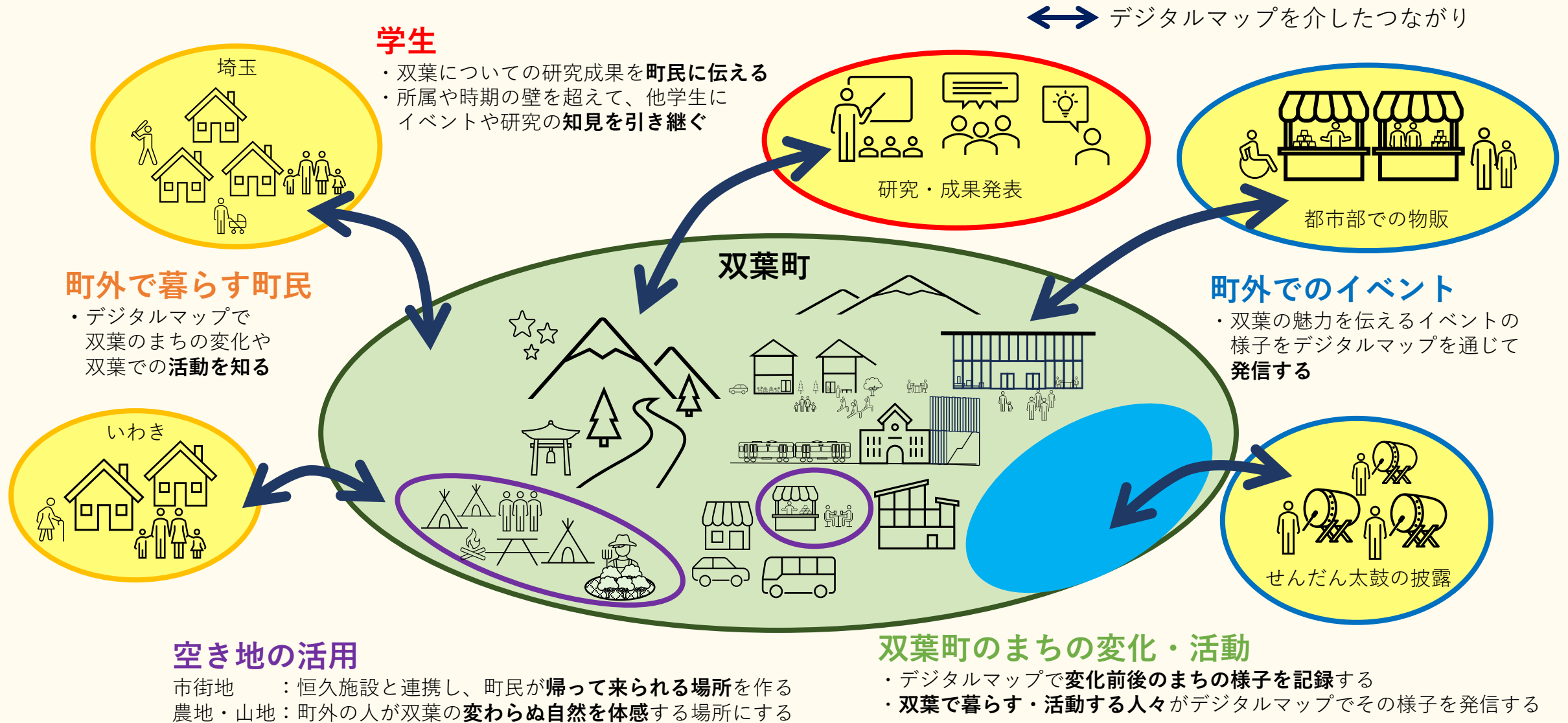
fowald (NTT DATA)

- ・ **離れた場所**での活動や様子を記録・共有



4.3. 提案の概要

～提案を通じた町内外のつながり～



5. 今後の展望・課題

双葉のひと

- ・今年度に20歳を迎えた町民が震災前の双葉町で学んだ最後の世代
→町の思い出が薄い町民とどう関わっていくか
- ・デジタルマップや空き地は多少の関心のある人には有効
→積極的に関係人口創出に貢献できるアプローチはあるのか

双葉のまち

- ・商業施設開業や町内での学校再開など今後更なる変化が見込まれる
→関係人口となる人に、どのようにかつての町の様子を伝えるか
→元々の町民も訪れられる場所になるのか

6. 活動で学んだこと

- 双葉町で**活動する学生や企業が多い**中で、新たな提案をすることの難しさ
知識や経験が共有されると今までになかった活動にもつながるのではないか
- 街を実際に**複数回訪れる**ことの重要性
第1回現地活動では震災前後の変化・復興にばかり注目していたが、第2回現地活動では震災以前のふつうの町の賑わいの様子を垣間見ることができた
- 町外からの視点、町内からの**視点の両立**
大学生、県や浪江町など近隣からの声と、元町民や現在の住民、いわき支所長などの声には、「まち」「原発」「未来」に対する意見で内部にも外部にも違いが見られた
- **持続**の必要性和難しさ
復興による一時の回復に終わらず、定着できるか、能登での甚大な被害後も**双葉に目を向けられるか**

6. 活動で学んだこと

- データはかなりあるが、**発信が難しい**
街としては住民の意向や動向をかなり把握できているように見えるが、伝えたいことが全て伝わるようにするのは今なお模索が続けられている
- **産業と仕事**の人口吸引力
工場や役所、商業施設や宿泊施設の機能があることは足掛かりとして重要
- 目先の復興に忙しく**将来像**を描きにくい
人口2000人以外の目標が見えづらく、ターゲットの絞り込みが未完成
- 伝承してくれる人や物の大切さ 百聞は一見にしかず
情報収集は遠隔でもかなりできる時代だが、手足を動かして、リアルで見て感じるものもある
インタビューを受けてくださった方や関係してくださった全ての方に感謝

東大FS 学内報告会 富山県黒部市東布施地区

郝思璐(学際情報学府学際情報学専攻)、
川田真弘(法学部4年)、福田颯(法学部4年=文責)、
土屋皓平(法学部3年=文責)、西野清花(文学部3年)

2024年3月15日(金)

黒部市について

- 人口**39,647人** (2024年1月末現在;市HPより)
- 東京駅から新幹線で**2時間半弱**
- 金属メーカー **YKK** の本社が立地
- 名水から山まで、**観光資源**も豊富



東布施地区について

ふせんたん

- 布施川の扇状地(布施谷)に形成された集落

- 人口**966人**(2023年12月末現在;市HPより)

※2013年12月末は1,235人

- 高齢化率**39.6%**(2020年国勢調査による)

- 小学校は閉校、保育園も**今春閉園**を予定

- 現在、**地域活性化**に傾注

▶現地活動時に宿泊した
ゲストハウス「未完なサン」
(元・地域おこし協力隊の
小澤泰史さんが運営)



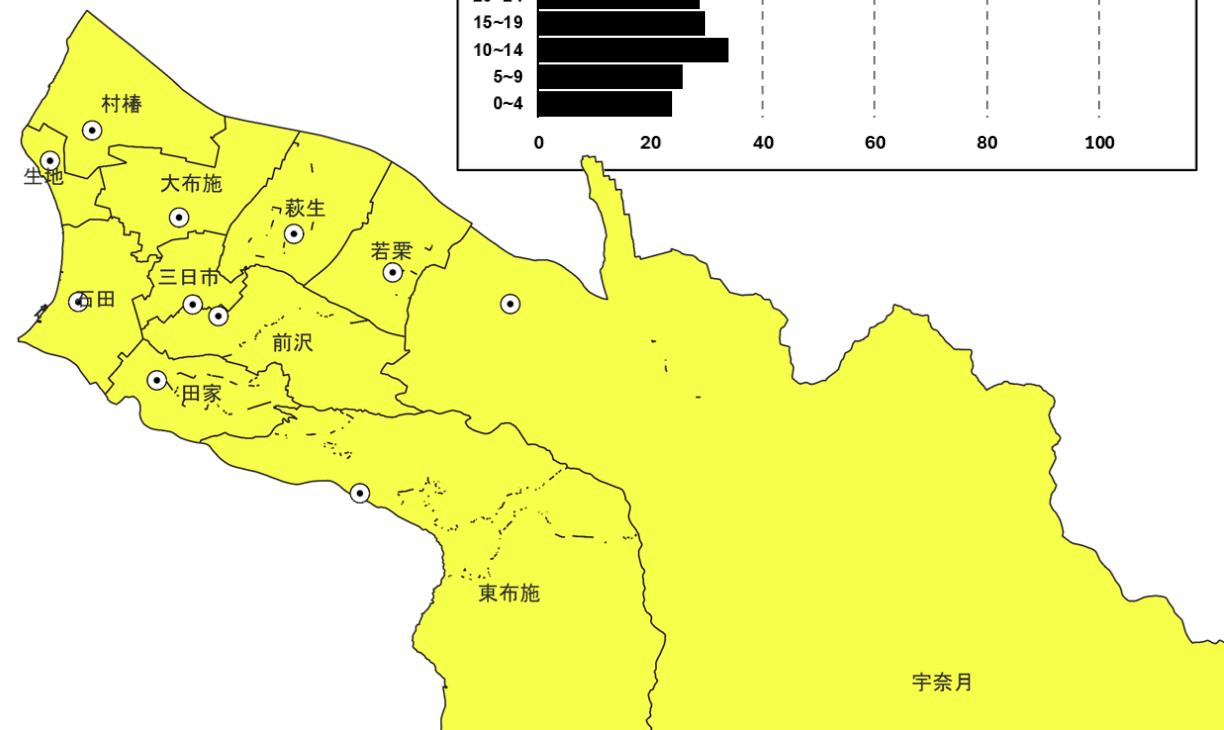
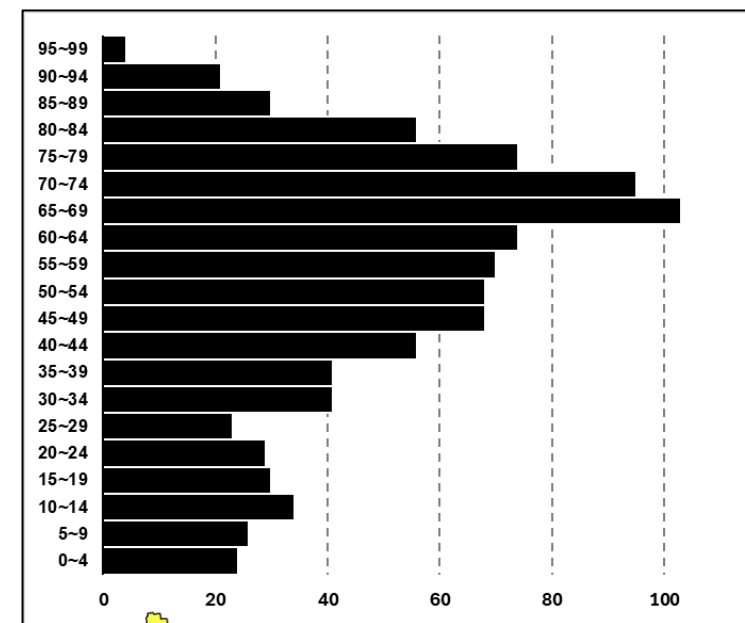
東布施地区の課題

- まとめると、**少子高齢化と人口流出**

→ 2021年、「みらい会議」で**アクションプラン**を策定(後述)

地区	人口 (2023年12月)	10年増減 (対2013年12月比)	長期居住者 (20年以上)
生地	3,526名	-13.8%	64.2%
石田	5,635名	-6.7%	50.8%
田家	3,043名	-2.0%	51.3%
村椿	2,745名	-5.8%	65.9%
大布施	6,436名	+9.9%	47.7%
三日市	5,071名	-9.3%	50.0%
前沢	2,325名	-1.9%	59.2%
萩生	3,336名	+1.5%	55.6%
若栗	2,022名	-11.0%	64.1%
東布施	966名	-21.8%	75.4%
宇奈月	4,592名	-17.9%	66.5%

▼地区の人口ピラミッド(2020年)



東布施地区の課題；みらい会議

- ① 地域住民が楽しく暮らせる交流の場やイベントを考える
＜住民交流＞
- ② 子どもの声が聞こえる暮らしやすい地域を創る
＜子育て・住みやすさ＞
- ③ 豊かな自然を活用した体験、人を呼び込める観光・特産品を考える
＜自然体験・観光資源・特産品＞
- ④ 住民を増やしたい！人口増加、移住定住を考える
＜移住・定住促進＞
- ⑤ 東布施の自慢できる場所・コト・人を探す
＜地域PR・情報発信＞

➡ この5つのテーマに沿って、地域の今後を考えることに…

東布施地区の課題；みらい会議

「**みらい会議**」(2021):5つのテーマに沿って、地域の今後について議論

■ 第1回

◆ 地域の課題分析

自然をはじめ、地域資源は豊富 ↔ 人口減少に歯止めがかからない状況

◆ どんな地域にしたいか

「賑わいが欲しい」、「自信の持てる地域に」、「クマ・サルの被害をなくしたい」、...

■ 第2回

◆ まちあるきテーマを中心に、アクションプランの弾出し

↳ 4つの視点 … 地域の宝物 資源を活かせるアイデア 課題 解決方法

■ 第3回

◆ 各テーマを具体化したアクションプランをまとめた(p.10参照)

➡ 新公民館を中心に一部の事業は進展 しかし、まだ着手できていないものも...



➡ 今回のミッションは、「**アクションプランの再構築**」

現地活動；全体像

- 第1回；8月14日-16日

- ・ まず地域と人を知る
- ・ 地域資源－**獅子舞**見学/山菜料理の試食
- ・ 地域課題－座談会で幅広い年代層と接触
 - ➔ 人手不足が根本(山菜の収穫/竹「害」)



- 第2回；11月4日-5日

- ・ 地域課題解決の糸口をさぐる
- ・ ピンチをチャンスに …**竹と山菜**に注目
 - ➔ **東布施フェス**；竹工・山菜料理の体験
- ・ 地域内からは気付けない魅力を再認識



- 第3回；3月8日-10日

- ・ 今後につながるきっかけをつくる
- ・ 提案内容をまとめ、**現地報告会**で報告・議論
- ・ 「**東布施めぐり**」で外部住民との「関係」へ
 - ➔ 地域の魅力をパッケージ化して紹介する

現地活動 (1回目 ; 8/14~16)

テーマ: まず「地域と人を知る」こと

- 地域を知る…車で地区内外を視察し、**黒部と東布施の魅力**を知る

地域の魅力の例 – 伝統文化(**獅子舞**見学)、美しい田園風景 (先掲の画像)

- 人を知る…帰省中の家族も含めた**流しそうめん大会**、Zoomでの交流

- 地域課題を感じる…市長や振興会の方々と交えた座談会で気付いたこと

- ◆ 人手不足により、地域資源の維持が難しくなっている ~ 山菜の収穫、竹「害」、炭焼き
- ◆ ピンチをチャンスに、という発想



地域活性化に向け東大生と意見交換
黒部・東布施 | 地域 | 富山のニュー...

www.hokkoku.co.jp



東大生が活性化提案へ 黒部・東布施
伝統の獅子舞に参加 | 学校・...

www.hokkoku.co.jp



現地活動（2回目；11/4～5）

テーマ：自分たちで考える、「地域課題解決の実践」

- 注目した地域資源として、**竹と山菜**

しかし、地域外に知られていない + 地域内でも継承されていない
➡ 知らない・使わないと、途絶えてしまうリスクが高まるのでは…？

- 「**東布施フェス**」：地域資源をもとにした、交流の試み

竹工体験と山菜創作料理のワークショップを開催し、内外の方々と交流
➡ 富山市内から親子連れも訪れるなど、
地域にいと「当たり前」で気付けない魅力もある、と再確認

- 2回目に気付いた新たな地域の魅力

- ◆ 廃校の屋上から見渡せる眺望・秋の風景
- ◆ 農村における「暮らし」自体の価値
- ◆ 黒部市の移住促進の活動「あお～よ」



現地活動（3回目；3/8～10）

テーマ：現地報告会+「きっかけをつくる」活動

- 地域内の交流+FSの成果を示す行事として、地区の**マップづくり**

地域資源は想像以上に多いが、情報が一元化されておらず、観光につながらない

➡ 住民の方々から情報を集め、「一緒に」地域を紹介するマップを創り上げる + ネット等で公開

- 外部の方々から東布施と「関係」を持つきっかけとして、「**暮らし体験**」

マップづくりの成果も踏まえて、地域の方々とともに、ありのままの東布施を体験するイベントを実施

➡ 定員の3組7名の方々にご参加いただいた

- 今後の展望

- ◆ 今回のカジュアルな「みらい会議」をモデルプランとして、地域住民の方々が気軽に交流できる機会をつくってもらう
- ◆ 後述するようなアクションプランの提案を通じて、来年度以降すぐに、地域で動き始められるようにする
- ◆ FS終了後も一個人として東布施とつながりたい

※地域の人と完成させたものは当日掲示



提案に向けて ; アクションプラン 再構築の戦略

■ 提案の方向性

- a. 事業案のブレスト…たくさんのアイデアを出す
- b. 事業案の具体化…一部の計画をブラッシュアップ

➡ まずa.を、次に地域の人と話し合っ**て**b.を

■ 再構築にあたってのチェックポイント

・ アクションプランの構造



1. 「事業として成り立つか?」; 夢を見過ぎても成り立たない
2. 「事業と夢はつながるか?」; 事業のための事業ではいけない
3. 「夢について合意はあるか?」; 誰がための、何のための事業か

① 新公民館に集まれ みんなでハッピー

新公民館でのイベント: 布施谷まつり、花見会、ウォーキング、毎月1回おしゃべり会: カフェ、保育所との交流

② 寄って来られ 東布施!!

公民館の事業拡大: 保育所や体育館とのタイアップ
そばレストラン: 山菜そばや地元野菜の販売コーナー

③ 自然満喫布施の郷

田籾棚田周辺ウォーキング: 放棄田への植樹も
布施側ダム周辺キャンプ: BBQやソロキャンプ

④ 待ってるよ! 体験の里 東布施

親子で出来る木工体験: コースター・椅子(澤田さん)
スノーシュー体験: 初心者と中級者に分ける

⑤ きてみてすみたい 東布施!

旧東布施小グランド・校舎の開放: アトリ工展示、キャンプ場にも?
空き家活用移住体験会: 三大伝統行事の時期に、マップ作りも

提案に向けて ; アクションプラン 再考

～「みらい会議」で出された事業案

守り？

1. 住民交流

地域住民が楽しく暮らせる交流の場やイベントを考える

新公民館イベント
月1回のおしゃべり会

攻め？

4. 移住・定住促進

住民を増やしたい！
人口増加、移住定住を考える

廃校グラウンド・校舎の解放
移住体験会

➡ 学生の着眼点

守り(今の住民が幸せに暮らす)と
攻め(これからの地区をまもる)の
両方を意識して、「住みやすさ」
「地域資源の活用」「情報発信」を
進めるような再構築

例(子育て): 今の子供の利便性確保
+ 今後移住する人の懸念払しょく

2. 子育て・住みやすさ

子どもの声が聞こえる
暮らしやすい地域を創る

新公民館での事業拡大
「そばレストラン」△

3. 観光資源・特産品

豊かな自然を活用した
体験、人を呼び込める
観光・特産品を考える

田柵棚田周辺ウォーキング
布施側ダム周辺キャンプ

5. 地域PR・情報発信

東布施の自慢できる
場所・コト・人を
探す

親子のできる木工体験
スノーシュー体験

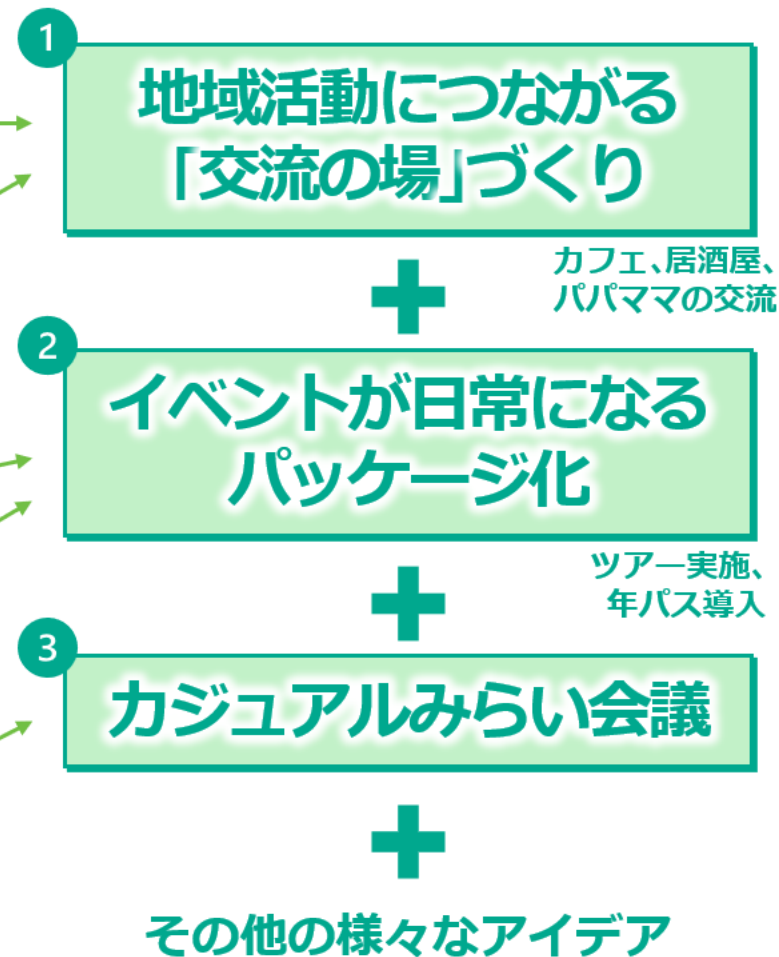
前に進まない「夢物語」
ではいけないが、「はしご」
をかければ届くような、
イメージできる程度の
事業案を考えたい

提案の概要

従来のアクションプラン

- ① テーマ 地域住民が楽しく暮らせる交流の場やイベントを考える
プラン 新公民館に集まれ みんなでハッピー <住民交流>
- ② テーマ 子どもの声が聞こえる暮らしやすい地域を創る
プラン 待ってるよ! 体験の里 東布施! <子育て・住みやすさ>
- ③ テーマ 豊かな自然を活用した体験、人を呼び込める観光・特産品を考える
プラン 自然満喫 布施の郷 <自然体験・観光資源・特産品>
- ④ テーマ 住民を増やしたい! 人口増加、移住定住を考える
プラン きてみて すみたい 東布施! <移住・定住促進>
- ⑤ テーマ 東布施の自慢できる場所・コト・人を探す
プラン 寄って来られ 東布施!! <地域PR・情報発信>

学生からの提案内容



※ テーマとアクションプランは必ずしも一致していませんが、仮で当てはめたものです

提案① ; 地域活動につながる「交流の場」づくり

■現状の課題

- ◆ 地域活動に参加する住民が少ない
→ だから賑わいがないと感じるのでは？(学生の観察)
- ◆ 集まりたいときに集まれる場所がない
→ 新公民館はできたが、使いにくい？
- ◆ 人口流出、空き家問題
→ 若手の「住みやすさ」とも関係？

飲み屋までとおく、タクシー代が高くつく
(第1回みらい会議 3班)

若い人が地域の集まりに出てこない
(第1回みらい会議 1班)



■今後の方向性

- ◆ より多くの住民で地域活動を支えられるようにするため、子育て世代も含めた「交流の場」をつくり、賑わいをつくる
(公民館や空き家などを活用した、カフェ・居酒屋)

提案① ; 地域活動につながる「交流の場」づくり

より多くの住民で地域活動を支えられるようにするため、子育て世代も含めた「交流の場」をつくり、賑わいをつくる

■いまのプラン ~ なぜ進んでいないのか？

◆新公民館イベント 月1回おしゃべり会開催

2022	2023	2024
・実行委員会の開催、内容検討 ・PR、協力者集め(車の確保) ・お話し会の開催	・送り迎えの準備(バスなど) ・おしゃべり会、さわやか東布施の開催 ・保育所との交流	・協力金でカフェ東布施を運営 ・反省会

◆東布施トレーニングセンター「寄ってみられ! そばレストラン!」

2022	2023	2024
・メンバー集め、試食会 ・先進地の視察、マップの作成 ・食材調達計画	・各種申請 ・資金調達 ・リフォーム、看板設置	・情報発信(回覧板/広報誌/HP) ・メニュー・販売品目決め ・プレオープン

■プランの再構築に向けて

- ◆「**誰が**」、「**どこで**」やるか、**資金**などのすり合わせ
- ◆住民みんなが**集まりたくなる**ような工夫(若手・子育て世帯を含む)
- ◆簡単で良いので、「**まず、やる**」ということ

提案① ; 地域活動につながる「交流の場」づくり

より多くの住民で地域活動を支えられるようにするため、子育て世代も含めた「交流の場」をつくり、賑わいをつくる

■ スケジュール

2024	2025	2026
<ul style="list-style-type: none">・「公民館カフェ」をオープン (毎月1度、曜日や日付を固定して開催)・メニューは簡素なものでOK (コーヒーマシンを置くだけ、など)・絶対に誰かがいる、という安心感が大事 → 当番を決めて、必ず2~3人が参加・カフェのPR、若手世代へのアピール (公民館の体育館開放と同時開催など)	<ul style="list-style-type: none">・公民館カフェの参加者を増やす (企画の実施、イベントとの連動など)・入口になりやすいイベントを同時開催 (山菜料理の試食会など)・地域活動に向けたアンケートを展開 → 地域の担い手になってもらう・食事の持寄りや有料提供に発展させる → 居酒屋をできる! という自信に	<ul style="list-style-type: none">・「空き家居酒屋」のプレオープン (以下、形はいろいろあり得るが…)・空き家の募集、片付け・運営委員会を立ち上げ → 交代で一日店長を募集、運営・居酒屋を開業する人を募集 → 夜も明るい、にぎやかな街に!

■ 課題など

- ◆ 現地報告会で住民と話し合い → 新しいアクションプランとして策定

提案② ; イベントが日常になるパッケージ化 (ツアーの実施)

■ 現状の課題

- ◆ **豊富な地域資源**を活かしきれていない
 - ～ 美しい田園風景などは、「どこにでもあるイナカ」ではない!
- ◆ 観光に対するハードルを感じている
 - ～ 東布施の「当たり前」は、都会の人の「当たり前」ではない
 - ⇒ 日常を切り取るだけで、**イベントは簡単に成立するはず**
- ◆ イベントの**担い手が不足**している
 - このままでいいのか、外部との関わりを求めるのか、コンセンサスがない

■ 今後の方向性

- ◆ 東布施各所で日常にある、四季折々の魅力をパッケージ化することで、関係人口を増やし、住民とともに楽しく生活できるようにする

提案② ; イベントが日常になるパッケージ化 (ツアーの実施)

東布施各所で日常にある、四季折々の魅力をパッケージ化することで、関係人口を増やし、住民とともに楽しく生活できるようにする

■ 具体的な手段

◆ 地域内外から参加できるように、**イベントを改良**する

- 内外の人たちが一緒に取り組めて、継続的に活動できるような、楽しみやすくて間口の広いイベント
- 「地域の人がワイワイ集まっているなかで、外部の人にも楽しんでもらう」というイメージ

例えば・・・

料理教室(今は主に地域外向け)→「定期的に(地域内外の)若手世代に伝統料理を教える」

ノルディックウォーキング(今は主に地域内向け)→「他地区と協力して、互いの地域を回る」

◆ 東布施の様々な地域資源・イベントをまとめて、**パッケージ化**する

⇒ 内外から参加者が集まりやすくなる

■ 「**東布施めぐり**」(2023/3/9~10)

◆ 主催・ゲストハウス「未完なサン」=企画・東大FS生でツアーを実施

◆ 地域でいつもしていることを、外部の方々に体験してもらう企画(次頁に写真アリ)

提案② ; イベントが日常になるパッケージ化 (ツアーの実施)

東布施各所で日常にある、四季折々の魅力をパッケージ化することで、関係人口を増やし、住民とともに楽しく生活できるようにする

■「東布施めぐり」(2023/3/9~10)

◆地域でいつもしていることを、外部の方々に体験してもらう企画



一日目
14:30~ そば打ち
15:30~ 地域めぐり
17:00~ 山菜料理体験
19:30~ 獅子舞練習会参加



二日目
9:00~ 川魚釣り
11:00~ 地域の方のお話を聞く会
12:00~ 炭焼き小屋BBQ
14:30~ 移動・解散



提案② ; イベントが日常になるパッケージ化 (ツアーの実施)

東布施各所で日常にある、四季折々の魅力をパッケージ化することで、関係人口を増やし、住民とともに楽しく生活できるようにする

■ スケジュール

2023	2024	2025
<ul style="list-style-type: none">・「東布施めぐり」、適宜反省会・報告会・「マップづくり」(空間の視点)・これまでやってきた生業やイベントのうち、使えるものを洗い出す(報告会当日)	<ul style="list-style-type: none">・時期を決め、ツアーを定例化する → 地域を訪れる人が増える・「カレンダーづくり」(時間の視点) → この時期にこんなイベントが!と住民が認識・マップやカレンダーを外部へPR (Instagramなどを活用)・実施主体を決めたり、受けられる支援を調べたり、持続化に向けた取り組みを行う (実施主体間の会議も)	<ul style="list-style-type: none">・いつでもイベントをやっている東布施、という状況を実現し、イメージを市内に広める → 「この土日暇だから東布施へ行こうか!」へ・イベントの年間パス、回数券を導入 (何度も地域を訪れてもらうため)・少し準備の必要なイベントも導入してみる (例: 自由研究を東布施でやろう!)・引き続き持続化へ向けた取り組みを継続

■ 課題など

- ◆ 現地報告会で住民と話し合い → 新しいアクションプランとして策定

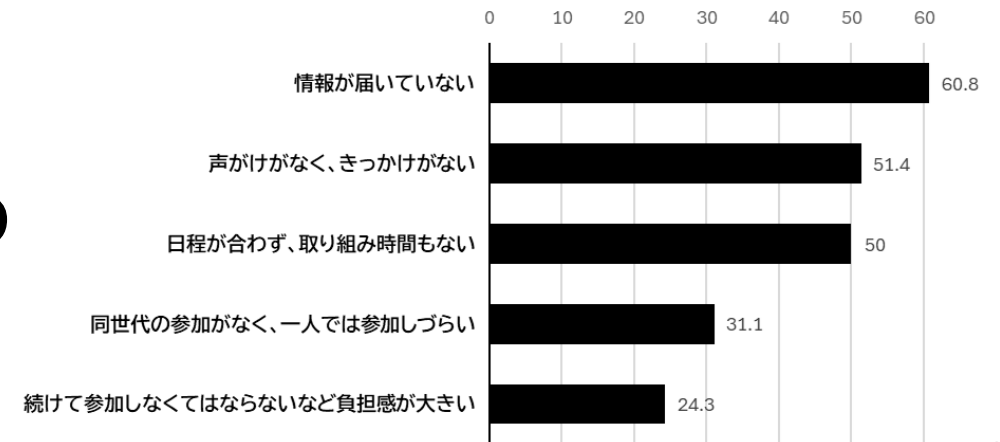
提案③ ; カジュアルみらい会議

■ 現状の課題

- ◆ 地域の色々な活動にまとまりがない？
～ 振興会、公民館、黒部の里山ふせんたん、体協、伝統文化、、、
- ◆ 住民が話し合いの場に来ていない
→ 想定される原因・・・**堅苦しいイメージ**、情報不足(「知らなかった」人も?)

■ 今後の方向性

- ◆ より住民が参加しやすい、敷居が低い形での「カジュアルみらい会議」を継続的に開催し、様々な地域活動の窓口とする



札幌市アンケート「地域活動に参加したことがない理由」
(2018年発行、「あたらしい町内会へ」)より

提案③ ; カジュアルみらい会議

より住民が参加しやすい、敷居が低い形での「カジュアルみらい会議」を継続的に開催し、様々な地域活動の窓口とする

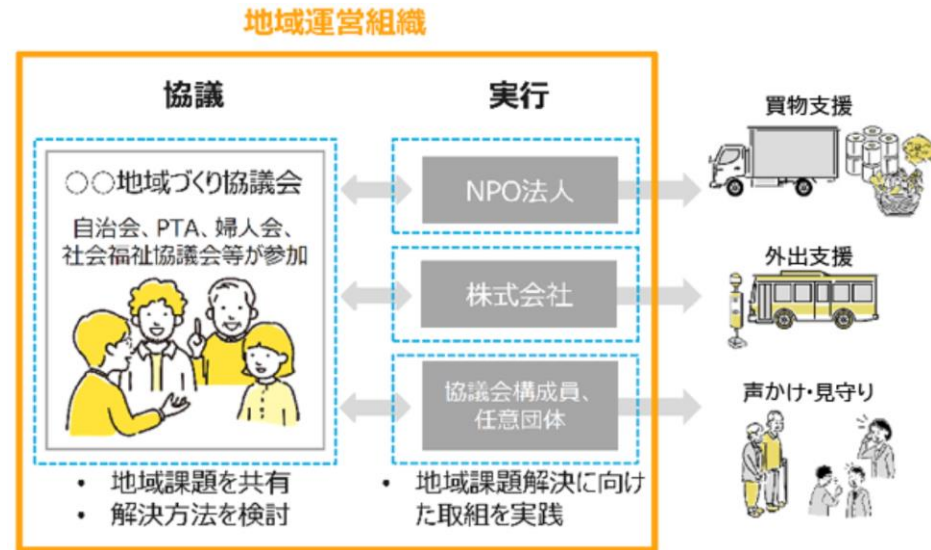
■ 具体的な手段

◆ 会議の母体として、**地域運営組織の設立**も選択肢に

- とにかく新たに加わりやすい形で話し合いを行っていくことが重要
→ 集まる理由をつくっておく(例「カレンダーづくり」、写真コンテスト、...)
- PTAなどの団体から声をすくい上げるやり方も考えたい
- 仮に公民館カフェや東布施めぐりで収益が出れば活動資金にできる？

■ 課題など

◆ 現地報告会で住民と話し合い



(左図) 総務省HP「地域運営組織」より。
以下は作野広和「地域の『つながり』を再構築する地域運営組織」に基づく。

地域運営組織の利点

- ・ 多様な層が参画することで、課題解決の可能性が高まる
- ・ しがらみから逃れやすい
- ・ 住民主体の活動が可能
- ・ 緩やかなつながりであり、住民が活動に縛られにくい

その他のアイデア

▪ 旧小学校グラウンドの開放

子供の遊び場として、旧小学校のグラウンドを開放、一部整備を行う。また、スポーツや昔の遊びを教える団体を設立し、グラウンドで活動することで、住民交流の機会を創出する。

▪ 大学生をオンライン家庭教師に

地域の出身者を中心に、大学生のオンライン家庭教師を募集し、地域と若い世代との接点を作る。地域外出身の学生も呼び込み、東布施との関わりを持ってもらう。

▪ 山菜料理を黒部市内の小学校(たかせ小学校)で提供

小学校で山菜料理を提供してもらい、伝統食材である山菜に興味を持ってもらう。

▪ 耕作放棄地を花畑に

耕作していない田、畑に菜の花やコスモスなど、東布施の風景に合うような花を植える。耕作放棄地が荒れて、山に帰るのを防ぐことで、獣害対策などにもつながる。

▪ 線香、お釈迦団子等のメディアミックス

地域の意外なコンテンツを組み合わせ、取り上げてもらう。どこかにまだ見ぬ可能性が広がっているかも。

▪ 廃校を宿泊施設に

廃校(旧東布施小学校)を整備して、廃校ホテルとして利活用する。校舎の利用が難しい場合は、校庭をキャンプ場にするという案も

▪ 民泊事業の展開

空き家などを利用しつつ、民泊事業を展開。外からの人の流れを呼び込み、地域を知ってもらうきっかけに

▪ 地域外の人が管理できる

田んぼ地域外の人が農業を行うための田んぼを用意し、移住・定住のイメージづくりを促す。地域の担い手不足解消の一翼を担う。

▪ 空き家の整備

空き家の実態を調査し、イベントや宿泊、飲食店などに利用できそうな空き家を探す。また、利用できるように整備を行う。また、空き家マッチングサイト等に登録する。

▪ 紹介動画の作成

東布施地区を紹介する動画を作成し、動画投稿サイト等にアップする。内容は、伝統行事や生活の様子、自然など。

▪ 写真コンテスト

東布施地区の景色等を対象とした写真コンテストを開く。撮った写真をSNS等にアップしてもらう。Instagram用の枠をつくるのも簡単にできそう。

▪ 東布施カレンダー

東布施の美しい写真を用いたカレンダーを作成する。東布施の行事やイベント、豆知識なども載せる。

▪ マップの更新、利活用

今回作成したマップを定期的に更新するとともに、伝承や人に特化した派生マップを作成する。話し合いの場を作るという意味もある。

▪ ポストカード

地域の美しい景観が描かれたポストカードを作成する。バス等にラッピングしてもらうのもあり?(参考; 仏シャムパーニュの鉄道)

▪ 地域の達人図鑑

地域の達人や特色を持った人々をまとめて図鑑にする。地域の魅力として、人にフォーカスした周知を行う。(参考; 二本松市「岩代おじさん図鑑」)

▪ ○○のまち宣言

住民が今後の東布施をどうしていきたいかを、それぞれの好みで、○○のまち宣言として考えて、持ち寄る。それをもとに、実現のための施策を考えていく。




おわりに

▪ 活動を通じて学んだこと

- ◆ 実際に地域に入って声を聞くなかで、地域には、様々な人がいて、それぞれが違う意見を持っているということを知った。その中で、合意を形成する重要性とともに難しさを知った。
- ◆ 地域には住民は当たり前と思って気づかない、埋もれている魅力があり、それを効果的に発信していければ関係人口を増やしていけると、イベントを通して実感した。
- ◆ 実際に足を運ぶことにより、協力の依頼などもスムーズにいった場面もあり、実際に地域に入っていくことの重要性を知った。

▪ 反省点など

- ◆ 地域と学生側で、仕事の分担がうまくいっていない場面もあったため、地域との緊密な連絡は欠かせないと感じた。
- ◆ イベント準備などがギリギリになることも多かったので、あらかじめ見通しを立て、余裕を持って準備を始める必要性を感じた。
- ◆ 地域の限られた人を中心とした交流が多かったので、より多くの人を巻き込んでいけたらより良かった。



令和5年度東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラム（石川県能美市）
学内報告会

「続・無人駅プロジェクト」

～能美市を したいことが叶う街にするアクションプラン2023～

もつと！

藤田 光 (工 3年) 丸山 凜花 (文三 1年)
真野 竜汰 (理一 1年) 片山 明優香 (文二 2年)

石川県能美市について

キャッチコピー(HPより)

の み し
したいこと、能美市だったら叶うかも

- 石川県加賀地方、人口5万人
- 海から山まで東西に幅広い自然を持つ
- 2024年3月に北陸新幹線小松駅が開業、アクセス向上
- 動物園、陶芸村、ウェルネスハウスなどゆったりと観光、くつろげる場所です



(HPより)



活動概要

背景と目的

FSテーマ:「続・無人駅プロジェクト」

- ・能美市唯一の鉄道駅「能美根上(のみねあがり)駅」
2022年9月 駅員無人に
2024年3月 第三セクター化(JR→IRいしかわ鉄道)
- ・駅、駅前商店街の賑わい減少、空洞化
→駅利用者を増やしつつ周辺地域の活性化が必要

具体的な提案を地域住民と共創



「地方における無人駅を活用した持続可能なまちづくりモデル」として全国に発信したい



活動

1Q 前任者引継ぎ等 [知る]

- ・資料読み込み
- ・前任者とZOOMミーティング
- ・地元の観光系学部の大学生とZOOM交流

2Q 現地調査 [見る]

- ・8/29～31 能美市現地調査
- ・市役所 ・農場 ・交流協会 ・IRいしかわ鉄道 等

3Q 住民の声を拾う [聞く]

- ・駅利用者へ聞き取り(依頼)

4Q 最終報告会 [伝える]

目指す姿と提案

目指す姿・テーマ

駅を中心とした「場」に着目



駅を拠点に市民&市外の人!のしたいことが叶う場を提供!



関係人口創出 + 地域活性化!




具体的プラン

① まちじゅう図書館 駅前分室

② おてつだい×旅

③ 駅での多様なイベント開催

プラン①「まちじゅう図書館 駅前分室」: 概要

ひとことで  市内の各所・のみバス車内にミニ本棚を設け、本を介した市民の交流を増やす
その第一歩として駅前(駅ナカ)に設置

ターゲット



- 市民
- 駅利用者
(待ち時間のある人)
- 観光客

叶うこと



- 本の返却が便利に
- 待ち時間を楽しく過ごせる
- 本を介した人との交流
- 本で能美市を知る

時期・主体



- 短期～長期
- 市・図書館

プラン①「まちじゅう図書館 駅前分室」：調査結果(1)

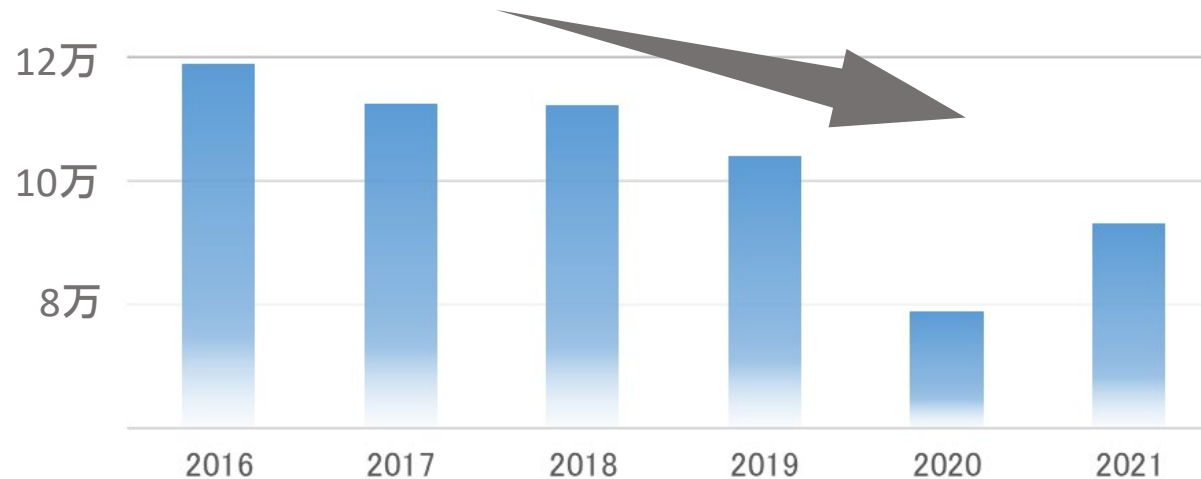
現地調査でのヒアリングや統計調査の結果：

誰が 何と言った

図書館員の方・データ

図書館の貸し出し数が低調

しかし能美市は人口に対して蔵書数が多い(同規模市区で全国5位)



市内図書館の合計貸出数(冊)

「令和4年版能美市統計書」より

プラン①「まちじゅう図書館 駅前分室」：調査結果 (2)

現地調査でのヒアリングや統計調査の結果：

誰が	何と言った
図書館利用者 (ヒアリング)	図書館に本を返すためだけに行くことがある 70%
	駅・図書館の両方で本の返却ができれば使いやすくなる 100%
	普段自分があまり読まないような本を紹介されることに魅力を感じる 70% n=10
国際交流協会の方	外国人の方と一般市民との交流の場が少ない

プラン①「まちじゅう図書館 駅前分室」：具体案

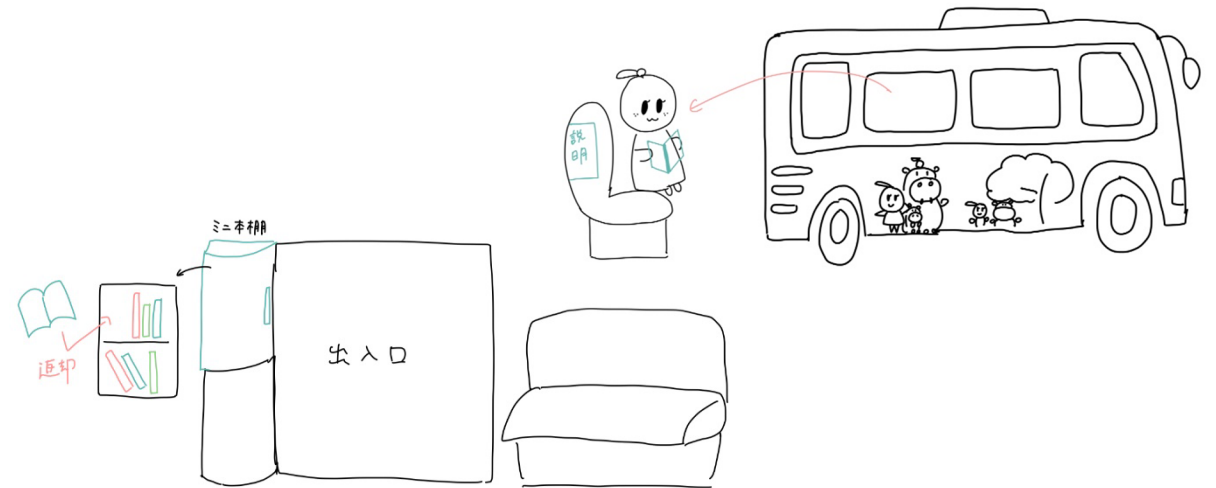
短期的に一駅構内(駅員室など)に本棚を設置

- 図書館本の返却ボックスを設置(利便性向上)
- 推薦図書
 - ・主に観光客向けに能美市を紹介する本を配置(九谷焼や松井秀喜さん関連など)
 - ・交流協会の外国人の方の出身国に関する本を置き交流の機会に
- 駅員室内に少し座って本を読める席を設置




長期的に一まちじゅう図書館

- 市内の各所、のみバス車内にミニ本棚を設け、本を介した市民の交流を増やす



本を介した市民同士の交流を促す「場」を駅に設置し、駅に賑わいを!

プラン②「おてっだい×旅」: 概要

ひとことで  市内の様々な事業者に市外の人たちが入り、観光のかたわらで「おてっだい」(=労働)できるようにする

ターゲット



- 市外に住む大学生、社会人(ワーホリ的に)
- 市内の事業者

叶うこと



- 日常にない体験ができる
- 旅をしながら稼げる
- 人手不足解消
- 関係人口創出

時期・主体



- 中期
- 市内の各事業者
- 市
- マッチング事業者

プラン②「おてつだい×旅」：調査結果(1)

現地調査でのヒアリングや先行事例の調査結果：

市内の農場 スタッフの方（「おてつたび」受け入れ経験事業者）

- 市外の人と関わって非常によい
- 繁忙期の**人手不足を解消**できた
- 「おてつたび」は求人**の手間を丸投げ**できる
- アルバイトよりも割高な点だけがネックか



市内の動物園 職員の方（「おてつだい×旅」受け入れ事業者候補を想定）

- 動物に関わる場所はNGだが、売店等は常に人手不足なので来てくれると助かる

プラン②「おてつだい×旅」：調査結果(2)

現地調査でのヒアリングや先行事例の調査結果：

先行事例調査： 民間の仲介業者

- 全国で多数の仲介実績
- 受け入れ先のジャンルに偏り
(旅館や農園など中心)

先行事例調査：全国の自治体

- 鳥取県日野町、岐阜県高山市など「おてつたび」受け入れ事業者に補助金



業者HPの文言から頻出の単語を抽出した図(ワードクラウド)

プラン②「おてつだい×旅」: 具体案

市内の事業者、市外の人

- 動物園など、先行事例(「おてつたび」)にとられない受け入れ先を用意
- 駅を受け入れの拠点とすることで、利用者の利便性向上 & 駅の活性化

+

行政


- 事業者に対して、仲介手数料などによる比較的高額な負担を減らす支援金制度を創設する

◆ 地元の人にとっての「あたりまえ」がそれ以外の人にとっては「貴重な体験」である(農場の方・談)
(= **価値の創出・再発見**)



「おてつだい×旅」を通して、既存の価値を市民と市外の人とともに再発見！

プラン③「駅での多様なイベント開催」：概要

ひとことで  駅構内や駅員室のスペースを、常設/非常設のイベントスペースとして活用し、駅の目的地化を目指す

ターゲット



- 幅広い市民
- 全国の家族連れ

叶うこと



- 国際交流を体験
- 駅の待ち時間を有効利用
- 家族で思い出に残る体験
- 関係人口創出

時期・主体



- 中期
- 駅利用促進協議会・市
- 国際交流協会
- 鉄道事業者 等

プラン③「駅での多様なイベント開催」：調査結果（1）

現地調査でのヒアリングや先行事例の調査結果：

誰が	何と言った
国際交流協会の方	駅前に多目的スペースのようなものがあれば、 イベント等で利用したい
IRいしかわ鉄道の方	子ども・鉄道ファン向けのイベントは盛況 金沢市、津端町はIRのグッズを ふるさと納税の返礼品 としている
（先行事例調査）	長野県上田市や熊本県は鉄道の運転士体験をふるさと納税の返礼品としている

プラン③「駅での多様なイベント開催」：調査結果（2）

先行事例調査

ふるさとチョイス
あなたの意思をふるさとに

なにをお探しですか？

お気に入り 寄付する ログイン

お礼の品をさがす 地域をさがす 使い道をさがす ランキング 特集 イベント・取り組み 独自サービス ふるさと納税ガイド

TOP > 地域をさがす - 都道府県を選択 > 長野県の自治体 > 上田市のふるさと納税 > お礼の品詳細

ながのけんうえだし
長野県 上田市

走る電車の運転室に乗れる・貸切列車でお仕事体験<<サービス こども 家族 旅行>> [No.5312-0304]



寄付金額
175,000 円
以上の寄付でもらえる

感想0件

お気に入り

数量: 1 在庫: あり

ファスト寄付で申し込む

寄付へ進む

> ファスト寄付とは?
> 選べる使い道
> 対応している決済方法
> お問い合わせ先

プラン③「駅での多様なイベント開催」：具体案

駅員室にイベントスペースを設置（常設）

- プラン①と関連して：
「物々交換の本棚」イベント
 - ・本を題名が見えないようにラッピング
 - おすすめコメントを添える
 - 別の本を1冊持ち帰る

+

駅周辺を拠点としたイベントを開催（非常設）

- 国際交流協会主催のイベントを開催する
- IRIしかわ鉄道のイベントを開催する
 - ・区間延長となる機会を活かしグッズを販売する
 - ・運転士体験をふるさと納税に組み込み、鉄道好きのファミリー層を取り込む



駅を目的地化し、市民・全国のファミリー層に思い出に残る体験の「場」を！

まとめ

目指す姿・テーマ(再掲)



能美根上駅を中心とした「場」に着目し、
駅を拠点に市民と市外の人々の「したいこと」が
叶う場を提供することで、
関係人口の創出と地域活性化を目指す。

成果と今後

感想・学んだこと

求められているものが何なのか、自ら探ることの必要性を実感した1年だった。地方創生の困難さ、またそれに**意識して目を向けることの重要性**も肌で感じた。多種多様な立場の人たちとコミュニケーションをとる中で、このような**様々な感覚を養い実践できた**のは非常に貴重な機会だった。 藤田(3年)

住民の方々が必要としているものは何か、そして実行可能な範囲で何ができるのかという**答えのない課題に対するアプローチの難しさ**を1年を通して実感した。また、もう少し具体的なシステムまで提案できればよかったと思う。 真野(1年)

ただの地域活性化だけでなく「能美市にしかできないこと」を考える必要があり、**現地調査の大切さ**を実感しました。この場を設けてくださった能美市の皆様に改めて感謝します。 丸山(1年)



ありがとうございました！

最終報告会

能登の里山里海を紡ぐ 関係人口創出

2024.03.15 学内報告会

農学生命科学研究科	修士1年	志賀 智寛
農学生命科学研究科	修士1年	多形 恵美
教養学部	学部4年	宮下 祐真
経済学部	学部2年	佐々木 諒太

- 1 活動の概要
- 2 現地活動
- 3 イベント実施
- 4 能登町支援チームの活動

1. 活動の概要



能登町の基本情報

【世界農業遺産「能登の里山里海」が体感できるまち】

アクセス

- 羽田空港～のと里山空港：55分
- 空港～市街地（宇出津）：25分

特徴

- 定置網漁・イカ釣漁
- 「あえのこと」：田の神様に感謝する神事
- 「キリコ祭り」：日本遺産に指定された祭礼

課題

若者流出から始まる負の連鎖



能登の暮らしが受け継げない
(数学的には無理ゲー.....)



これをワクワクに変えたい！



「NOTO CHOICE」の紹介

～NOTO を CHOICE、NOTOCHO を愛す～

概要

- 5,6期の活動で開発した観光促進のためのツール
- 全20種類のカード
- 能登町内にも複数設置

ねらい

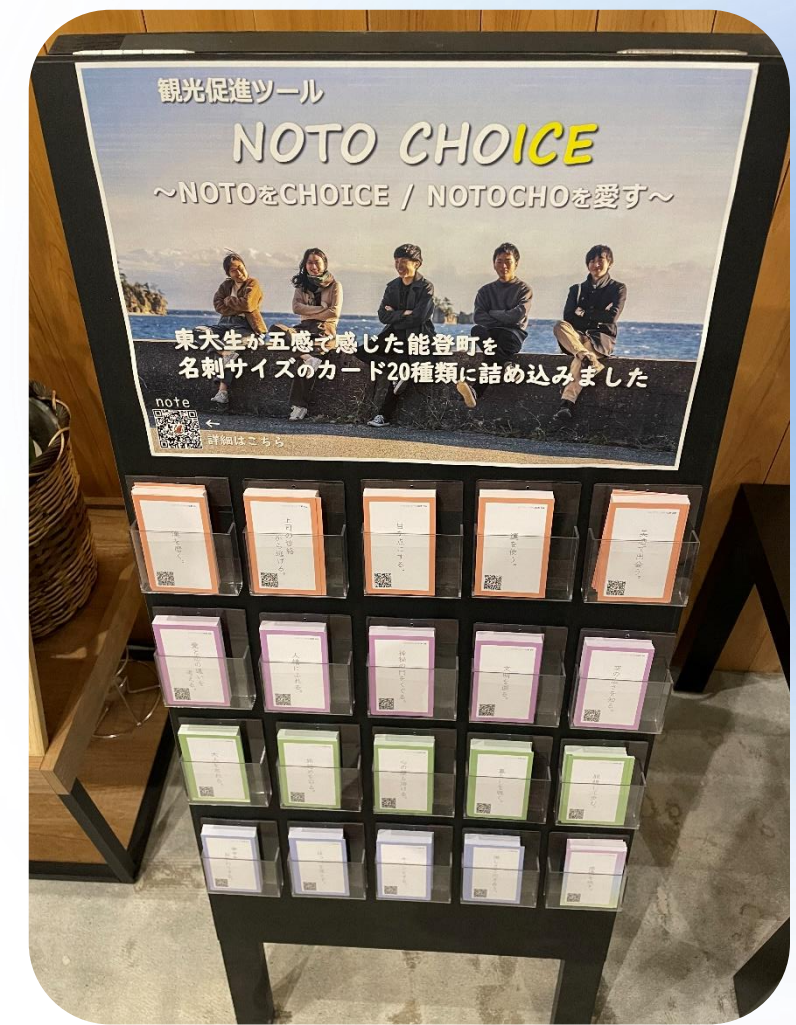
体験したい動詞を選ぶ
↓
裏面で場所を確認する
↓
能登町での体験をする
↓
関係人口になるきっかけ



表面



裏面



↓能登町内に設置

「のとをしる」から「のとにであう」へ

石川県能登町 関係人口創出プログラム全体像

目指す姿 若者が集い 能登の暮らしを受け継ぐまち



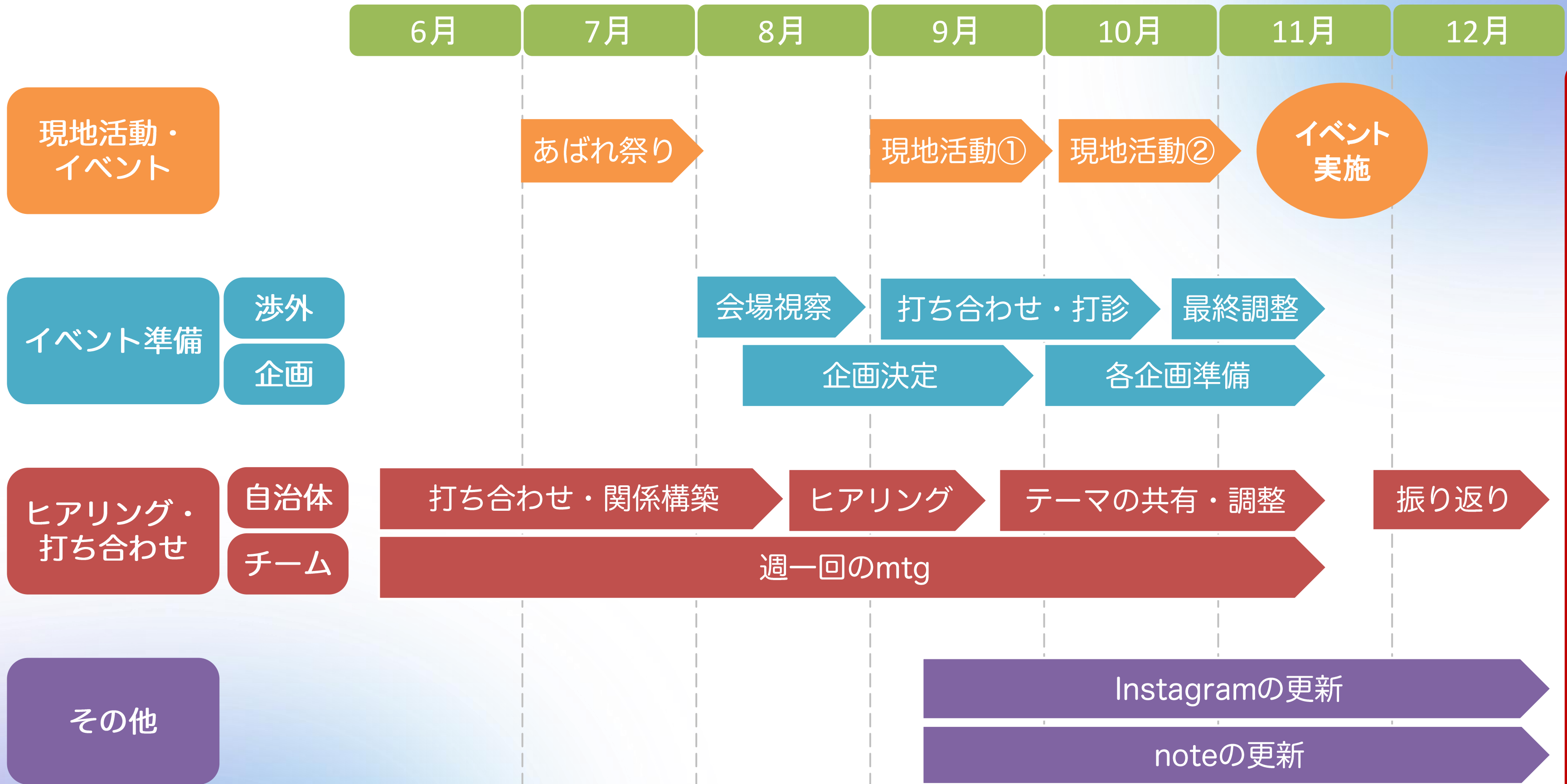
NOTO_CHOICEを用いて
東京でのイベントを企画



「のとをしる」きっかけに



スケジュール



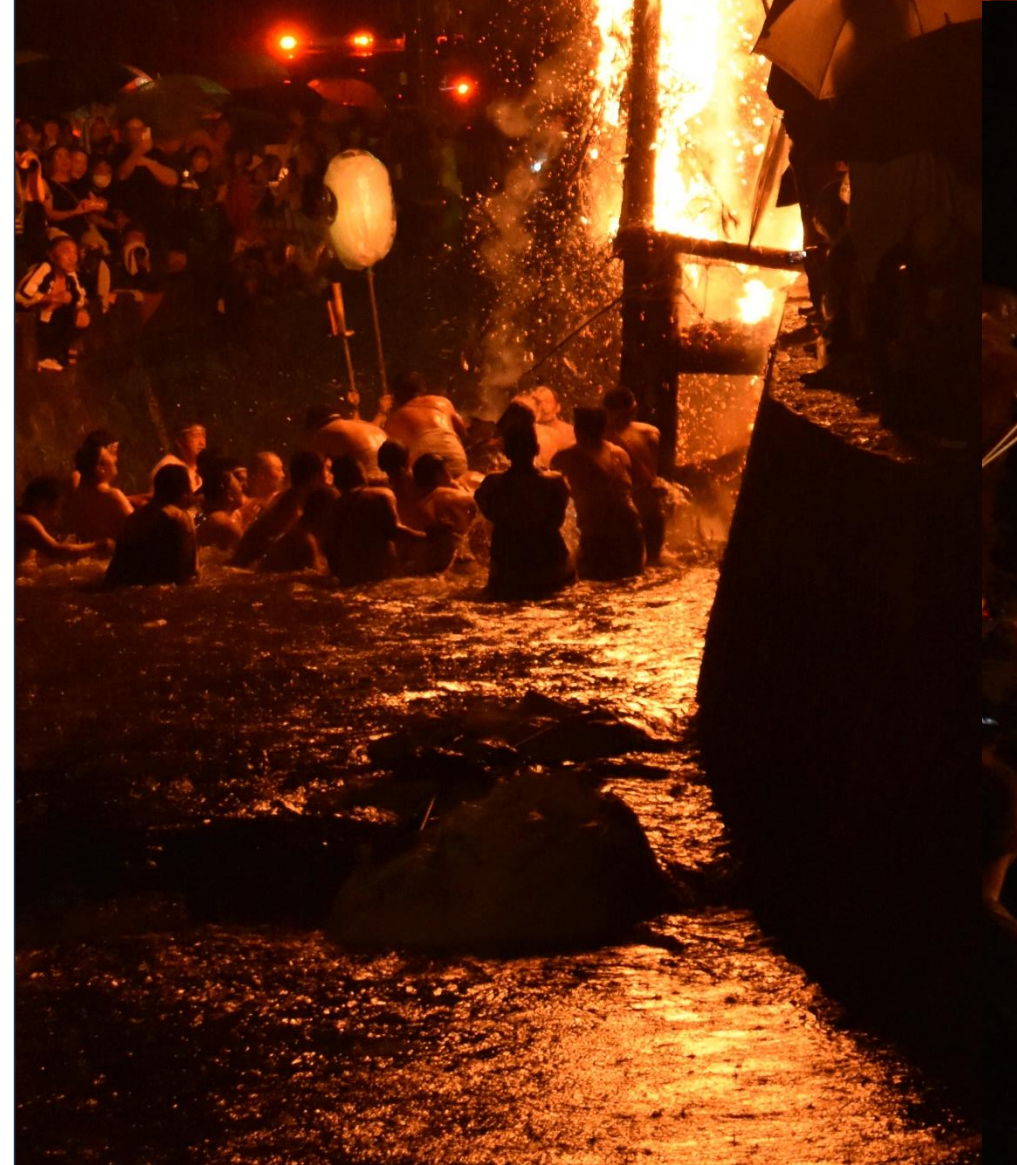
能登半島地震

2. 現地活動



あばれ祭り (7/7-9)

- プライベートで現地訪問
- これまでのFS能登町生が一同に集結
- 能登町の「ハレ」を知る機会に



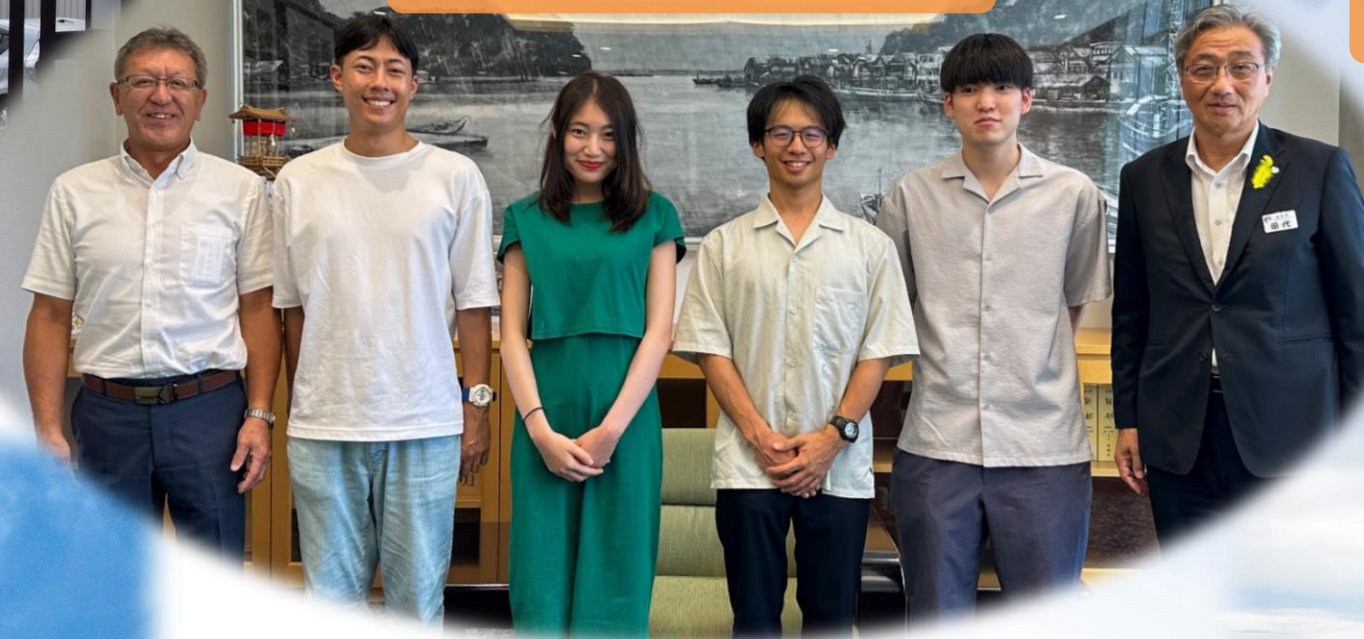
能登町の中心「宇出津」の街並み



現地活動① (8/31-9/2)

- 自分たちが能登の魅力を知る
- 能登町の「ケ」を知る機会に

町長・副町長とともに



ノスタルジーを感じる三波簡易郵便局



九十九湾で夕焼けを眺めて



能登を味わう



地元の方々とも交流



現地活動②（10/27-29）

■ イベントで伝えたい能登の魅力をさらに発掘

イカキング！



千畳敷の夕日



競りの見学



能登に癒される



現地活動での学び

◆人によって能登町の魅力の感じ方が違う

→ それだけ能登町の魅力が多くて多様性があるということ

◆地方ゆえの距離感の近さを感じた

→ そのアットホームさを都会に住んでいる人にも味わってほしい！

◆能登町側が求めるのは「外部、特に若い力とのチューニング」

→ 双方向的な関わりが今後増やせると良い！

3. イベント実施



「NOTO_CHOOSER」開催

- 東京在住の方に能登町をPRするイベント
- 2023/11/18 (土) 11:00-16:00
@フロンティアコンサルティング(株)
- 能登町、能登町定住促進協議会と共同主催
- 過去のFS能登町生7名がスタッフとして協力
- 来場者：100人
 - 来ていただいた方ありがとうございました！



NOTO_CHOOSER

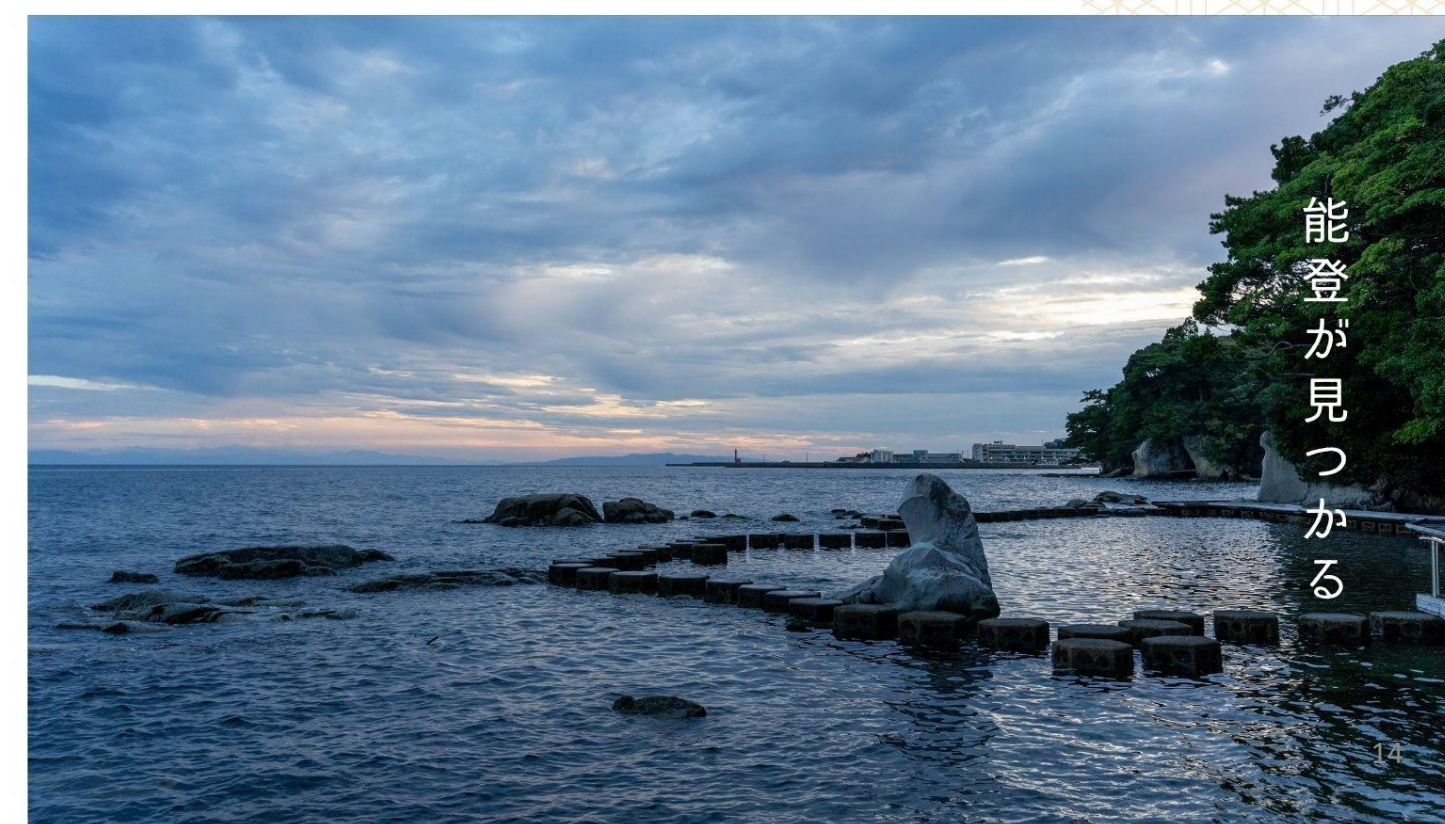
2023.11.18(土)

11:00~16:00

会場：大手町ビル1F フロンティアコンサルティング東京本社
主催：東京大学FS能登町担当、能登町、能登町定住促進協議会



豊かな里山里海と
自然が育む能登の幸
魅力に溢れる能登町を
都内の人が楽しめる
東大生が考えた
一日限りのイベントです



具体的に実施したコンテンツ

コンテンツ名	内容
のとをまなぶ	能登町の魅力についてプレゼン形式で簡単に説明する
のとをかんじる	能登町のPR動画を流す
のとをのぞく	能登町の風景を撮った写真を展示する
のとをさがす	能登町の観光地を記した地図を展示する
のとをあじわう	能登町の特産品を試食・試飲してもらう
のたとつながる	能登町に住んでいる人と中継を繋ぐ
のとであそぶ	能登町で生まれたゲーム「ごいた」を体験してもらう
のとをふりかえる	「あなたに合った能登」を書いてもらう

写真やオリジナルマップの展示



来場者の方と懇談中



スタッフのFS能登生+能登町役場の皆様



能登町を味わうコーナーも



能登町との中継も実施



副町長とともに「ごいた」体験



NOTO_CHOICEを使って能登町の魅力をPR



なんと外国からの来場者も！



ドキュメンタリー「NOTO_CHOOSER ~東大生たちの挑戦~」
能登町ローカルテレビ「のとほっとらいん」放送 (50分の超大作!)



東京大学教養学部前期課程 2年
佐々木 諒太

もともと石川県っていうか、北陸の地域が好きで、

東大生が東京大手町で能登町の魅力発信

11月18日(土)、東京大手町で、東大生たちが町の魅力を伝えるイベント「NOTO_CHOOSER」を開催しました。

これは東京大学が行う「フィードバック型政策提議プログラム」(学生が自治体と協力して地域課題の解決を目指す)から、社会的課題の解決に貢献するリーダー人材を育成するの一環で、当町では2017年度から入れています。

今年度は、関係人口を増やすために東京大手町の魅力を伝えるイベントを開催し、学生4人が活動しました。

イベント当日は、4人に加え、これまでに同町で活動したOB・OGの7人も参加し、会場には学生たちが作った町の魅力を伝える「のとほっとらいん」の展示、PR動画の上映、地酒やイカなどの特産品の販売などがあり、学生たちが来場者に町の魅力を伝えました。

▲イベントの様子

▲「NOTO_CHOOSER 2023 11/19」のポスター

▲イベント会場は、昨年、企業ふるさと納税にて能登高校魅力化プロジェクトを応援して下さった株式会社フロンティアコンサルティングのオフィスを使用させて頂きました

▲たくさんの来場者がFS生と一緒に能登町について熱く語り合っていました。みなさん楽しんでイベントに参加され、楽しい1日となりました。

FS7期生に感想を聴いてみました

来場者の方が「へー」と、新しいものを発見したような感想をされているのがすごく印象的でした。過去のFS生たちも「能登町が好き」という気持ちで参加してくれて、能登町ってやっぱり素敵な場所だなと思いました。僕自身、さらに能登町が好きになりました。FS7期リーダー/東京大学修士1年 高野 智貴

思ったより遠征で良かったです。準備を進めてきた甲斐がありました。最後のフィードバックで「能登町好きです」と言ってくれた方が多かったので、大好きな能登町の魅力が伝わったかなって思っています。東京大学修士1年 多形 真美

いいイベントになりました。目標達成できて良かったです。能登町に行ったことあるひとは「また行きたい」って人が多く、それが嬉しかったです。イベントは大成功だったと思います。東京大学4年 宮下 真美

地方に関するイベントには「あったか」というか、アットホームを感じます。来てくださる方がみんな優しく話を聞いてくださり、やりやすかったです。楽しかったです。運営側にとっても楽しい企画だったなって思っています。東京大学2年 佐々木 諒太

2023年(令和5年)11月21日(火曜日)
北 陸 中 日 新 聞

能登町の祭り、酒…魅力伝えたい

東大生が都内でイベント

能登町と協力して地域の課題解決に取り組む東大生たちが、東京都千代田区の手塚ビルで、町の魅力を伝えるイベント「ノトチューイ」型政策協働プログラム「サー」を開いた。学生が自治体と協力して社会的課題の解決を目指す同大の「フィードバック型政策協働プログラム」の一環。町は学生たちを2017年度から受け入れており、これまで特産のイカに合った日本酒の開発や、名所を紹介するカード「ノトチョイス」の作製に携わってきた。本年度は東大生4人が9月からイベントを企画してきた。

イベントには100人が訪れた。ブースを回る形式で、ノトチョイスを使い十九瀬など名所を説明したほか、宇出津地区のあばれ祭りで使うキリコの模型も展示。地元産品の日本酒やブルーベリーを紹介するコーナーもあった。企画したリーダーの志賀智寛さん(24)は「自分が好きな能登町を宣伝できてうれしい」と話した。(上井啓太郎)

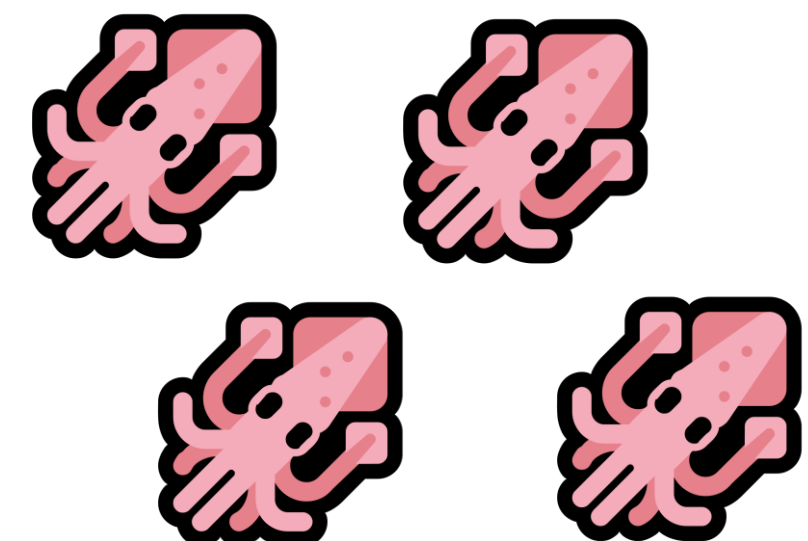
2023年(令和5年)11月19日(日曜日)
北 國 新 聞

能登町の魅力を説く東大生
東京・大手町(同町提供)

の二環。町は学生たちを2017年度から受け入れており、これまで特産のイカに合った日本酒の開発や、名所を紹介するカード「ノトチョイス」の作製に携わってきた。本年度は東大生4人が9月からイベントを企画してきた。

イベントには100人が訪れた。ブースを回る形式で、ノトチョイスを使い十九瀬など名所を説明したほか、宇出津地区のあばれ祭りで使うキリコの模型も展示。地元産品の日本酒やブルーベリーを紹介するコーナーもあった。企画したリーダーの志賀智寛さん(24)は「自分が好きな能登町を宣伝できてうれしい」と話した。(上井啓太郎)

↑北陸中日新聞(2023/11/21)



2023年(令和5年)11月19日(日曜日)
北 國 新 聞

能登町の魅力を説く東大生
東京・大手町(同町提供)

能登町の関係人口増加策を研究中の東大生4人が18日、東京大手町で町の魅力を伝えるイベント「ノトチューイ」を開き、都市部で暮らす学生の視点で地域の良さをPRした。風景や祭礼などを約70枚の写真で紹介したほか、地酒などを振る舞い、移住者向けの相談コーナーも開設した。田代信夫副町長も参加し、宇出津発祥の伝統娯楽「ごいた」を紹介した。

東大生が能登町PR 都内でイベント

18

メディア掲載

↓北國新聞(2023/11/19)

イベントでの学び

楽しんでもらえたし運営側も楽しかった！でも.....

◆学生がイベントを企画する影響力・難しさを知れた

→ 100人集まった！が、企画の流れが所々崩れた

◆効果検証が不十分だった

→ 結局我々は何を伝えられたのか？

◆参加者と現地の人との交流が少なかった

→ 参加者が能登町に足を運ぶための縁が生まれづらかった

「のとをしる」のために何が必要か??

①ターゲットの決定

→ どれだけ能登町と関わりのある人を狙うか

②障壁の把握

→ 情報発信の乏しさ / 住民の積極性 / 地理的距離

③目的の決定

→ Ex. より広い地域に能登町を PR する!

④手段の決定

→ Ex. SNS を使って企画・イベントを進行する

活動も終盤にさしかかっていたなか、2024.01.01を迎えました。



4.能登町支援チームの活動 (2024/01/01~)



7年間で28名の学生が活動

NOTO CHOOSER
東大生たちの挑戦

能登町×東京大学FS事業の歩み



2017年度
能登町での
FS受入開始

2017・2018年度
小木地区の活性化
『いか純米』製作

2019・2020年度
山口集落の持続化
「あえのこと」の配信

2021・2022年度
『NOTO CHOICE』製作

私たちについて

東大FS能登町支援チーム

能登半島地震で被害を受けた町を支援しようと
過去のFS能登町に関わっていた学生も含めた
有志で立ち上がったチームです。



(2023年7月、能登町にて) ²⁴

キーパーソン



灰谷 貴光 さん

能登町役場 ふるさと振興課 地域戦略推進室 主幹

イカのかぶりものをしたイカれた公務員として、
町民と大学生・プロボノ・企業の対話によって
地域課題を解決する場づくりに取り組む。



支援チームの活動①

FS能登町生24名から灰谷さんへの寄せ書き (1/6)



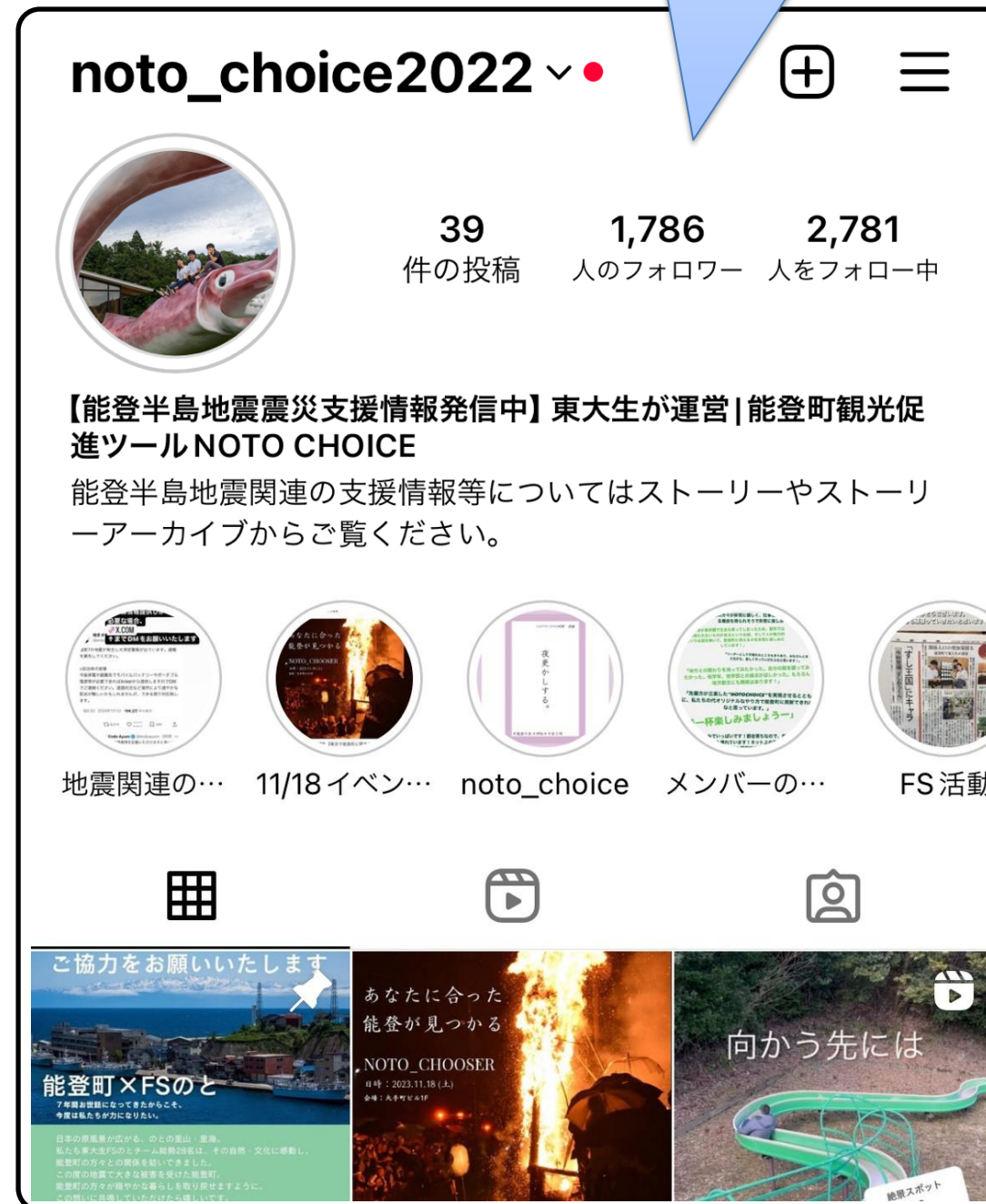
「ありがとう。
ものすごいエネルギーを
もらいました。」

支援チームの活動②

地震発生後、情報発信に努め、フォロワーは200人ほど増加。現在、町内の方を中心にフォロワーが約1850人。

Instagramでの情報発信 (1/1~)

- 本来はFS活動を宣伝するアカウント (2022年~)
- ストーリーズを毎日更新
- 主に能登町内で避難をしている方に向けて情報発信
- 情報源は自治体やNHK、社会福祉協議会など
- 生活に密着した情報



1月3日 22:38
作成モードから >

**石川県公式より
能登町 水支援状況**

◎4日
→ 愛知県の給水車を派遣予定
→ 町所有の給水タンクにより
町内において給水活動を実施予定

市町	断水状況	支援状況
輪島市	約10,000戸	3日から、市所有の給水車により給水活動を実施。自衛隊の給水車による給水活動の実施に向け調整中 (4日から配布予定) 4日、愛知県の給水車を派遣予定
珠洲市	約4,800戸	3日から、自衛隊の給水車による給水活動を実施。3日、愛知県の給水車を派遣予定
穴水町	戸数不明	2日から、自衛隊の給水車による給水活動を実施。3日、愛知県の給水車を派遣予定
能登町	約6,200戸	2日から、自衛隊の給水車による給水活動を実施。4日、愛知県の給水車を派遣予定 4日から、町所有の給水タンクにより町内において給水活動を実施予定
七尾市	約21,500戸	2日から、自衛隊の給水車により、能登総合病院等において給水活動を実施。3日から、市による給水活動を実施。3日、名古屋市の給水車を派遣予定
志賀町	約8,800戸	2日から、自衛隊の給水車による給水活動を実施。3日、愛知県の給水車を派遣予定
羽咋市	約7,700戸	3日7:00から、野々市市・岐阜県・長野県の給水車による給水活動を実施
宝達志水町	約3,300戸	3日9:00から、三重県・長野県の給水車による給水活動を実施
中能登町	約7,000戸	2日、福井県の給水車による給水活動を実施 3日から、福井県・三重県の給水車による給水活動を実施
かほく市	約9,800戸	2日、野々市市・北陸地方整備局の給水車による給水活動を実施 3日7:00から、静岡県・北陸地方整備局の給水車による給水活動を実施
津幡町	約8,700戸	2日、野々市市の給水車、町所有の給水タンクにより町内の医療施設において給水活動を実施 3日から、野々市市・愛知県の給水車による給水活動を実施

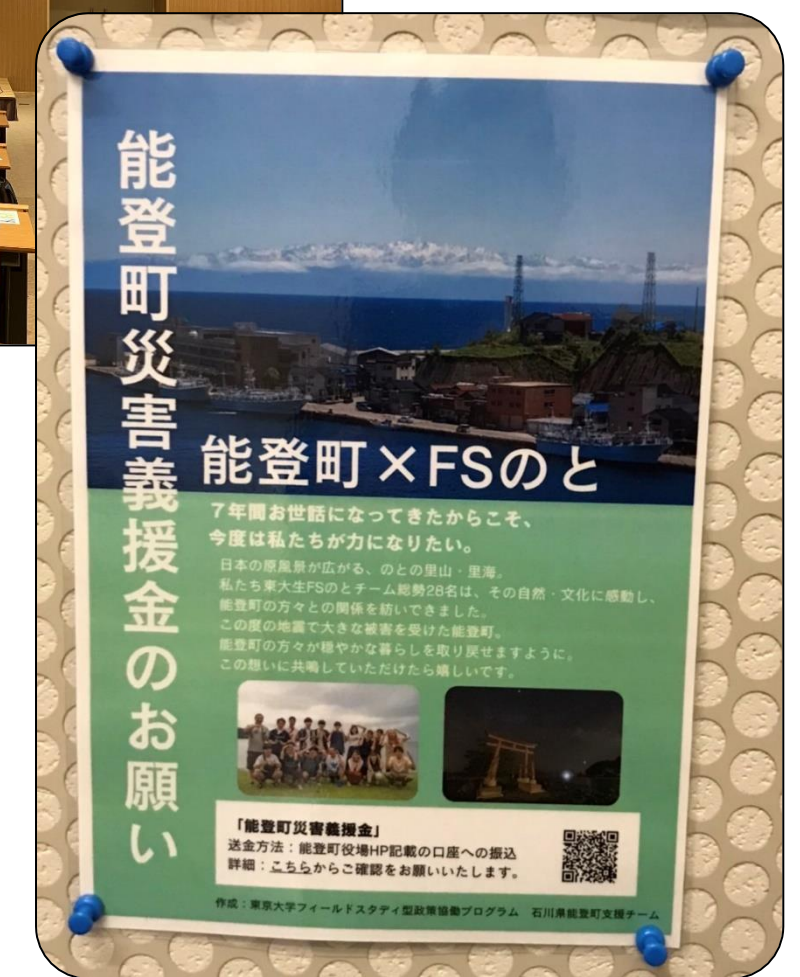
**石川県災害対策本部員会議
(3日18時開催) より**

[PREF.ISHIKAWA.LG.JP](https://pref.ishikawa.lg.jp)

支援チームの活動③

義援金の呼びかけ

- 地域連携推進課から全学への周知
- ポスターの掲示
- 地域連携シンポジウムでの発表 (2/5)



今後の活動計画

能登町・大学と連携して、さらに活動を進めていきます。

基金設立

東大基金の仕組みを利用して、支援をしていきます。寄付金は今後のボランティア活動の費用等に充てさせていただきます。

体験活動 プログラム

復興のために力になりたいという学生を巻き込む準備を進めています。

中高生支援

東大生の強みを活かす支援として、中高生への支援について現地の方と協議をしています。

復興支援 イベント

町の支援となるようなイベント@東京や、FS8期で予定されていた「NOTO_CHOOSER」第二弾などを企画します。

第3回現地活動 2/24~27

目的

- ボランティア活動
 - 現地の方々との再会、ヒアリング
 - 被災状況の視察
- 今後の活動・防災に活かす



* 災害写真が出てきます。苦手な方は無理せずをお願いします。

第3回現地活動 2/24~27

海に沈んでしまった住居・道路



津波の被害を受けた郵便局



一つ一つの建物に
応急危険度判定が
貼られています

応急危険度判定結果

危険

UNSAFA

◆この建築物に立ち入ることは危険です
◆立ち入る場合は専門家に相談し、応急措置を行った後にして下さい

建築物名称 [REDACTED]

注記:

建築物の倒壊: 危険・注意・調査済
瓦などの落下: 危険・注意・調査済
塀などの転倒: 危険・注意・調査済

整理番号 [REDACTED]

判定日時 1月12日 (午前) 午後11時現在

能登町 災害対策本部 電話 62-8523

※これは、罹災証明書の被害調査結果とは関係ありません。

倒壊・津波による大量の瓦礫



住居に潰された標識。
手の届く位置に。



第3回現地活動 2/24~27

遊び場がなくなってしまった
小学生と交流！



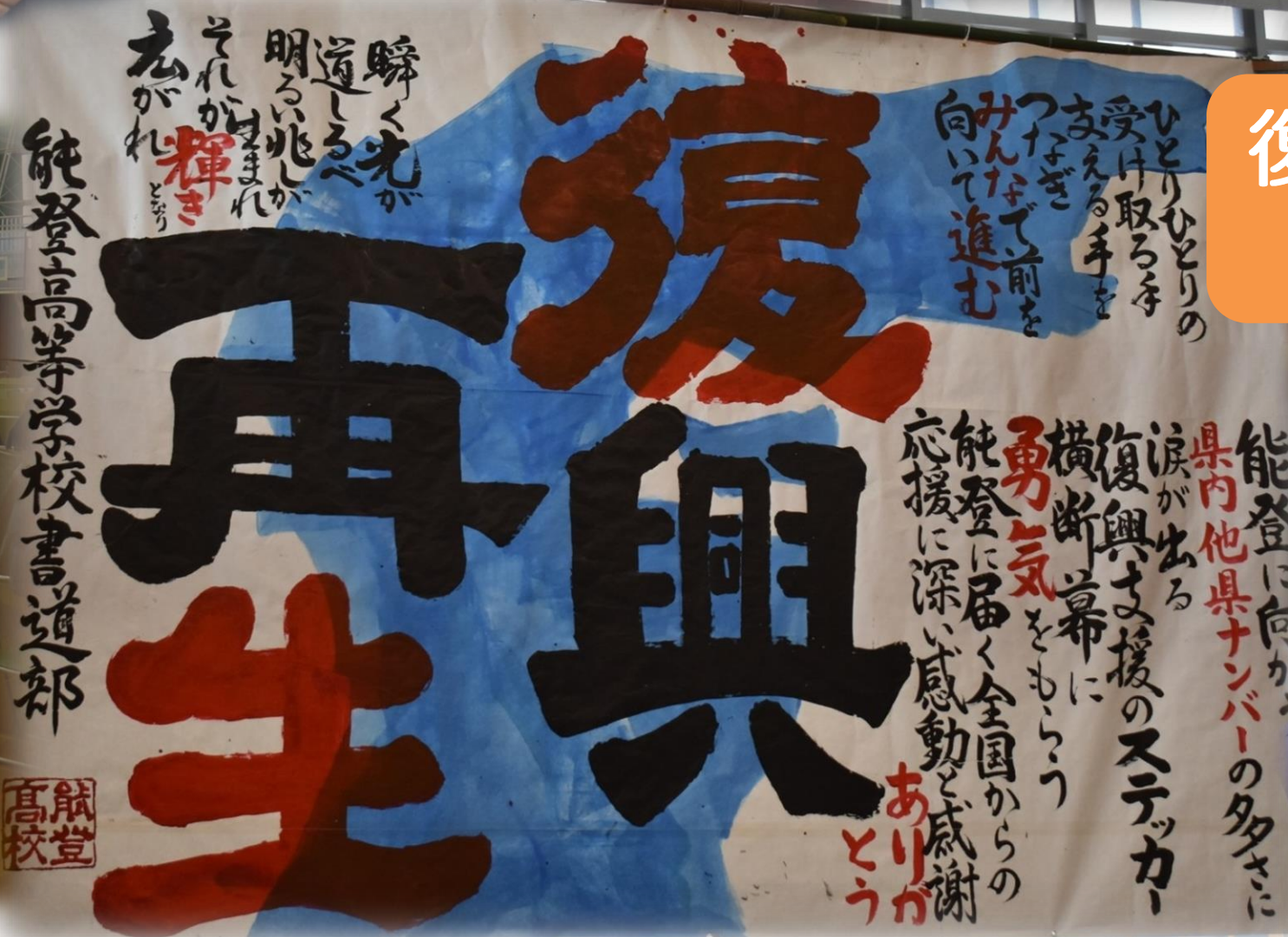
断水で営業できないお店が多いですが
取り寄せ対応してます！買って応援！



避難所での生活！ラジオ体操



復興に向けて
一丸に…！



第3回現地活動での学び

◆事業が停止している事業者が多く、経済が回っていない

→サービス業や飲食業、農業・漁業もあまりできていない。収入が止まっている方も多い。
再開に向けて準備は進んでいる！ 外からのお金を落としてほしい。

◆大人たちが精一杯で、子どもたちに目があまり向いていない

→遊び場所も限られている。子どもたちのメンタルケアがとても大事。
体育館は避難所になっているが、卒業式を体育館で行うために動く大人も！

◆二次避難によってより過疎が加速するのでは？

→二次避難で町から出た人が再び戻ってくるのか？ 移住者は今後も来てくれるのか？
今後の町のあり方を含めて、長期的な課題になる。

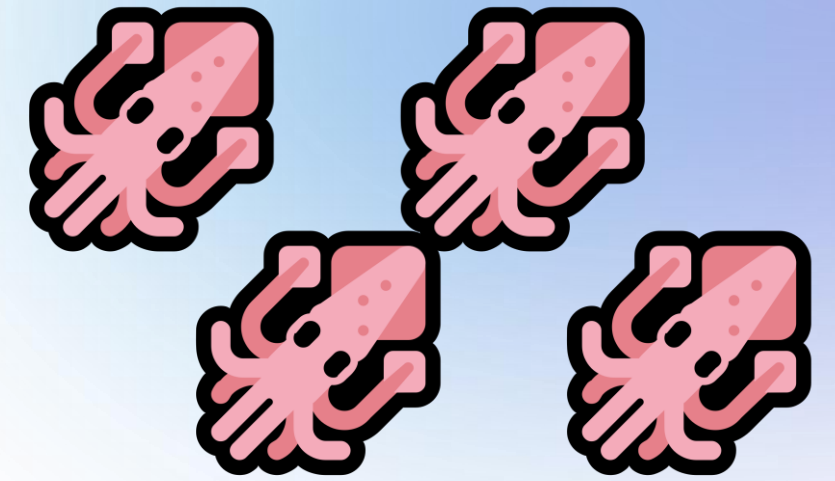
◆ボランティアに来て終わるのでなく、今後も関係を持ち続けることが大事

→復興には長期的な支援が必要で、能登町にまた来てほしい。関係人口になるチャンス。
お金も落としてえれば、能登町の経済も回る！

自分たちにできること

- ◆ お世話になったからこそ、東京で自分たちにできることの
実践：後方支援
- ◆ 風化させないためにできること：能登町の関係人口を
増やすこと、現地との繋ぎ役になること
- ◆ 能登の【創造的復興】に向けた、外の視点からの支援
- ◆ 今後の防災・発災後の対応にどのように活かしていくか

活動全体を通してのまとめ



- ◆ たくさんの魅力が詰まった素敵な町！
 - ◆ 外部にこの魅力をもっと伝えたい
 - ◆ 町の方々が気付いていない魅力もある
-
- ◆ 能登町の方々を巻き込みながら発信していくこと
 - ◆ 能登町に、魅力を感じる外部の人がいることを伝える
 - ◆ 能登町外に、魅力を積極的に発信する



❁ 最後に

ふるさとを感じる里山！豊かな里海！
熱い祭り！優しさ溢れる町の方々！
そして、能登町の大切なの方々、OBOGとの繋がり。
また能登町に帰ります！

今回の活動にご協力・ご尽力いただいた全ての皆さんに、
この場を借りて御礼申し上げます。
本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

#能登町

#がんばろう能登

#能登はやさしや土までも

#やっぞ能登町

#きっとできる



Thank you



皆様のご協力をお願いいたします。

能登町災害義援金のお願い



能登町×FSのと

7年間お世話になってきたからこそ、
今度は私たちが力になりたい。

日本の原風景が広がる、のとの里山・里海。
私たち東大生FSのとチーム総勢28名は、その自然・文化に感動し、
能登町の方々との関係を紡いできました。
この度の地震で大きな被害を受けた能登町。
能登町の方々が穏やかな暮らしを取り戻せますように。
この想いに共鳴していただけたら嬉しいです。



「能登町災害義援金」

送金方法：能登町役場HP記載の口座への振込
URL:https://www.town.noto.lg.jp/www/info/detail.jsp?common_id=20811



能登町HP義援金ページ



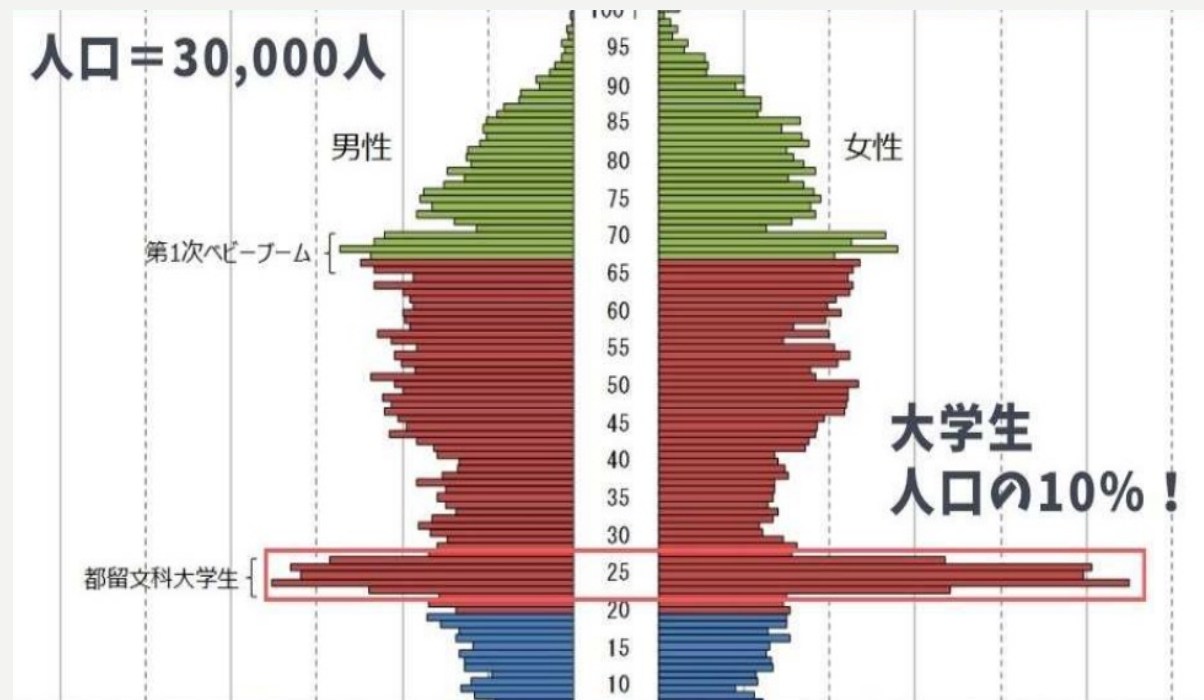
やっぴ!! 能登町

活動報告 山梨県都留市

長内 柊斗 田邊 莉那 竹内 彩乃 朱怡樺

地域の紹介

人口：31,000人
面積：16,000ha
(内森林面積 13,600ha)



都留市の課題

課題①

子どもたちの学び・地域への
関心が低い

課題②

大学生や市内若年層など若者
の就職先が少ない

⇒解決策のひとつとして探究まなび場
「つるラボ」の運営を開始

東大FS生の活動テーマ

探究まなび場「つるラボ」において実施する地域資源を活用
した特色ある教育に向けた「探究プログラム」の検討

活動内容

①探究プログラム

- ・ つるラボが重視する**三つの力**「**知的好奇心・合意形成力・表現力**」を子どもたちが発揮できるようなプログラムを検討

②効果検証

- ・ 探究プログラムの効果を検証する方法を検討

目的

親・子どもへのフィードバック、探究型学習の効果の認知を広めるため、法人として客観的な基準設立の必要性など

⇒オンラインイベント・第二回現地活動にて実施

探究プログラムの 作成



プログラム内容の検討

「わたしたち」だからできること

- 都留市から離れた東京に住む
- 大学生である

テーマ

学びと遊びの融合

勉強（漢字）と
「好き」の融合



- ①漢字作りイベント（オンライン）：きみの「すき」を漢字にしよう
- ②楽器作りイベント：失われた「音」をとりもどせ！

身近なもの（音楽）と
学び（物理）の融合

アンケート分析～保護者用～

②楽器作りイベント 失われた音を取り戻せ

・有料・定期的な探究型学習へ消極的な理由 $n=6$

①「探究型学習」について全く知らないと回答した人 $n=3$

⇒**探究型学習についてあまり知らないから**

②「探究型学習」について多少の知識があると回答した人 $n=3$

⇒**時間的・金銭的な制約があるから**

- ・探究型学習の認知度を上げる重要性
- ・金銭的・時間的制約の障壁

+ 大規模な調査
の必要性

提案：イベント内容
(都留市外の人が企画する時)

都留市の要素を入れる



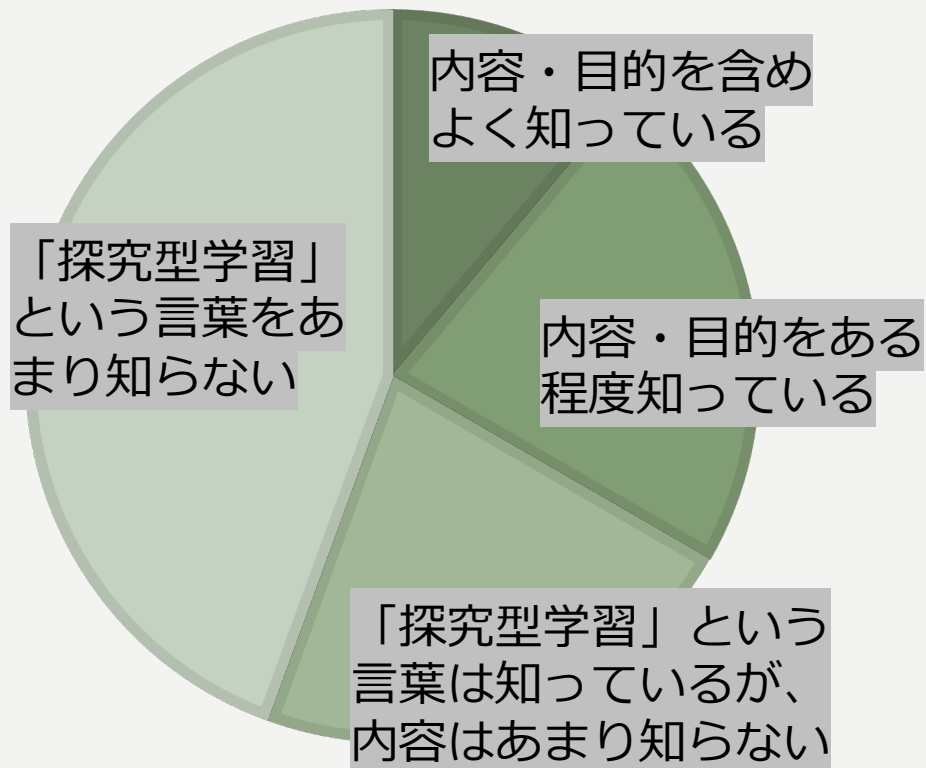
テーマ

学びと遊びの融合

「外部にいる」からできること
例) 都留市から離れた東京に住む
大学生である

提案：探究型学習の認知度向上に向けて

探究型学習の認知度 N=9



約70%の人が「探究型学習」をあまり知らない！

① 単発イベントの継続

豊富なジャンル

+

イベント数の増加

マニュアル作成

オンラインの併用

② 告知の機会の増加

チラシの作成

SNS等の活用

イベント内での説明

効果検証



二つの方法のメリットとデメリット

ルーブリック

ポートフォリオ

長所

基準が明確
実践時の負担の軽さ

個人に沿った内容

短所

画一的な評価

基準統一の困難性
負担の重さ

⇒ 企画する側がプログラムの効果を分析するために利用

⇒ 企画に参加する子どもや保護者が子どもの成長記録として利用

提案：ルーブリックとポートフォリオの融合

「項目」の作成

- 三つの力として評価可能な場面を「項目」として箇条書きにする

項目ごとに具体的な行動の想定

- 想定できる子どもの行動を箇条書きにする

実際の様子を観察

- 子どもの様子を見て実際に取った行動を記録し、想定していなかった項目があれば付け足す

観察した行動の整理

- 子どもの行動のうち、想定していなかったものを項目ごとに分類する
- 観察者同士で子どもの様子について情報を共有する

数値的な分析

- 項目ごとにできた個数を数値化して評価する（ルーブリック）
- **企画する側**が子どもの成長や経年変化を数値的に測り、プログラムの効果分析に利用する

様子をフィードバック

- 作成したルーブリックを参考に、子どもたちの様子を**保護者**に向けてフィードバックする
- イベント内での経時的変化に注目する（ポートフォリオ）

提案：ループリックとポートフォリオの融合

ループリック

【知的的好奇心】

←三つの力

A. 音を出す方法

- ① 管楽器だと推測できる
- ② 実際に吹いてみて、音が掠れることに気づく
- ③ 指でストローの下の口を閉じれば良いことに気づく
- ④ 安定させるためにセロハンテープを使う

B. 音の高さをかえる

←「項目」

- ① ストローを折ると音が変わること気づく
- ② ハサミでストローを切って、音を変える
- ③ チューナーで音を測るために、楽器で音を出す
- ④ チューナーで積極的に音の判定をする

C. 音階を揃える

- ① こちらから質問をすることで他の音を作ろうとする
- ② 自分から足りていない音を作ろうとする

具体的な行動

様子をフィードバック

ポートフォリオ

知的的好奇心	ストローの下の口を手で押さえる代わりに方法を模索している時に、セロハンテープを使うことを提案してくれました。積極的に楽器作りに参加し、真剣にストローの長さを測っていました。
合意形成力	まだ同じグループの子が緊張していて、あまり発言していないときも、最初から積極的に発言してくれました。ストローの長さを測ってマーキングするなど1人でやるのが難しい場面では、同じグループの子と協力して2人で作業していました。
表現力	グループの子の意見を統合して、発表準備用のワークシートに記入してくれました。最後に出来上がった笛を順番に吹く練習をした際には、「せーの」と声がけをして他の人にわかりやすいように工夫をしていました。

活動を通して

一年間探究型学習について考え、議論を繰り返したことで、とても良い経験になりました。将来の職業で今回学んだことを活用できないか検討してみたいと思いました。（長内）

この活動を通して探究型学習について考え、徐々に子どもたちと接したことで、教育の重要性を再認識しました。（田邊）

一年を通じて一つの課題に取り組めたことは、貴重な経験となりました。また、教育について新たな視点を得ることができ、興味深かったです。（竹内）

イベントを重ねることにより、教育現場の対応の難しさを実感しました。一体どのような教育が良いのか、どういう立ち位置で子どもに接するべきか、どういう目線で子どもをみるべきか、正解のない教育の世界に惹かれることになりました。（朱）



ご清聴ありがとうございました！

学内報告 (長野県辰野町)

工学系研究科技術経営戦略学専攻2年 阿部 溪輔

公共政策学教育部公共政策学専攻1年 遠藤 瑞季

経済学部経済学科3年 久保 雄一郎

農学部環境資源科学課程森林環境資源科学専修3年 中島 大雅

教養学部(前期課程)文科一類1年 富澤 雫

目次

- フィールドスタディの様子
- 分析とフィールドスタディで見つけた課題感
- 森林利活用×ゼロカーボン 辰野町の課題解決に向けた提案
 - 森林経営管理の提案
 - 木質資源の持続可能な地域内循環とビジネス作り
 - 地方自治体における脱炭素政策の実現可能性
- 成果報告会の様子
- まとめ



フィールドスタディの様子

8月フィールドスタディ

元信州大学教授山寺さんからのレクチャー



ヒアリングから次の構想を練る様子



他にも、さわそこ里山資源を活用する会の有賀さん・にれ沢蝶の森の小澤さんに話を伺い
森林活用の難しさや森林のポテンシャルを実感しました



フィールドスタディの様子

10月フィールドスタディ

宝来軒（町議の方が営むカレー屋さん）でのごはん



辰野町役場での発表資料

解決策の
解決策の提案

取組①

モデル地区での
森林経営管理制度

取組②

事業案：防災×新ビジネス×
若年層への啓発

期待される効果

所有者不明
森林問題の解決



「余所者」である私たちが温かく受け入れてくださり、提案を真摯に受け止めてくださる辰野町の良さを再認識しました

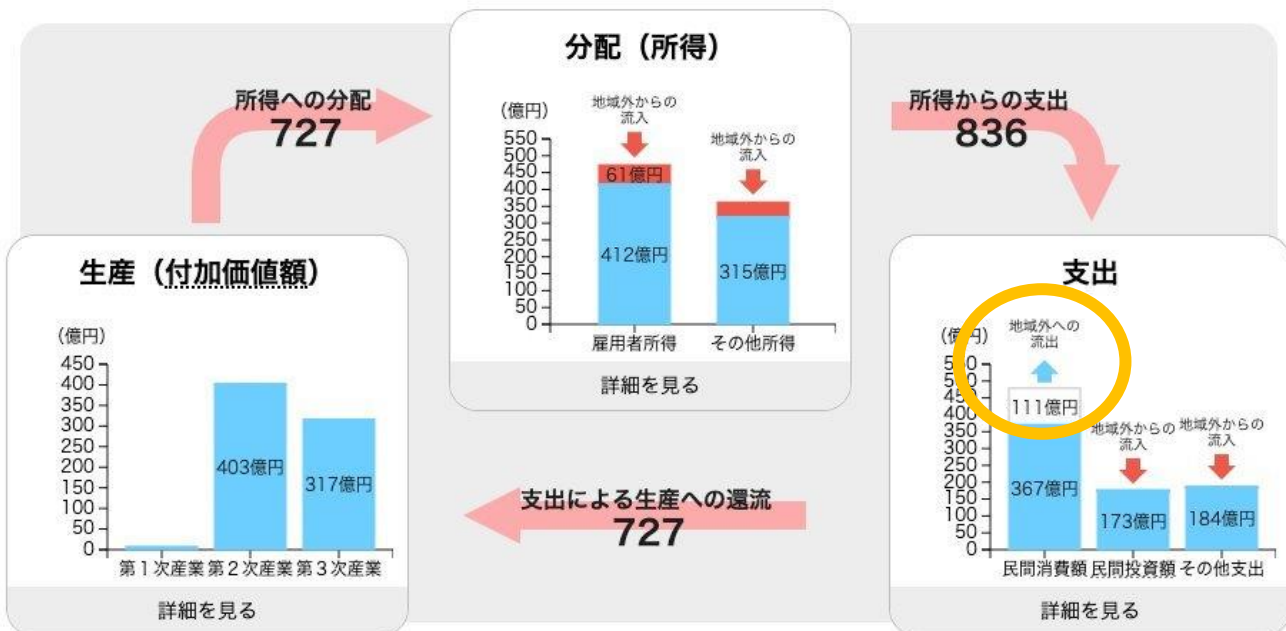


分析とフィールドスタディで見つけた課題感

地域経済循環率
87.0%

地域経済循環図 2018年

指定地域：長野県辰野町

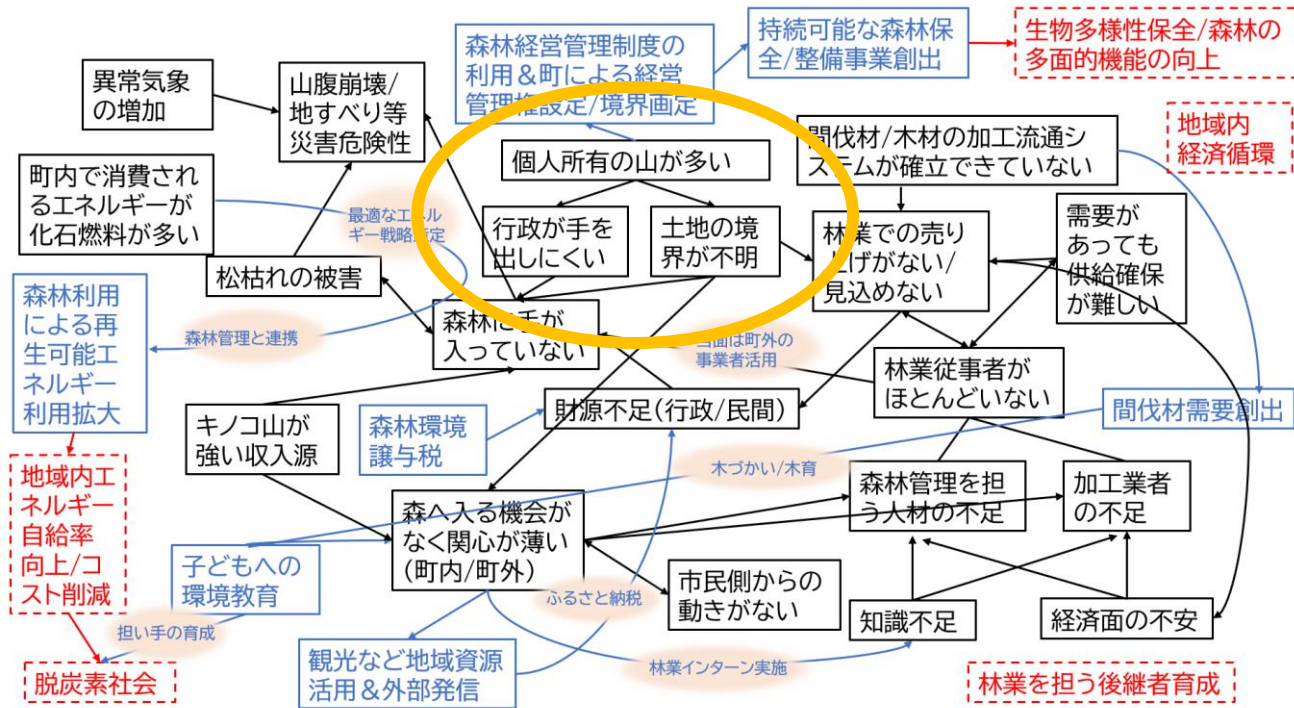


地域内経済循環の分析

- 外部企業の工場による収入が多く、所得が外に流出している
- 地域外からの所得流入の拡大や、地域外への所得流出の縮小が必要
- →地域内に豊富にある森林を資源として使えないか！？



分析とフィールドスタディで見つけた課題感



黒：課題 青：アプローチ案 赤：最終的な目標

フィールドスタディによると、災害の予防が喫緊の課題であり、持続可能な薪ビジネスの確立や後継者不足がその後に続



地域内経済循環の不足も含め、全課題の共通するボトルネック課題が、「個人所有の山が多く、森林に手が入っていない状態であること」

所有者不明森林問題の解決が必要



森林利活用×ゼロカーボン 辰野町の課題解決に向けた提案



取組①－制度面

モデル地区での森林経営管理制度



取組②－事業面

木質資源の持続可能な地域内循環と
ビジネス作り



取組③－体制面

地方自治体における脱炭素政策の
実現可能性

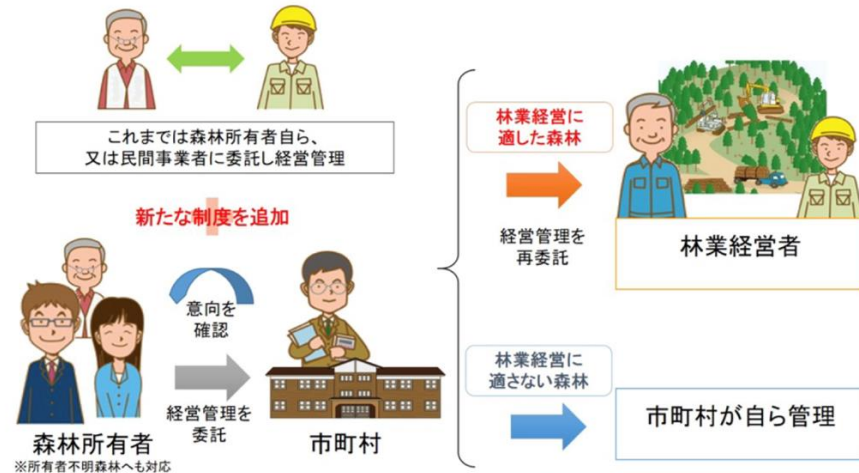


森林経営管理の現状と課題

森林経営管理制度とは？

経営管理が行われていない森林について適切な森林経営を促すための制度であり、市町村は以下のような役割を果たす

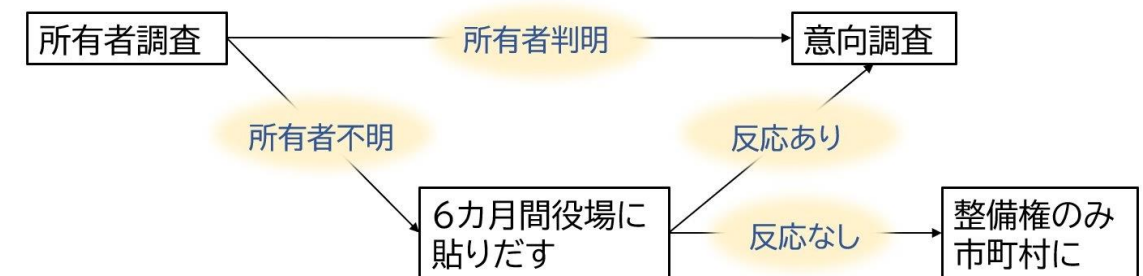
- 森林所有者と林業経営者の仲介
- 森林管理の代行



林野庁、森林経営管理制度について、2023/06/13閲覧、<https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/keieikanri/sinrinkeieikanriseido.html>

辰野町における課題

- 所有者不明の森林が多い
 - 整備権を得るまで時間がかかる
 - 制度活用の知見がたまっていない
 - 実際に森林整備を行う人出（事業者）が足りない
- 全ての森林を整備するのに長期の時間を有する



意向調査の流れ



辰野町における森林経営管理制度活用の提案

一連の森林経営管理制度を森林管理の優先度の高い地域で実施し、その事例を元に他地域での活用を進める

各ステップ	取り組み方
モデル地区の選定	山地災害のリスクが高い地域
意向調査	アウトソーシングによる委託
現地調査・境界明確化	
集積計画	災害に強い森林を作る 例) 針広混交林化
配分計画	
事業発注	

森林経営管理制度における各ステップの整理

- **災害リスクの高い地域**をモデル地区に設定し、森林経営管理制度の活用を行う
- 意向調査や現地調査・境界明確化は業務委託など外部の知見を適切に使う
- 災害防止のため、針広混交林にするなど



木質資源の持続可能な地域内循環とビジネス作り

■森林資源を生かした木質バイオマス熱利用

- 公共施設での薪ストーブや薪ボイラーの導入
- 経済的試算までが目標

■地域内で森林資源が流通・循環するコミュニティ

- 町内のトモリ舎による「マキコミ構想」
- 持続可能な事業にするための採算確保が目標

■将来の林業を見据えた人材育成

- インターンなどによる地元内外の学生への林業の魅力発信
- 高校や大学のゼミとの連携を検討
- 受け入れ態勢の整備は課題



地方自治体における脱炭素政策の実現可能性

■ 内容

- 辰野町地球温暖化対策実行計画（事務事業編、区域施策編）およびヒアリングから、ゼロカーボン達成のための手段整理と評価

■ 結果

- **「自然環境や地域との調和を図った再エネ施設の導入」について、地方創生も狙った導入を検討する**
 - 公共施設での薪ストーブや薪ボイラーの導入により、地域内での森林資源流通・林業の活性化を図る
 - 太陽光発電設備の周辺に地域のコミュニティとなる場を創出する
- **チャレンジングな取組によるカーボンマイナスの実現**
 - カーボンクレジット（森林・水稻栽培）もメニューとして加えることで脱炭素で資金を稼ぐことを目指す
- **実行計画を実現するにあたっての各課の連携が重要**
 - 脱炭素は分野横断的政策課題であり、本来は個別具体の地域課題の解決につなげつつも、中長期的には将来的な生活の質の向上や、地域の経済発展・雇用拡大等にもつながる、地域総合戦略としての展望を描くことが重要

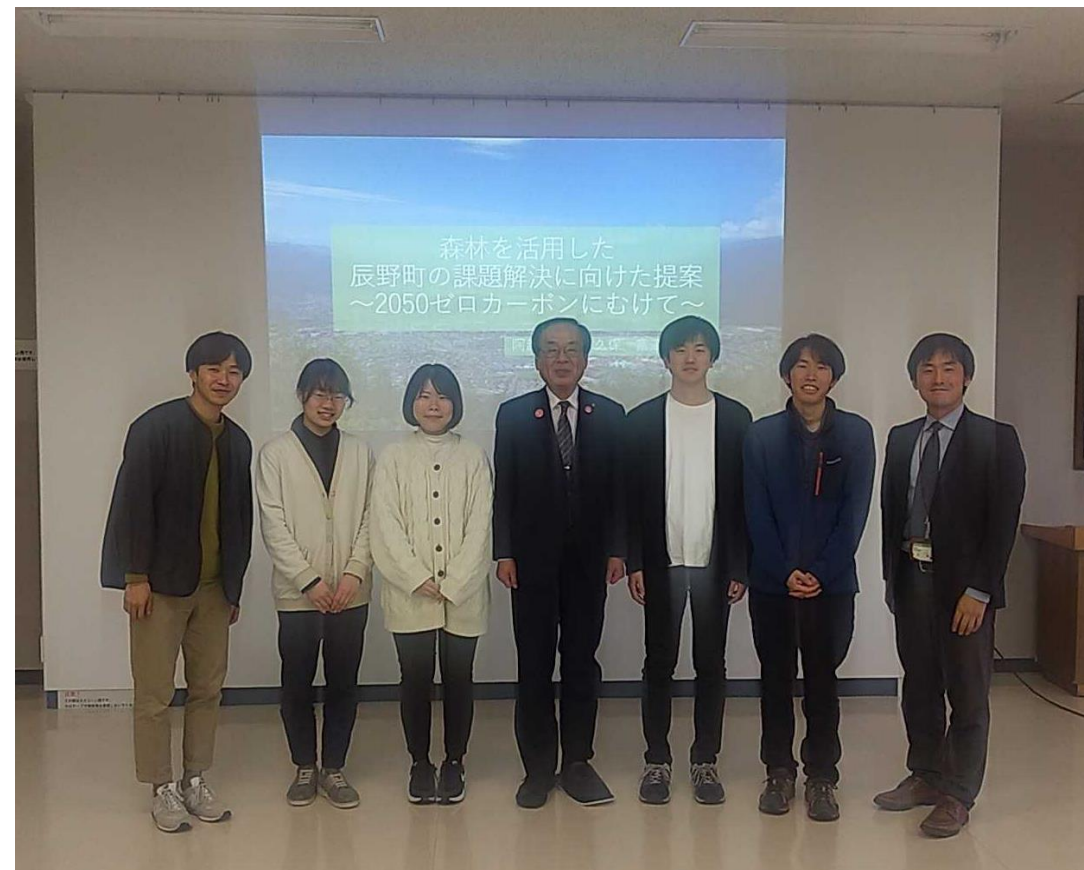


現地での最終報告会

町長・副町長・関係課長への発表



武井町長との写真



まとめ

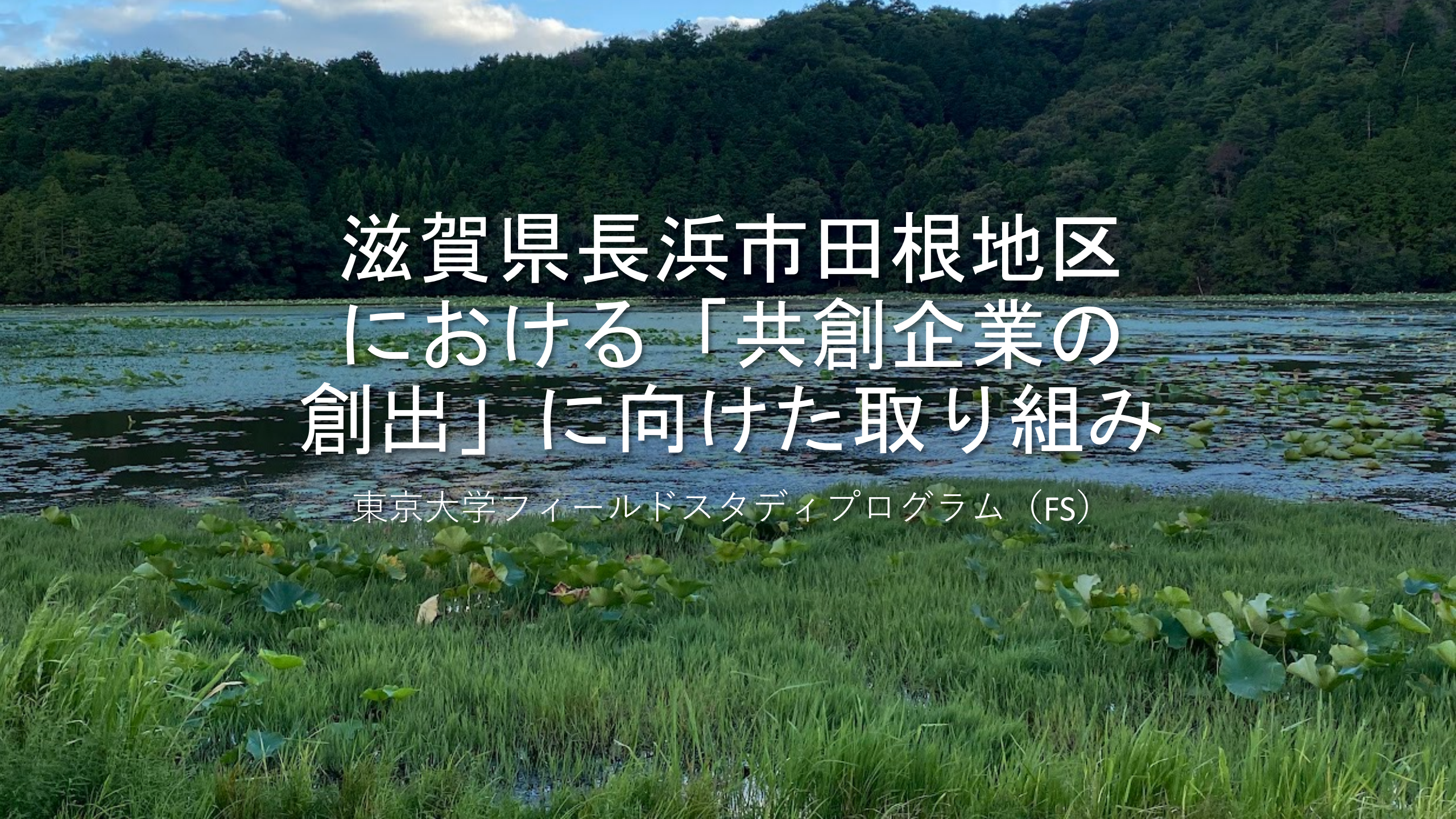
■提案内容

- 「所有者不明森林問題が多く、森林に手が入っていない状態であること」が学生視点から再度見た辰野町の森林の課題
- 「モデル地区での森林経営管理制度」、「木質資源の持続可能な地域内循環とビジネス作り」、「地方自治体における脱炭素政策の実現可能性」を提案

■感想

- 町役場や地域で活動する方々からオンラインでヒアリングを実施する機会をいただき、実践的な学びを得ることができました
- 今回のFSで私たちは大学での学習を超えた貴重な学びを得ることができました。お世話になった皆様に心より感謝を申し上げます、今後ともよろしくお願ひします





滋賀県長浜市田根地区 における「共創企業の 創出」に向けた取り組み

東京大学フィールドスタディプログラム (FS)

滋賀県長浜市 田根地区とは？

- ①長浜市南部に位置する中山間の地区。高齢化率は40%を超える。
- ②関係人口として、多様な団体や個人が存在する地域である。



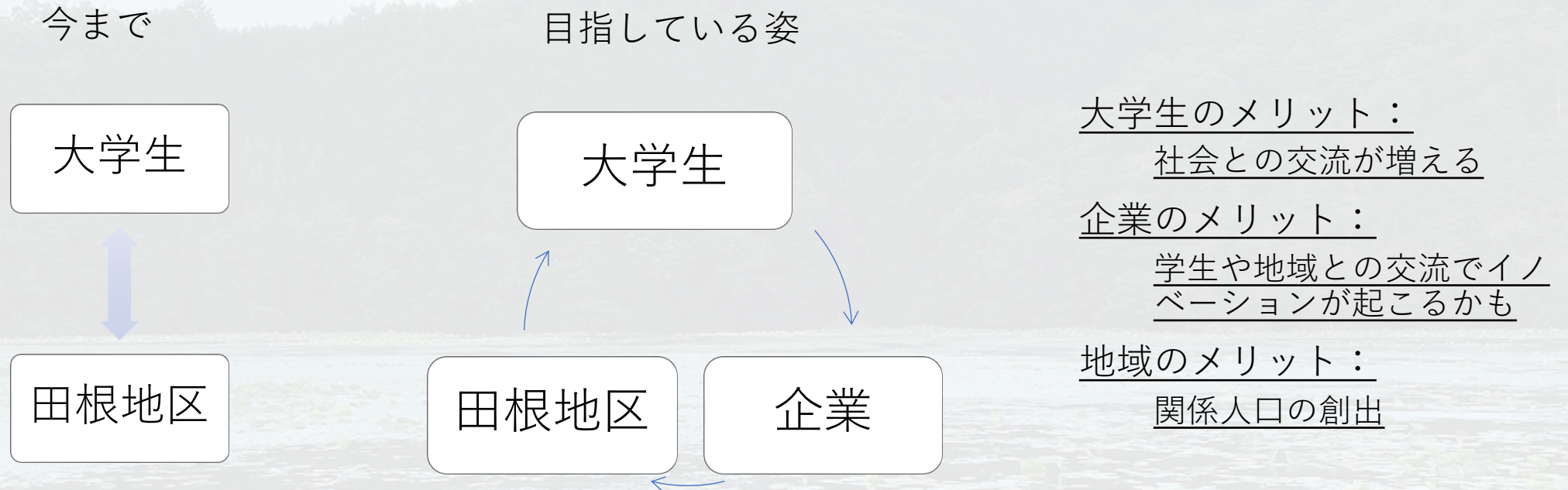
2023年度の交流会の様子

地域の企業の方々、個人的関心から地域に関わっている方、海外をバックグラウンドに持つ方から神奈川の高校生まで、大学生や地域の方々だけでなく、多様な人々が集まった。

2022年度の交流（団体）

交流団体			内容
大学	東京大学	5名	東京大学政策共同型フィールドスタディプログラム「週末田根めぐり」
	慶應義塾大学 小林研究室（建築学科）	約30名	・空き家改修 ・田根小学校ワークショップ ・地域調査
	専修大学 大崎ゼミ	6名	卒論研究「収穫しよう！集めるタネは無限大！in 田根地区」
	滋賀大学 森ゼミ	5名	ゼミ研究 住民インタビュー
企業	某メーカー	9名	みんなで作る“田根ラボ”プロジェクト
高校	虎姫高校	約30名	田根小学校ワークショップ
小学校	田根小学校	約10名	田根小学校ワークショップ

今年度のミッション： 地域課題に共に取り組む“共創企業”の創出



⇒ この循環を達成するために、共創企業を探す

第一回現地調査

⇒ 課題の発見と魅力の発掘を目的とした。



田根まちづくりセンター長、中嶋さんの地域紹介：田根の状況把握。



「さくら番場」福祉施設への訪問：過去の地域おこし活動の現状把握。

早稲田大学、滋賀大学、慶應技術大学の学生との交流：現状と問題点、魅力について議論。
地域の方々や企業関係者の方へのインタビュー：多様な意見に触れる



観光地調査：
「えきまちテラス長浜」、「黒壁スクエア」、「長浜カイクー」など見学。
観光協会との会議：
長浜市の観光事業についてインタビュー。



現地調査を終えて見えてきた課題



多様な課題が存在することがわかった。これはまた解決のための多様なアプローチが存在することも示唆するため、これらの課題解決に関わるような共創企業を広く探す。

①魅力を活かすか、課題を解決するのか？

地域の方々は課題解決を望んでいるが、内側に向けた課題解決だと単発で終わる可能性もある。

②獣害の内実

地域によって偏りがある。山に近い地域の家庭農園など、小規模な農家が被害を受けることが多く、高齢者の生活の質を下げている。

③高齢化の内実

高齢者は自分の生活に手が一杯であり、地域課題解決になかなか取り組むことができない。一方で、精力的に活動している高齢者の方々いるのも事実。

④小学校の廃校の是非

廃校を防ぐか否かという点にも賛否がある。子どもを増やすというのはすぐに取り組めることではなく、今そこに住む方々にとって一番いい選択を考える観点が必要。

⑤産業における課題の内実

仕事がないから人が集まらず、人がいないから企業が来ないジレンマがある。中心である農業も、人手不足を背景として、経営改善が進んでいない。

⑥空き家問題の内実

地域全体に課題意識はあるが、積極的に対処する余裕がない。

⑦観光の内実

長浜地域ではイベント型の観光が推進されてきた。保守派と改革派がいるが、従来型の観光に固執しがちな現状を変革する志向がある。

企業リサーチ

アグリメディア	働き手不足の問題解消における協働。働き手と人手不足の農家のマッチングや販路の確保など。	芳しい返事なし
リクルート	過去にCSRとして農業支援、収納システムの構築の経験あり。田根と新たなプロジェクトができないか。	事業の紹介をするとの返事のみ 田根との協働を打診するも返事なし
GLAMINKA	空き家を利用したグランピングを行っている。田根で協働し、空き家問題解決に近づけないか。	Meeting を開催 空き家マップ作成へ
株式会社ルーラ	ルーラコインを利用した観光促進。田根にも導入し、観光振興を行えないか。	芳しい返事なし
LIFULL	空き家活用に取り組む企業。連携できないか。	芳しい返事なし



既存の企業のサービスを利用するのみになってしまう、お互いに利益を生む協働のビジョンを描くのが難しい。

第二回現地調査



課題の深掘りと企業との共創のための準備を目的とした。



農業法人Lファーム訪問：
農業における課題について
インタビュー
ミニトマト収穫体験

空き家マップ作り：
GLAMINKAとの共創に向け
て



自治会の会合に参加：
「地方」に住むということ
における課題を学ぶ。
自治会の役割を学ぶ。

企業リサーチ

食品流通業との共創 (tabeloop)	滋賀県の農業企業(L-Farm)との連携する。	ールでお問い合わせし、企業の方とZoomでの話し合いの約束を決めた。Zoomでは企業の活動内容に関して質問しながら、滋賀県を紹介し、創業を勧誘した。しかし、少し消極的な反応を示し、企業のサービスの利用を逆に勧誘された。
スマート農業を活用した大学との連携	大学のスマート農業研究を田根地区でしてもらう。	共創に向けて打診中
GLAMINKA	空き家問題解決・外国人及び旅行者を呼ぶ。	メールでお問い合わせし、企業の方とZoomでの話し合いの約束を決めた。Zoomでは企業の活動内容に関して質問しながら、滋賀県を紹介し、創業を勧誘した。企業の方々は肯定的な反応を示し、地域協力隊の方の連絡先を伝えた。しかし、その後、メールが来なくなり、再度メールを送ったが、連絡が取れなかった。
地域コミュニティアプリの活用 (piazza)	地域コミュニティアプリを長浜市に導入する。また、piazzaと協働する。	共創に向けて打診中



共創に至った企業は現時点ではないが、事業の紹介は積極的であった印象を受けた。田根とは合わなかったが、地域と関わることに意欲的な企業は多い。

学び

一年の活動を通して

- ・ 実情を知る

直接体験し、人々から聞いてみることの大切さを感じ、間接的には絶対わからない問題が見えてきた。課題は多面的であり、その原因は見えているものとは違うこともある。

- ・ 関係人口の豊かさに触れる

田根地区は他大学の学生もフィールドスタディやボランティアを通して盛んに訪れる地域だったため、そういった学生同士の交流もとても楽しく、有意義だった。

企業との関わりを通して

- ・ 企業が田根と関わるメリット

自治会と地域おこし協力隊の方との連携と起業にあたって町の人々とコミュニケーションが円滑に取れること。また、田根で活動する人々の多様でリアルなネットワークに触れられること。

- ・ 交渉の難しさ

「とりあえず動く」ことが、実現可能性を高める第一歩であった。

「断られる」経験と相手の目線に立って物事を見るという交渉における原則を痛感した。

謝辞

地域おこし協力隊の堀田さん、長浜市役所の村田さん、寺村さん、FS活動にご協力いただいたすべての方々、FS活動を温かく見守ってくださった田根の方々に、この場を借りて深く御礼申し上げます。

和歌山県上富田町

大場健太郎 鬼塚雄大 姫野楓 森大輝



上富田町の現状と課題

【現状】

- ▶ スポーツセンターを中心とした、スポーツを中心とした町おこしを続けてきたが、コロナ禍を経てやや伸び悩み

【課題】

- ▶ スポーツセンターの利用促進
- ▶ 合宿誘致
- ▶ 町民の健康増進

など

第一回現地調査を経て

- ▶ 休日のスポーツセンターはほぼ予約で埋まっている一方で、**平日、特に昼間の利用**が少ない
 - ▶ **閑散期**(主に6,10月)の**合宿利用**が少ない
- この課題に対して解決策となりうる施策をメンバーそれぞれで考案しました




スポーツイベントの活用

- ➡ 話題性と集客性の高さに注目し、スポーツイベントを利用
- ➡ 単発的になる懸念
- ➡ コストの観点からの実現可能性の低さ



記録会としてのウエルネスDAYの利用

- 既存のイベントであるウエルネスDAYで定期的に記録会を実施
- 記録会によって**成長を可視化**
- 継続的な実施を通して**モチベーションの維持・向上**
- 既存のイベントの延長として実施することで**コストの問題を解決**



フライングディスク競技を通じたスポーツセンターの日常利用の推進

- 始めるハードルが低く**老若男女が楽しめる**スポーツ
- 近隣の白浜町ではビーチアルティメットというフライングディスク競技の国際大会が行われているので、紀南地域を**フライングディスクの聖地**にすることも目指せる
- フライングディスクと一口に言っても、たくさんの種目があり、いろいろなニーズに対応できる
 - まずは比較的ルールが単純で、体力の消耗が少ない**ガッツ**と**ディスタンス**に絞って普及を目指す

具体的な取り組み

① スポーツ推進委員と連携した体験会の実施

- ・ フライングディスクの知識を有するスポーツ推進委員の方々に体験会を開いていただく
- ・ 競技人口が一定以上になったら、町内の競技者が自発的に体験会を開けるように促し、自律的な競技人口拡大を目指す

② スポーツセンターの半面貸し出しの実施

- ・ 上富田町スポーツセンターには多目的グラウンドがあるが、フライングディスクではその全面を使う必要はない
- ・ 半面貸し出しの場合は、全面借りる場合の半額程度の価格にすれば経済的にも利用しやすいのではないか

③ ダイナミックプライシングの導入

- ・ 上富田町スポーツセンターは平日利用が少ないので、平日料金と休日料金に差をつければ平日利用を増やせるのではないか

1年間の活動を通して得た学び

- 地域の課題解決の難しさ

地域特有の事情を考慮しながらの課題解決

- 明確な答えのない課題

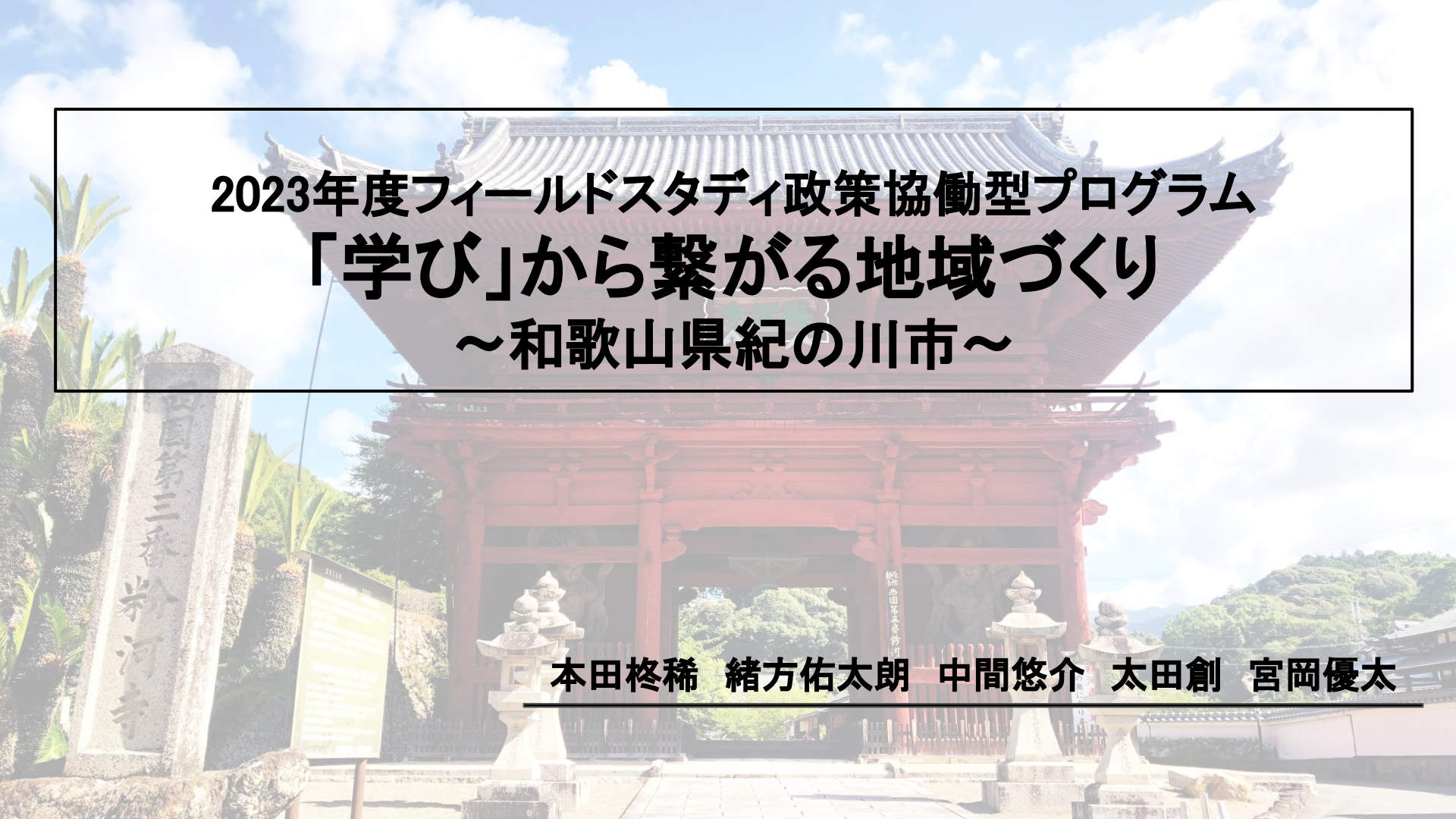
手探りしながらの提案

- 地元の方との交流

普段交流しない属性の方々との出会い

- 役場の方などたくさんの人と交流することができ、勉強になりました。地域の課題を解決する政策を作る難しさを改めて実感しました。（大場）
- 地元の方の交流させていただくなかで、地方の課題がどのようなものなのか、とてもリアルに知ることができました。また、その解決策を考える中で答えのない問に取り組む難しさを学びました（姫野）

- 明確な答えのない課題に取り組むことは困難でしたが、自分達に求められているものは何かを考えながら話し合いや調査活動を行うことはやりがいがありました。提案から実現までの道筋についてもより具体的に示すことができればより良かったかと思います。（鬼塚）
- 学外の外で課題に取り組むことは今までにない経験だったので、色々な出会いや学びがあり、自分を成長させてくれたと感じています。（森）



2023年度フィールドスタディ政策協働型プログラム
「学び」から繋がる地域づくり
～和歌山県紀の川市～

本田柊稀 緒方佑太郎 中間悠介 太田創 宮岡優太

目次

- 紀の川市の紹介
- 現地活動の報告
- 課題意識
- 具体的な施策の提案

紀の川市の紹介

- 和歌山県北部に位置する人口およそ5万7千人の市
- 北は大阪府、西に和歌山市と接する
- 京奈和自動車道・阪和自動車道により、大阪へのアクセス良好
- 近畿大学生物理工学部のキャンパスが立地

住いも♡いも
紀の川市



紀の川市の紹介

01. 「フルーツの町」と呼ばれるほど果実類の栽培が盛ん。季節を通して様々な品種の果物が栽培されていることが特徴

紀の川市の特産フルーツ	産出額（全国）	生産量（県内）
いちご	84位	1位
もも	2位	1位
かき	3位	2位
いちじく	1位	1位
きうい	4位	1位
はっさく	1位	1位



あら川の桃

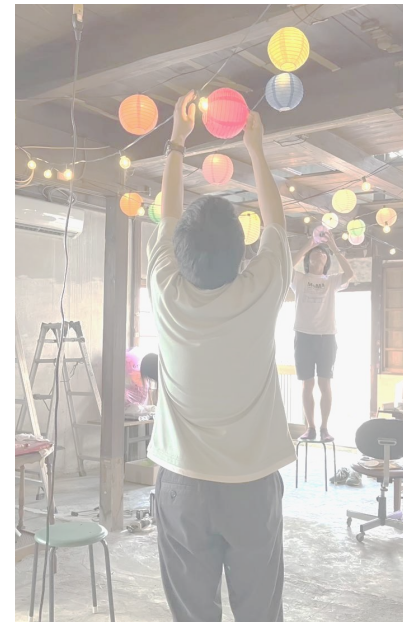
紀の川市の紹介

02. 紀伊国分寺や粉河寺を抱え、江戸時代に世界で最初に全身麻酔に成功した華岡青洲の出身地と和歌山県のなかでも歴史が重層的に積み重なってきた地域である。



第0回現地活動 2023年8月 第2週～第3週

- 活動を本格的に始める前に「地域を知り、地域に入り込む」ことを目標とし、現地の受け入れ団体CASEのお祭りにボランティアとして参加
 - ・・する予定だったが、台風によりあえなく祭りは中止
- 打田駅前カフェやまちなか図書館の開設をはじめとする、地域活性化企業人としての活動を行なっているCASEと合流、実際に紀の川市を回りながらブレスト
- なお、本活動は和歌山県の「地域おこし協力隊」制度を用いて実施した。



第1回現地活動 2023年9月27日(水)～29日(金)

◎9月27日(水): 拠点で実際に行う企画について、ディスカッション

◎9月28日(木): 和歌山大学のゼミとの合同フィールドワーク

午前: 紀の川市の地方創生に関する講義を受講、打田駅前散策

午後: テーマに沿って市内のスポットを見学、市庁舎にて和歌山大生とディスカッション

◎9月29日(金): 活動の振り返りと、今後の予定の確認

第2回現地活動 2024年2月10日(土)～2月12日(月)

◎2月10日(土)

午前: 地元のフルーツを使ったオープンカフェ、イチゴ観光農園の見学

午後: 地元映像クリエイター塾による取材の見学、

古民家カフェにて粉河地域のまちづくりについての懇親会に参加

◎2月11日(日)

午前: 歴史資料館、紀伊国分寺跡の見学

午後: 桃山地域のお屋敷「宮折」「宮折」の見学、活動の振り返り

◎2月12日(月)

午前: 活動の振り返り

問題意識

- 紀の川市は打田町・貴志川町・粉河町・那賀町・桃山町の五町合併で新しく出来た自治体である。合併から20年弱となるが、依然旧町域ごとに分断が残っているように感じた。
- 現地訪問を重ねるなかで「たまねぎ小屋」「仏教文化」「フルーツ」など共通言語が各町域を超えて、ゆるく存在することに気がついた。
- 提案する取り組みでは、まず自分の住むエリアに関すること(仕事や文化)を知って、その上で他の旧町の類似性と相違点を見つめる。
- 具体的にいくつかの学習コンテンツを考え、提示してそのような機会を実際の企画を交じえながら最終発表で提案する。

最終報告会 2024年3月10日(日)

3月10日・13時からカフェiiba(名手地区)で行われる移住者交流会での同時開催を予定している。

移住者だけでなく地域住民も参加できるような形式で、発表だけでなく以下で紹介する企画を実際に行う予定。

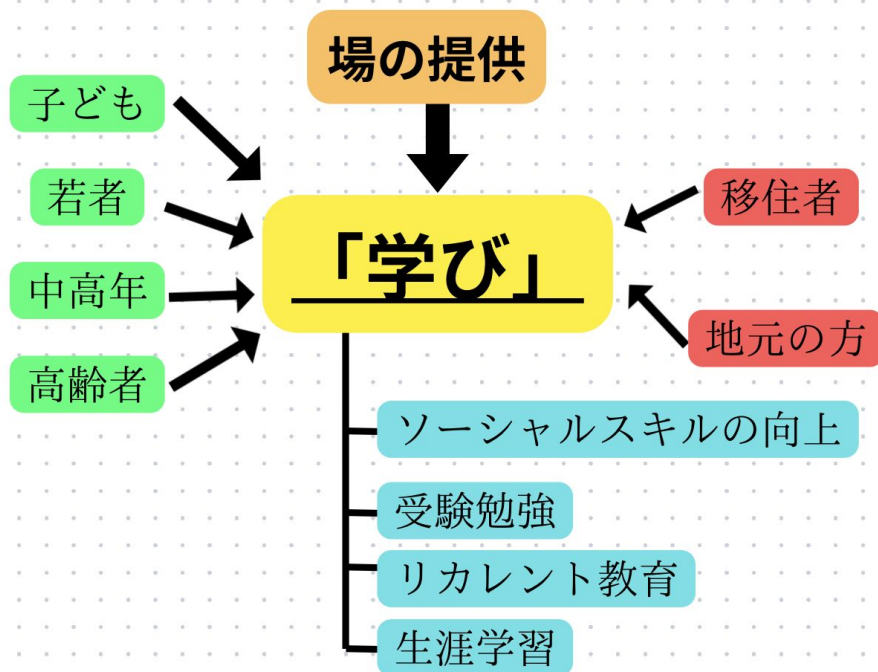
企画の提案

「学び」で地域を繋げる、世代を繋げる

・空き家の利活用の一形態として、「学び」で繋がる地域コミュニティの設立を提案。

・全ての人間は学び続けるもの。「学び」で地域を繋ぐことができる。

・三豊市の「地域カレッジ」など先進的事例も



具体的なプログラムの提示

たまねぎ小屋について

紀の川市の景観の特徴として、農地に点在するたまねぎ小屋の存在がある。

かつて紀の川市(特に旧打田町)は日本有数のたまねぎの産地だったため、たまねぎを冬から春にかけて乾燥させる目的で右の写真のような小屋がたくさん建てられた。



たまねぎ小屋ワークショップ(当日の流れ)

01. 参加者には事前に家の近くにあるたまねぎ小屋の写真を撮影してきてもらう
02. たまねぎ小屋とその周辺についてプレゼン、自分の持ってきた写真を見せ合って事前学習
03. 実際に外に出て30分ほどたまねぎ小屋を目当てに、あらかじめ考えておいたルートに沿って地域をみんなで散策

古写真企画(Kino-guesser)の当日の流れ

01. あらかじめ古写真を用意する(可能であれば参加者にも用意してもらう)
02. 写真を見て、その場所が現在のどこに当たるか推測。その過程で自分の住む地域とその周辺地域の理解を深める
03. 最後にその時代の航空写真と照らし合わせながら地域の変遷についても学習する

若者だけでなく、昔の地域の姿を知る高齢者にも楽しんでもらって、地域のことを改めて知る機会とする。



移住者交流会について

移住者交流会

現在の移住者交流会は、移住者の中に閉じたコミュニティとなっていることが課題。移住者交流会の中では、各移住者の特性に応じて趣味のコミュニティができているものの、移住者と既存住民が交流する機会は少ないという。

交流会の形式

◎紀の川市は5町合併により形成されたという経緯を持つ。5町は異なる特徴を持つものの、その違いはあまり認知されていない。

1. それぞれが住んでいる地域の魅力について語ってもらい、住民は他の地域の魅力を知る。
2. 5町の代表者が移住者に魅力をプレゼンし、どの地域に最も住みたくなったか投票してもらう。

住民は見えていなかった地域の魅力に気付く、移住者は現在住んでいる地域の外にも足を運ぶきっかけに！



ご清聴ありがとうございました！

本年度のFSにご協いただいた全ての皆様に、この場を借りて御礼申し上げます

A sunset scene over a body of water, likely a lake or bay. The sun is low on the horizon, creating a golden glow and reflecting on the water's surface. In the background, there are silhouettes of buildings and hills under a cloudy sky.

中海・宍道湖・大山圏域市長会

—松江市八束地区・安来市比田地区—

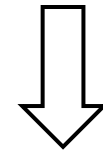
川合俊輔・菅原紀香・杉山拓都・西村若奈

ミッション

ミッション：**観光を通じた地域活性化**施策の立案

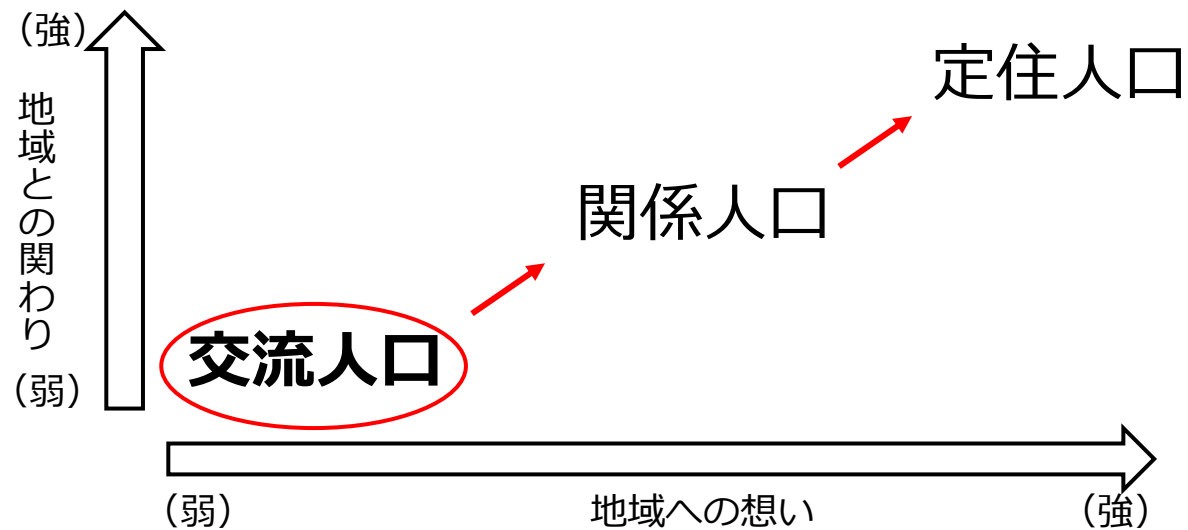
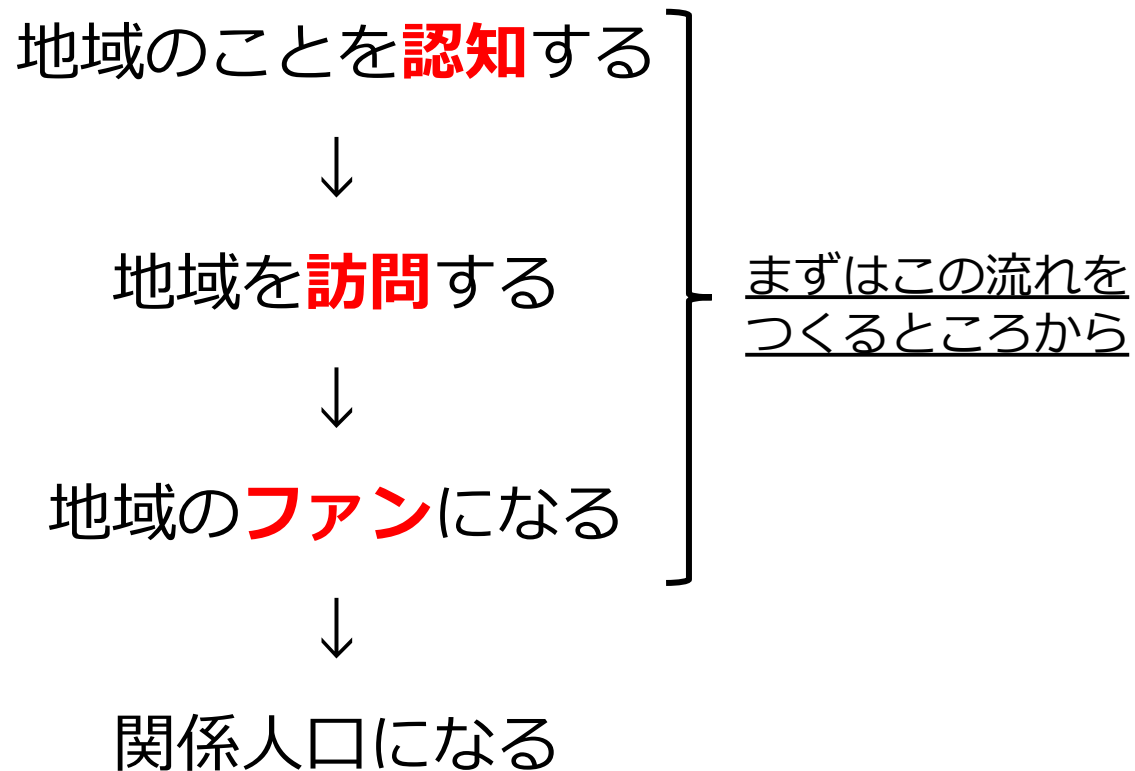
〈背景〉

- 少子高齢化
- 若者の都市への流出



人口が減少し地域の持続が
難しくなる可能性

ミッション



地域について—八束地区

- 中海に浮かぶ火山島 通称「大根島」
- 牡丹（島根県花）や高麗人参の栽培が盛ん
- 米子空港から車で約15分の立地
 - 松江市街、米子市街は通勤圏
- 江島大橋（写真上）や由志園（写真下）など**観光資源が比較的豊富**

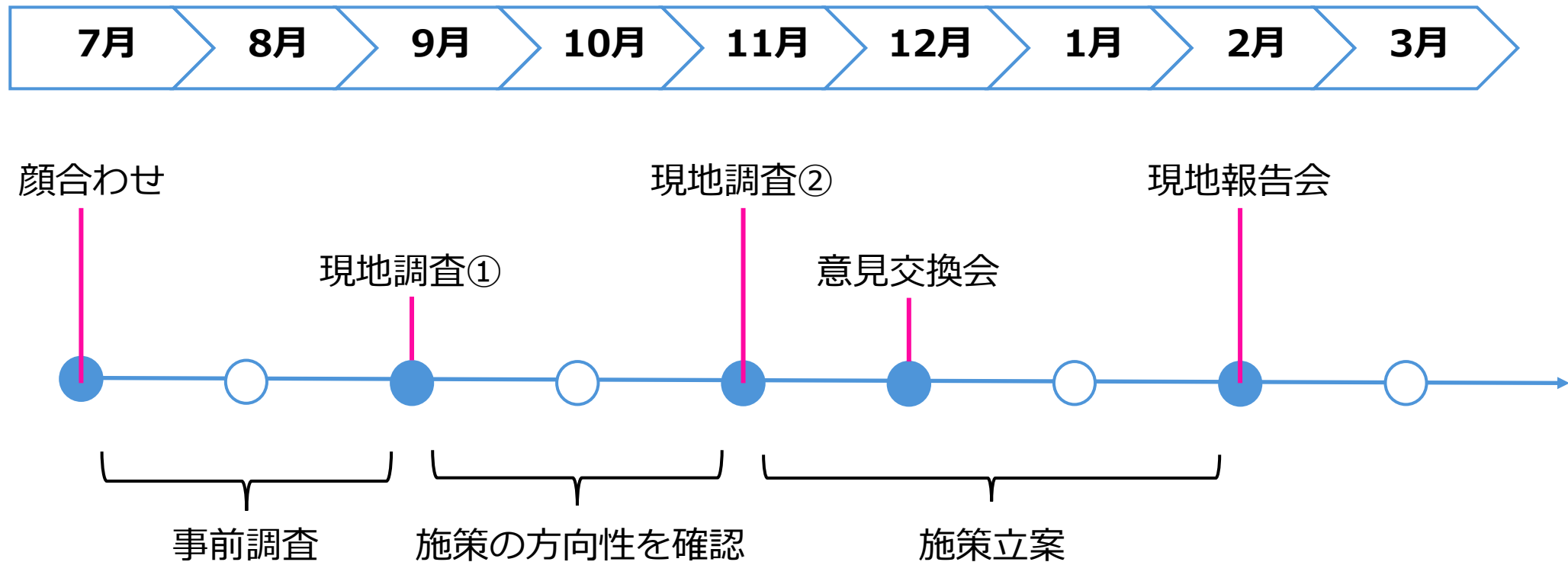


地域について—比田地区

- 安来市街地から車で約1時間の立地
- 稲作を中心に農業が盛んな地域
- 「えーひだカンパニー」による地域住民を巻き込んだ
地域活性化に向けた取組が盛ん
- 2024年1月に宿泊施設「湯田山荘」がリニューアル
オープン



活動の流れ



現地活動①（2023.9.4～6）

【目的】

事前情報ではわからない**現地の実情を知る**

【主な活動】

（八束地区）

- 地域の方々の案内で様々な観光施設を見学

（比田地区）

- 地域の方々の案内で様々な観光施設を見学
- 夕食会にて地域の方々との交流を深める



現地活動②（2023.11.4～5）

【目的】

地域の新たな魅力を発見し、最終提案の方向性を定める

【主な活動】

（八束地区）

- 観光資源となりうる場所を見つけるべく島内を自転車で周遊

- 住民の方々との意見交換会

（比田地区）

- 観光客に提供予定の体験活動をいくつか経験
 - どじょうすくい、大根収穫など



提案内容—八束地区

理想状態：将来にわたり**地域が活力を持ち続けること**

施策1：地域外から**人を呼び込む**

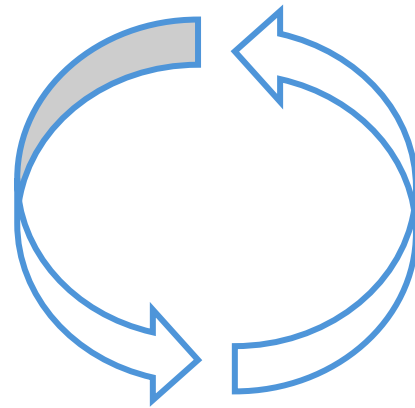
「攻め」の施策

地域外への働きかけ

施策2：地域内から**人の流出を防ぐ**

「守り」の施策

地域内への働きかけ



相乗効果により活性化を目指す

提案内容—比田地区

目標：地域外から人を呼び込み、地域にお金が落ちるように

(人々が観光をする3STEP)



認知面・行動面が抱える課題への解決策を提案

(課題の例)

- 認知面：比田地区の存在が知られていない
- 行動面：行って何ができるかが分からない

プログラムを通じた学び

①机上の学習からでは得られない学び

- 課題に対する**明確な解決策がない**
- 現地に行って自分の目で見て話を聞かないと実態がわからない
→頭を使うだけではわからない面白さ

② 知らなかった地域を「好き」になるということ

- 観光からでは味わえない感覚

東大**FS**成果報告

高知県土佐市

魚谷和史 吉澤侑志 藤永紗衣 矢野秀雄



高知県土佐市

01

人口規模

人口326,814人で県内一位の
高知市の隣の市、人口は26,273人

02

コンパクトシティ

太平洋や仁淀川、にこ淵と
いった自然豊か

03

未来志向の公教育

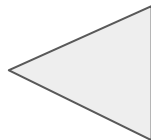
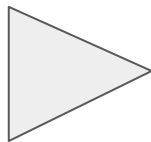
校内ハローワークを実施し、
学生に学習と仕事のつながりを

地域×学校

現状と課題

地域内の公的な
業務デザイナーなど
クリエイティブな職業

理論学習



理論を理解した上で
実践に組み込む

実践学習



生徒×地域×学校の新たなモデル事業

活動内容

Teens Market 2023

→中学生が商品を考え、実際に出店・販売

会社のように、グループ内で役割を複数持つ

→社長 / 会計 / 仕入 / 販売 / 宣伝 / 企画

中学3年生向けの教材作成

→マーケティングの基本的な内容を網羅

自分たちで出店を考える補助に

9月5日	「役割分担・商材決定」
9月26日	現地訪問① 「仕入れと企画書」
11月7日	「予算書」
11月13日	「オペレーション決定」
12月2日	現地訪問② 「出店」
3月9日	現地訪問③ 現地報告・「反省会」

活動内容

Teens Market

10/3(火)
・仕入れ交渉
・予算の作成

予算の作成

◎予算とは
会社や自治体が考える、「もろうお金」と「つかうお金」に関する計画のことです。一般的には、4月から翌年3月までの、年度（会計年度）ごとにその計画を立てて実行します。
もろうお金を無駄なく使うために、また、お金を使いきないようにするには、あらかじめ計画を立てておくことが大切です。そして、無駄なく、使いきらない、ということは「もろうお金」と「つかうお金」の総額が両者で一致していなければなりません。これが予算作成の前提になります。

◎予算の組み方
会社や自治体など、様々な部署を抱える組織が予算を作成する（これを「予算を組む」といいます）のは大変な作業です。大きく分けると、以下の二つの方法があります。
・トップダウン方式：社長や会計が、各部署に「もろうお金」を割り振り、部署内で内訳を決定。
・ボトムアップ方式：各部署が「つかうお金」の計画を作成し、それを集めた後、調整し決定。



◎もろうお金（歳入の部）
もろうお金にはどんな種類があるでしょうか。土佐市の今年度予算を見ながら考えてみましょう。

土佐市	一般の会社	Teens Market
市税		
使用料及び手数料	売上	売上
譲収入		
地方交付税	寄付・支援金	土佐市からの支援金
国庫支出金		
市債	銀行からの借入	今回はなし

Teens Market 授業ガイド 第2回 10/3(火) 16:30~18:00

【全体】
●時間がタイトなので、指導者はタイムキーパーとしての役割を主に担ってもらいます。
●90分の内訳は、
Ⅰ：仕入れ交渉に向けた指導（10分）
Ⅱ：前回の振り返りと想定問答（20分）
Ⅲ：仕入れ交渉（30分）（＝15分×2）
Ⅳ：予算に関する授業【教材使用】（10分）
Ⅴ：予算の作成【ワークシート使用】（20分）
を想定しています。かなりタイトですが、先々の日程を考えると、予算完成まで終わらせないと厳しい状況です。よろしくお願ひします。

【仕入れ交渉に向けた指導】（10分）
●商談の際の基本的なマナーについて指導します。
●「本来はお願いする会社（中学生）側が出向くべき」「名刺交換（市役所で事前に名刺作成予定）」「席次」の三つは最低限紹介したいところです。時間と中学生の様子から、追加できるなら追加していただいて結構です。
●中学生たちも「真面目に、かしまって、やらないといけない」という点は、理解しているはずなので、先に挙げた三つのような「社会人ならではの」作法について触れるのみで十分だろう、と考えています。
●逆に、それ以外は指導せずに、中学生の実力で勝負させてみてほしい経験になると考えています。
●指導者本人の経験談も交えてお話しできると良いです。

【前回の振り返りと想定問答】（20分）
●企画書の中身を再確認（完成していないけれど書き上げる）し、どのようなことが聞かれるか、それに対して誰が、どういう風に回答するか、を中学生に考えさせていただきます。
●中学生同士が話が通じやすい理想ですが、「何を聞かれるかわからない」となれば手助けをお願いします。
●どうしても答えられない質問に対して、「協議して後日ご連絡します。」等の「逃げ方」も指導します。
●指導者が、仕入れ先の責任者、という設定でリハをするのも効果的かと思ひます。
●「開業に依頼内容を説明（5分）仕入れ先の意見を聞く/質疑応答（10分）」というような大きな流れを、この時点で共有しておくとの後の進行がスムーズになるかと思ひます。

【仕入れ交渉】（30分）（＝15分×2）
●むすび食堂さんと15分、コリスさんと15分、の交渉を想定しています。
●交渉の時間は、「中学生の会社」⇔「協力店」という二者だけの時間になるのが理想です。指導者は、タイムキーパーに徹してください。（中学生にはタイムキーパーまでやる余裕はない、と考えて



活動結果

現地にて出店を無事に
終え、地域×学校の事業
の見本となった

実践の場を中学生に提
供することができた

将来の職業選択の参考
になったかは不明
(3/4時点)



活動結果

+89,101円

仕入れ

750円 × 100個 = 75,000円

販売数

900円 × 100個 = 90,000円

当日の売上

89,101円

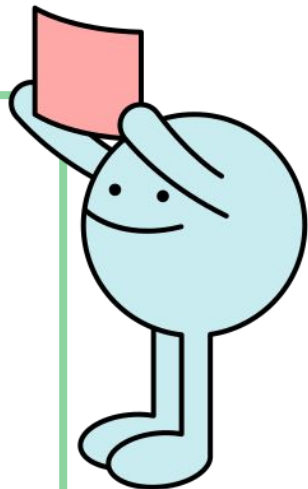
899円足りない??

利益

89,101 - 75,000 = 14,101円

・当日中に中学生と出店の振り返りを行う
ことができた

・作成した教材は1年目の活動の記録・参考として、
来年も残してくれる



次年度以降の展望

今年の内容を参考にし、次年度以降も同様の活動を継続
→今年度の引き継ぎをし、次年度以降参考

モデル事業として高知県内他市でも実施
→卒業生が役割を担うという循環

全国の探求学習や地域交流型教育の1モデル



2023年FS学内报告会

高知県土佐町担当

工学部4年 玉腰勇司

教育学研究科修士2年 小野裕太

教養学部2年 山代晃聖

目次

- 活動テーマ
- 活動内容
- 提言
- 活動から得た学び

目次

- 活動テーマ
- 活動内容
- 提言
- 活動から得た学び

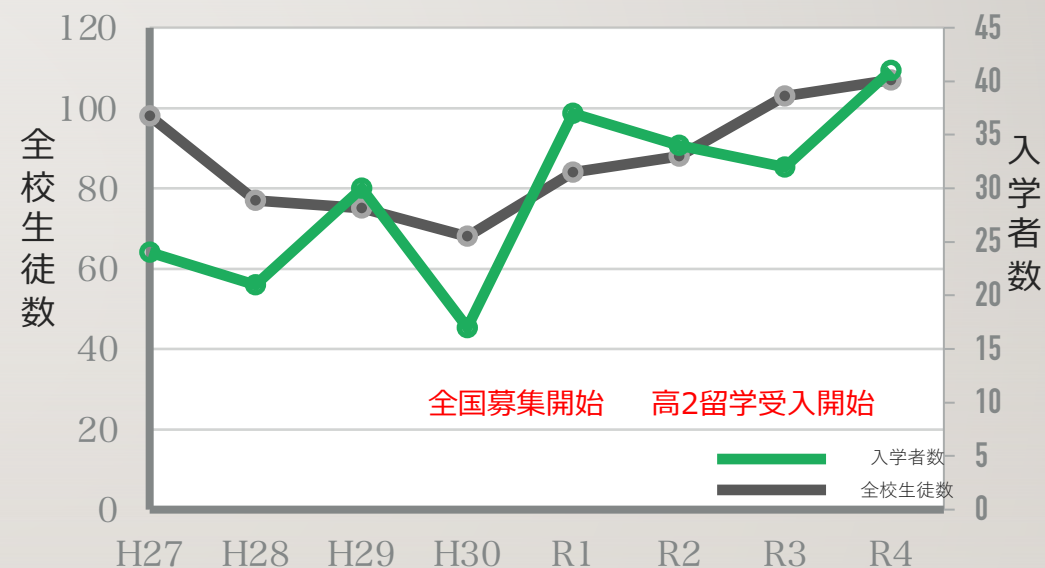
嶺北高校魅力化について

- 嶺北高校…高知県嶺北地域（4ヶ町村）内に**唯一の公立高校**
- 入学者数の減少に伴う**統廃合の危機**が課題
 - 地域から公立高校がなくなることによる地域の衰退…
- 今年度FS土佐町チームのテーマは「**嶺北高校魅力化**」
 - 特に、来年度からの5ヶ年のアクションプラン策定のサポート



嶺北高校魅力化のこれまで

- 「**嶺北高校魅力化プロジェクト**」…2018年度に発足、5年ごとの計画
 - プロジェクト41など、これまでの魅力化の取り組みを引き継ぐ
- 過去5年間を通して、**入学者増加**をはじめとする一定の成果を上げてきた
- 特徴的な取り組みとしては、**地域みらい留学制度、公営寮、公営塾、地域外留学生の身元引き受け（嶺親）**などがある



嶺北高校生徒数の推移

次の5ヶ年に向けて

- 「2024年度からの高校魅力化の方向性と施策は？」
 - 地域外留学生の増加に支えられ、入学者数は増加
→しかし、未だ発展の余地があるポイントも多くある

	2023年度 実績 A	2023年度AP 計画目標 実績 B	2018年度 実績 C	差異	
				A-B	A-C
生徒数(域外)	9 8(2 6)	1 1 5(1 5)	6 7(0)	▲1 7(+ 1 1)	+ 3 1(+ 2 6)
海外留学希望者数 (短期/長期)	5/0	1 0/3	0/1	▲5/▲3	+ 5/▲1
英検資格取得* (2級/準2級/3級)	1 3/2 4/2 8	1 0/5 0/5 0	1/8/1 1	—	—
学力到達ゾーン* S層/A層…D層(D3層)	0%/1 6%/2 7% /3 8%/1 9%(1.3%)	0%/1 0%/2 0% /3 0%/3 0%(1 0%)	0%/0%/5 % /5 5%/4 0%(1 0%)	A層：+6%,B層：+7% D3層：-8.7%	A層：+16%,B層：+22% D3層：-8.7%
大学進学 (国公立/有名私大)	2/1	5/3	3/0	▲3/▲2	▲1/+ 1

- 英検資格取得の実績Aは、生徒の学力到達度をCEFRレベルに換算した見込み数。
- 学力到達ゾーンの実績Aは英国数3教科3学年分(3年次は受検無しのため、2年次を参照)の平均から算出。

FSとしての関わり

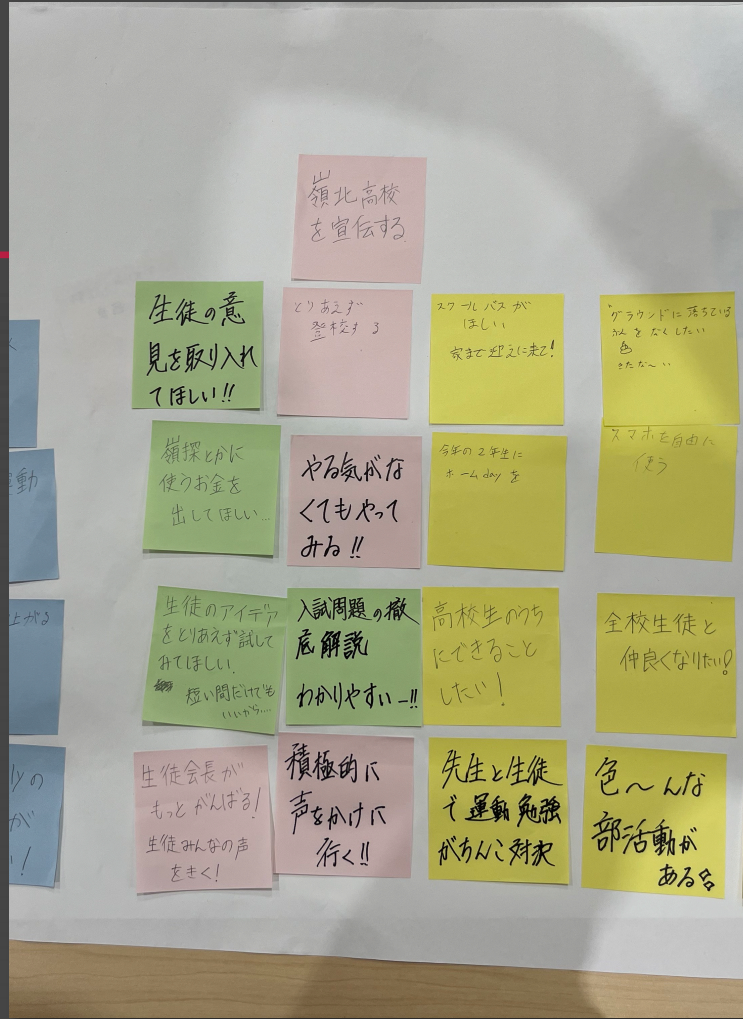
- 自治体側からの現状共有後の疑問：「そもそも生徒たちは自分たちの通う高校についてどう思っているのか？」「魅力化PJに対する生徒の評価は？」
 - PJ評価のための定量指標には、満足度等の生徒の主観的要素がないのでは
 - 今年度までの魅力化PJの目標や施策に、生徒の声は入っているのか？
 - そもそも当事者の意見なしに、よりよい魅力化の未来はないはず
- 「嶺北高校および魅力化PJに対する生徒の声を聞き、大人たちに届けよう」
 - ①嶺北高校全校生徒を対象としたワークショップを開き、生徒の意見を収集する
 - ②生徒の意見をまとめ、検討会で共有する

目次

- 活動テーマ
- **活動内容**
- 提言
- 活動から得た学び

第1回現地調査：生徒向けWS開催

- 第1回現地調査：2023年8月31日～9月2日
 - 8月31日には魅力化PJのキーマンへのインタビュー、9月1日には生徒向けWS開催
 - そのほか、嶺北地域に関するフィールドワークを実施
- 生徒向けWSでは、**付箋と模造紙を使ったワーク**を実施
 - 内容については後述



第2回現地調査：地域住民向けWS実施

- 第2回現地調査：2023年11月11日～11月12日
 - 11月11日に公営寮生徒（地域外生）との交流および地域住民向けWS実施
 - そのほか、第1回現地調査で行けなかった町村でのフィールドワークを実施
- 地域住民向けWSでは、**生徒向けWSで出た意見を共有し、それを元に魅力化の今後についての議論**を実施

高校生の声

- 守るべきものは守って、テキパキ動けます！
- 校則策定の背景を説明&生徒の意見も入れて欲しい(多数)
- 与えられるだけの授業はイヤ！ 選択の幅が欲しい

高校生の声

- イベントを提案する&全力で取り組む
- 他の学校と比べ物にならないくらいイベント！！
- 文化祭の前夜祭・後夜祭をやりたい！！

高校生の声

- 気軽に静かに勉強できる自習スペースがあったらいい
- 手を挙げやすい&先生に話しかけやすい雰囲気作り！
- グループで授業！ 席自由に 座りっぱなしはイヤ

高校生の声

- 新しい自分を見つけたい！
- 今より自分の将来について考える時間をもうけてほしい
- 色々な大学を知れる機会が欲しい

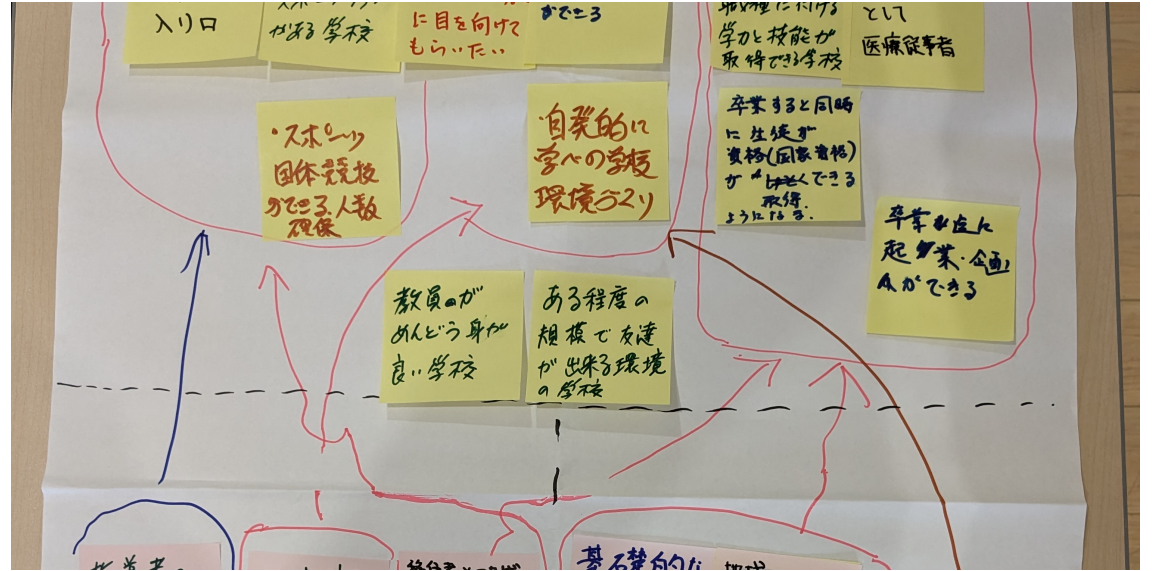
高校生の声

- 嶺探とかに使うお金を出してほしい…
- 授業の対象を「学生」だけでなく「地域全体を生徒」に
- 色々な仕事の人の話を聞いて、自分の視野を広げたい

SEMINAR



嶺北高校生が考える 嶺北高校魅力化



第3回現地調査：現地報告会

- 第3回現地調査：2024年3月16日～3月18日 ！！明日からです！！
 - 嶺北高校魅力化アクションプラン説明会、生徒による隠岐島前高校視察報告会と合同で実施、パネルディスカッションも予定

目次

- 活動テーマ
- 活動内容
- **提言**
- 活動から得た学び

高校魅力化への提言

- **探究学習の充実**

- 学びのフィールドとしての地域、FSとの提携、探究の成果を利用した進路etc…

- **多様な経歴を持つ社会人の参入促進**

- 社会人との交流を通じた視野の拡大、コミュニケーション能力の向上、ネットワークの創出etc…

- **生徒会議の設置**

- 高校魅力化PJへの生徒の声の反映、主体性の涵養etc…

目次

- 活動テーマ
- 活動内容
- 提言
- 活動から得た学び

活動を通して学んだこと

- 地域が一丸となって進める、高校魅力化

地域住民向けWSや嶺親への参加、魅力化事務局への尽力など、地域内の様々な大人がそれぞれの立場から魅力化を応援する嶺北地域の力強さを学んだ

- 「こどもの声」を聞き、そこからはじめる

生徒向けWSでこどもの意見を聞いてみると、これまでの計画の目標や施策には反映されていなかった主体性が見えてきた

- 「外部者」だからできること

「嶺北の外」から来た「大学生」だからこそ、違った視点から見えることや感じること、言えることや役立てることがある

ご清聴ありがとうございました

FS活動を支えてくださった皆様に、この場を借りてお礼申し上げます



2023年度フィールドスタディ型政策協働プログラム 長崎県五島市 活動報告

2024年3月15日

松香怜央（法学部4年）

橋本匠（教育学部3年）

岡本彩（人文社会系研究科修士課程2年）

岡野明莉（文科III類2年）

イントロダクション

- ・ 五島列島最大の福江島をフィールドとして……
→ 伝統芸能の**チャンココ**・**神楽**を保存したい！
- ・ **チャンココ**とは
→ 福江に伝わる念仏踊りで，初盆の家で打つ
- ・ **神楽**とは ※福江島南西部の玉之浦の場合
→ 白鳥神社の例大祭で踊られてきた舞



第1回現地活動

1. 課題を**探索**するための活動

- チャンココを打っている青年団と交流
→合計3地区のチャンココを見学
- 神楽保存会と交流
→神楽の練習風景を見学し、実際に体験

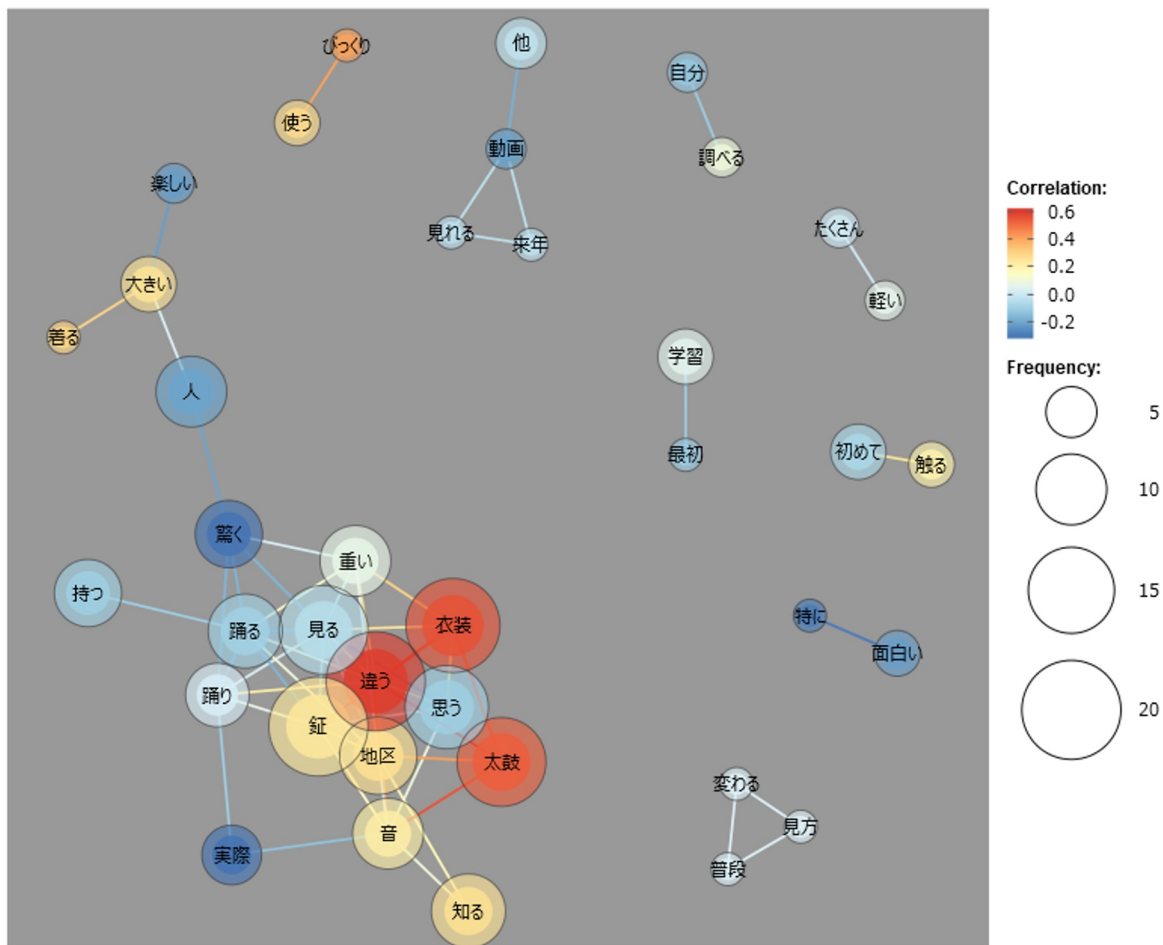
2. 課題を**解決**するための活動

- 五島市内の小・中学校で、チャンココ・神楽のWSを実施
→WS前と後で、**児童・生徒の感覚の変容を記録した**



授業後アンケート結果の共起ネットワーク図（チャンココの事例）

- **踊りの地域差**への着目
「驚き」
「違和感」
「面白さ」 etc.
- **生徒たちの探究心**の増加
「調べたい」
「学びたい」
「知りたい」 etc.



第2回現地活動

1. 課題を深めるための活動

- ・ 老人会との交流

→ 現役の打ち手との世代感にギャップがある……

- ・ 白鳥神社の神主へのインタビュー

→ 神楽を披露する例大祭を開催することの困難……

2. 課題解決の視野を広げるための活動

- ・ バラモン凧の継承者へのインタビュー

→ 伝統工芸では技術はどう継承されているのか



明らかになった課題

1. **何を継承するのか**
 - ・口承であり、内容は徐々に変化するもの
 - 内容を固定化してしまっているのか**
2. **どのように継承するのか**
 - ・神楽もチャンココも宗教行事である
 - どのように学校教育に盛り込むか**
 - どのように学校以外の場を作れるか**





空き家問題の解決

長崎県南島原市FSチーム

長崎県南島原市



人口：42,485人(R5.1末時点)

面積：170.11 km²



南島原市の魅力 (1)



• 豊かな山と海

- 雲仙岳と有明海 自然に囲まれた立地
- 夜は自然の音を聞きながら綺麗な星空

• 住民を癒す温泉

- 各所に温泉が存在
- 住民の憩いの場になっている



原城温泉 真砂

南島原市の魅力 (2)



SUP

• 充実のアクティビティ

- イルカウォッチング/SUP/サイクリング/山登り/ボルダリング/九州オルレ

• 特産品・名物・料理

- じゃがいも/タマネギ/タチウオ/ひよっつる/クルマエビ
- 島原手延べそうめん/とら巻き/ちゃんぽん/トルコライス

南島原市の抱える課題



- 人口流出・少子高齢化
 - 南島原で育った若者が他地域に流出
 - Uターンで帰ってくることも少ない
 - 家業が引継げず廃業
- 空き家問題
 - 親族がなくなり不動産を相続したが、処分に困り、空き家状態で放置
 - 時間の経過と共に廃れる
 - 使用不可能になってしまう
 - 近隣住民の迷惑にも

課題解決のために……



- 『おうちの手帳』
 - 不動産に絞った分かりやすい終活ノート
 - 人口流出で南島原市を離れた現役世代と親世代との話し合いが困難
→手帳の記入という機会を通してコミュニケーション



第一回現地活動



- 空き家の現地視察
- 移住者の方からの聞き取り調査
- 各地を観光

大浦天主堂/ペンギン水族館

イルカウォッチング/SUP/梨園



空き家の様子



ピザ焼き体験

第二回現地活動



- 『おうちの手帳』の試作を編集
- 市役所内で現地職員との打ち合わせ
- 南島原市に住む現役世代/不動産業者/
老人会会長にヒアリング調査



会議風景

今後の展望

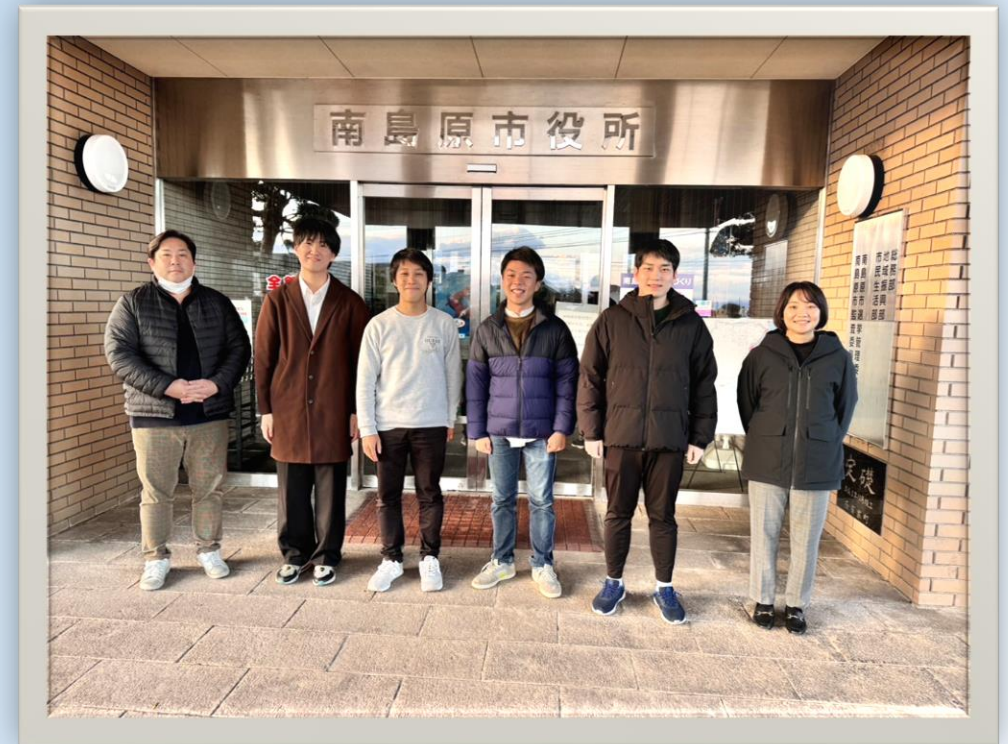


- 3月19日/20日に第三回現地活動
(1) 完成した『おうちの手帳』を
現地住民に周知
(2) 現地報告会
- 『おうちの手帳』を継続的に配布

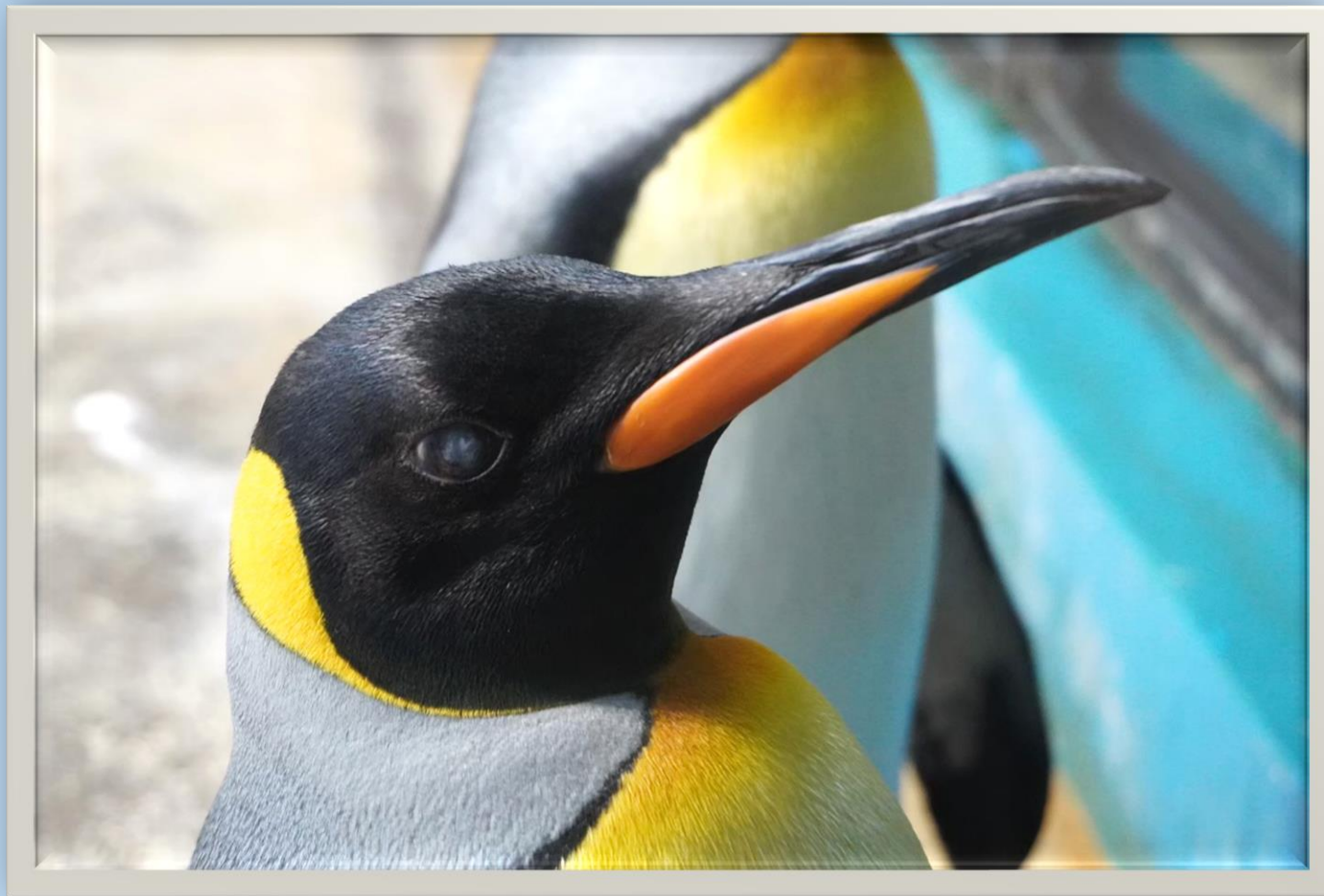
FSを通して得た学び



- 社会問題の解決の難しさを実感
- 地方で生活する住民の方と交流、価値観の多様性を学ぶ
- 地域の「わからない」ことに対して、寄り添って理解するプロセス



市役所前にてFSメンバーと南島原市地域づくり課職員



長崎ペンギン水族館のペンギン

ご清聴ありがとうございました！

東大FS 諸塚村グループ最終報告

公共政策大学院2年 村松悠

農学部3年 小郷綾華

工学部3年 山中弘毅

文科一類2年 吉田小乃果

発表構成

1. 諸塚村の概要
2. 現地活動概要
3. 課題
4. 政策提案



諸塚村の概要

- 人口: 1,352人(599世帯)※令和6年1月時点
- 産業: 四大基幹産業(林業、椎茸、畜産、茶)
- その他の特徴
 - 林野率95%、「林業立村のむらづくり」、FSC森林認証取得
 - 林道密度が日本一
 - 世界農業遺産
 - 自治公民館制度
 - 成人式発祥の地



「もろつかナビより抜粋」

現地活動の概要1

夏～諸塚のあらましに触れた4日間

2023/9/26	9/27	9/28	9/29
諸塚へ初来村 柳の越園芸団地見学	山仕事体験 (下草刈り) 椎茸生産現場見学 山村住民との語らい (セツ山、南川)	地域貢献作業 集落見学 木材加工センター見学	めんぱ作り体験



現地活動の概要2

秋～生活と文化に密着した3日間

2023/11/3	11/4	11/5
南川祭り参加 土間焼酎体験	子ども郷土芸能発表大会参加 吉永林業インタビュー 桂神楽についてインタビュー	桂集落 清掃お手伝い 麻の作品見学



現地活動の概要3

冬～南川夜神楽と共に4日間

2024/2/2	2/3	2/4	2/5
南川夜神楽前日準備	南川夜神楽当日準備 夜神楽	夜神楽 打ち上げでの 語らい	FS最終報告会



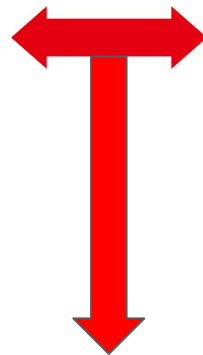
大学生の視点で実感した、諸塚の強みと課題

強み

- ・四大基幹産業の存在
(しいたけ、持続可能な林業)
- ・古くから受け継がれた伝統芸能
- ・大切にされた自然、人との関わり
- ・村外からの移住者の存在
- ・都会では経験できない、
自然に囲まれた穏やかな暮らし

課題

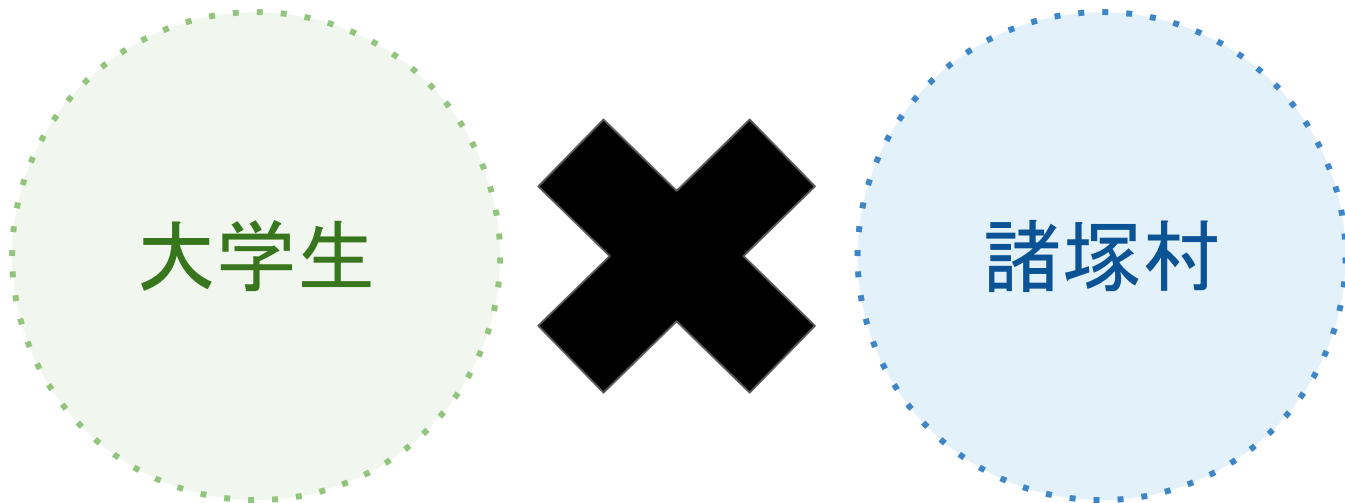
- ・人手、担い手不足(神楽、林業...)
- ・移住者の定着に向けて
- ・自然と共に生きる難しさ
(自然災害など)
- ・村の情報のICT化(SNS、Webサイト等
の活用)



村の強みを維持していくため、**関係人口の創出**がキーに

政策提案

大学生と諸塚村の関係創出



なぜ大学生？

1

進路決定の段階に
ある



今後の人生で諸塚
を選ぶ可能性

2

好奇心が旺盛



諸塚に興味を持つ
可能性

3

私たちと同年代



価値観などが理解
できる

具体的な施策の流れ



Step 1.SNS | パンフレット

Step 2.五月祭

Step 3.大学生の森 | 交換留学

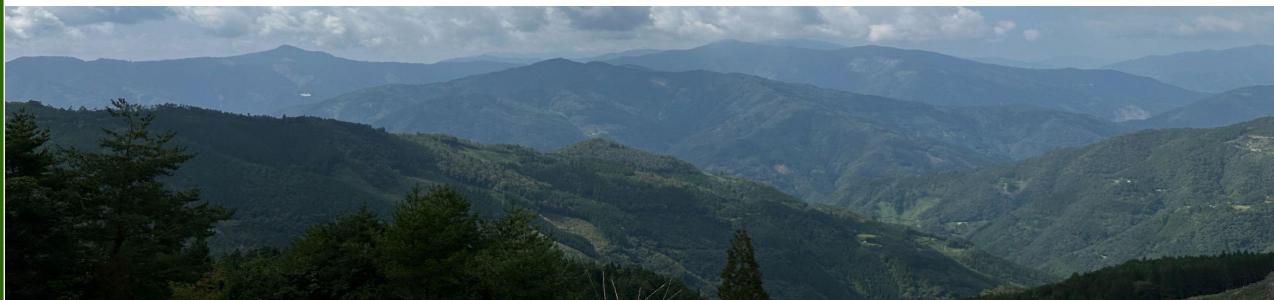
Step 4.大学生との関係創出

Goal 諸塚村の関係人口創出

#1

大学生の森

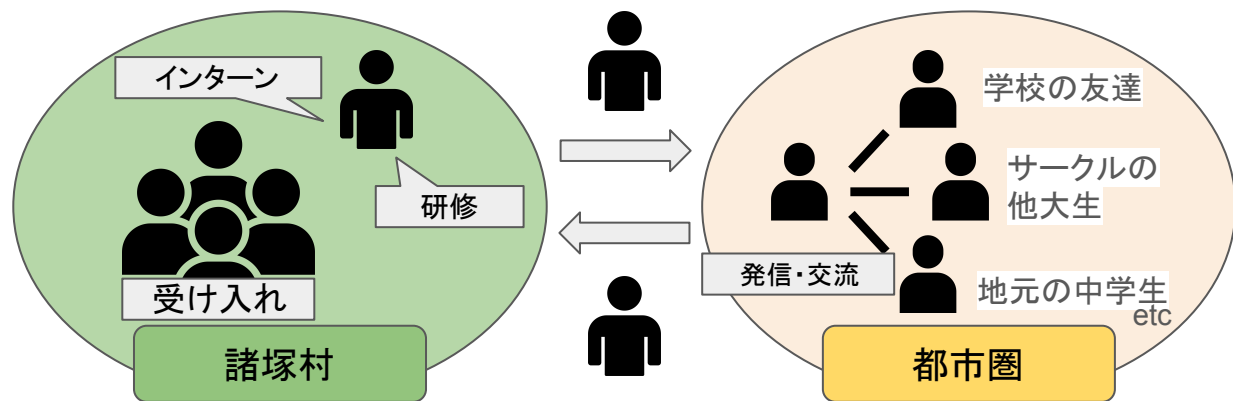
- 森林管理への関わりを通して、諸塚との継続的な繋がりを感じてもらうのが目的
- 具体的には、割り当てられた一定区画の下刈りなどの作業を行う一方で、そこに看板を立てたり、諸塚の特産品を受け取ったりできるものとする
- 「東大の森」というように大学単位での参加に限らず、個人での参加も想定



#2

学生同士の 交換留学

- 1) 諸塚村の学生 ↔ 都市圏の学生 の交換
- 2) 諸塚に訪問した学生が各地で諸塚の
魅力や体験を広めるアンバサダー
- 3) 諸塚に訪問した大学生同士の
コミュニティー創成

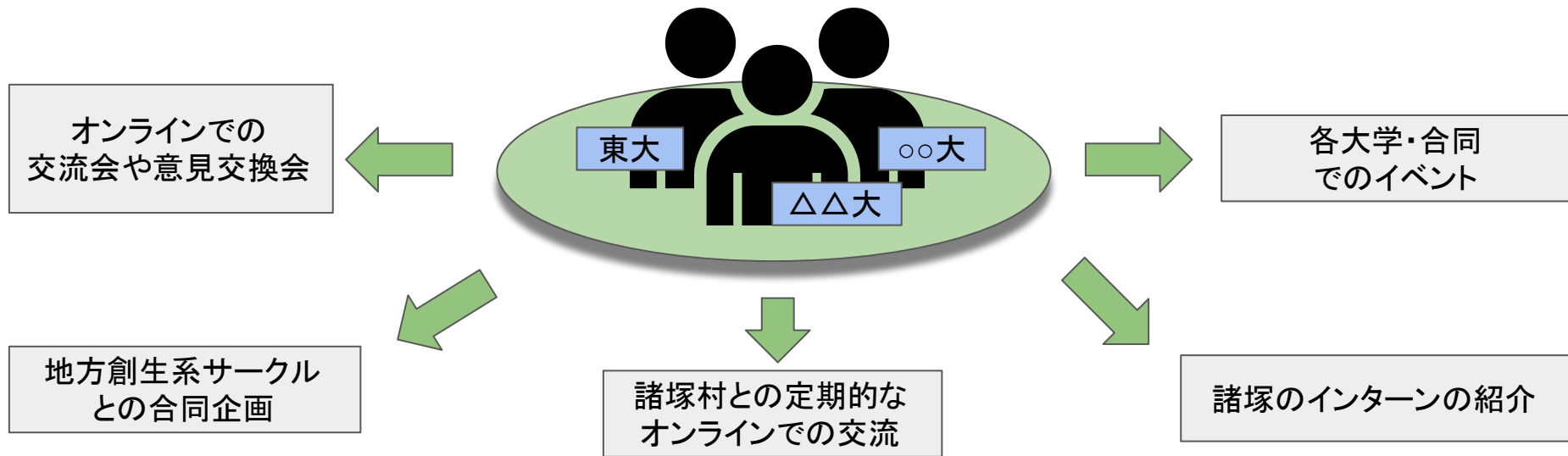


大学生同士のコミュニティ

諸塚村はインターンシップや授業で多くの大学生を受け入れている



各大学の学生全体が作るアラムナイのような組織をつくり、
コミュニティを創成



大学生が
諸塚村に関心を
持つための

足掛かりとして

東大FSができることとは？

#1

五月祭出展

- 特産品の販売やパンフレットの紹介・説明、アンケートの実施
- その後の諸塚訪問や上記活動などへの参加に繋げる
- 役場や観光協会の方に来ていただくことはできないかと考えています
- 当日は過年度生のFS参加者にお手伝いいただく予定



#2

広報の実施 (SNS、パンフレット)

(1) SNS

- まずは五月祭の集客を目指して、X(旧Twitter)やInstagram、noteなどのアカウントを開設する
- その後は、諸塚のことやFSの活動を紹介するアカウントとして来年度のグループに引き継ぎたい

(2) パンフレット

- 東大生・大学生だからこそその視点で、主に同世代に対して諸塚の魅力を伝える内容とする
- 五月祭やオンラインで配布

御清聴ありがとうございました



2023年度東大FS最終報告会 鹿児島県日置市チーム ～草刈り人材不足解消に向けた提言～

2024年3月15日

伊藤・坂巻・瀬尾

草刈り体験をさせていただいた場所(草刈り前)

鹿児島県日置市について

人口約47,000人

鹿児島市まで
電車で20分

平成の大合併で4町が合併した
伊集院町への人口集積が進む



日置市の抱える課題

背景

右の写真、何をしているところだと思いますか？・・・草払いです。
「おいのこの自治会は、草はれをする人がおらんじ、荒れて困っちゃうがよ。」(訳：私のところの自治会は、草払いをする人がいなくて困っています。)
←いくつもの自治会が出る意見です。また、企業においても同じような意見があります。



現状

日置市高齢化率35.4%（内訳：東市来40.8% 伊集院28.7% 日吉44.6% 吹上45.2%）（R4.4.1現在）
人口は、年々減少している。合併当初(H17.5)52,411人(国勢調査)→R4.4.1 46,658人(住民基本台帳)
各地区(26地区)においてみると、高齢化率73.7%、71.3%・・・45%超える地区16地区⇒自治会活動自体が存続できない👉
○転出による空き家、空き地の増加 ○管理地の荒廃化 ○清掃活動(草払い)等の人材不足

(オリエンテーション資料より)

- 草払い人材の減少：人口減・高齢化→自治会活動の衰退
 - ①鹿児島市への人口流出
 - 鹿児島市への通勤・通学に便利な立地→伊集院町のアパートに居住するも、実際の生活圏は鹿児島市中央部に位置する若者・家族連れが多い
 - 若者は大学進学で市外に出ることが多い
 - ②日置市中心部への人口流出...周辺部の若年人口が減少
 - 伊集院町以外の3町の人口減少
 - 旧3町→伊集院町→鹿児島市・博多等への二重のストロー現象が発生

日置市役所の対策→「草刈リーグ」

初心者講習の様子



大会の様子



人口減少、少子高齢化の時代、全国で地域の環境を守るかというテーマが重要な課題になっています。その中でも特に草刈りは全国共通の悩み手不足という課題に直面しています。日置市でもこの課題に対して新しい取り組みを構想中です。

〇がでるまで
草刈り機を使って伸びた草を刈るといって単純作業ですが、実は奥が深く経験の有無によって安全性や仕上がりに大きな違いが出ます。この奥の奥までを追求しつら、より多くの人たちに草刈りの魅力を伝えたいと日置市ではこの草刈りをスポーツとして啓蒙化をめざしています。地域の活性化をめざさないかを模索研究しています。先日は取上り、地味でテニス大会を実施し、職員も参加し、市民の草刈り技術向上を促しました。

▲ 技術を競い合うラスタ大会参加者

人口減少、少子高齢化の時代、全国で地域の環境を守るかというテーマが重要な課題になっています。その中でも特に草刈りは全国共通の悩み手不足という課題に直面しています。日置市でもこの課題に対して新しい取り組みを構想中です。

〇安全を確保して、楽しく草刈り
草刈り機を使うため、思わぬ怪我は安全の確保です。今年度は入った大会ではスピードを競い合いましたが、安全性や仕上がりの美しさを、チームワークなどを評価基準として審判員点数をつけて順位決定式にしました。また、草刈りが初めてという参加者の初体験も促しています。草刈りの新たな可能性を感じてもらえたらいいかなと思っています。

今後は市内の草刈り愛好者の皆さんに対しても草刈り機の普及して日置市を盛り立てています。市民の皆さんも是非草刈り機を使ってまいりませう。

石二農です。安全面には最大限注意しつつ、今後草刈り機普及を促してまいります。

市長コラム
「草刈りはスポーツ」
日置市 中島 大和

「広報ひおきR4.9月号」

オリエンテーション資料より)

これまでの取組

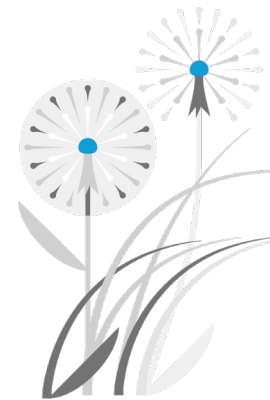
R4.8.6 草刈リーグの開催

- ・草払い人材確保と技術向上を目的に**草払いの大会**を実施
- ・5人1組で草払いを行い、技術・仕上がりで審査
- ・参加料支払**1,000円(保険代金)⇔参加賞として「食事割引券」・「温泉入浴券」**
- ・初心者講習の開催

- ・刈り取り後の仕上がりの美しさ(均一性/刈残し)などを競う
- ・市長の発案、「お金を払ってもボランティアしたくなる」有償ボランティアを目指す
- ・市(公社)の土地を利用したプレ大会を開催

我々が与えられたテーマ・課題

草払い人材不足の解消×地域連携×関係人口創出



活動テーマ

「草払い人材不足の解消と地域との連携による『草払い』で人を呼び込む仕組みづくり」

活動内容

6月～7月 事前に「草刈り」について自由に調査してください。
・他の地域で面白い取組しているところないか？
・そもそも草刈りとは？
・草刈り機や作業服等の関連企業はどんなとことがあるか？

調べてみた結果を基に以下のことを考えてみてください。

- 若い人の視点から、草刈りに魅力を感じさせる要素はないか。
- 若い人を呼び込む方法は何があるか。
- 経済的な効果を生み出せる可能性がないか。
- 企業にも参加（協賛、タイアップ）してもらえる可能性がないか。

8月～9月 草刈り体験（草刈りリーグ、通常の草払い体験かは検討中）
10月～1月 さらに、実際に草刈りも体験したうえで、考えを発展させて。

- 実際に草払いを体験して、社会課題解決のために観光資源としてツーリズム化できるかの検討
- 草払いをスポーツとして捉え（スポーツ化）、継続的に草払いをしていただける仕組みづくり
←自走化するためのインセンティブ、モチベーション維持に何が必要か分析・検証
- 脱炭素に向けて、刈払い機の電気化などの技術を持つ企業とのタイアップの可能性について
←企業が参加しやすい環境づくりやCSRの観点からの企業側のメリットの整理
- 企業の関心、バックアップ（資金・機材の提供）の可能性があるかについて

上記はあくまで例示となります。お互いに意見を交わし、自由に提言を行っていただきたいと考えています。

- 草払い＝草刈り
 - ・ 実際どんな魅力があるのか？
 - ・ 他地域での面白い取組みは？
- 地域連携
 - ・ 若い人を呼び込む方法は？
- 「人を呼び込む」＝関係人口
 - ・ 具体的にどう定義するのか？
 - ・ どんな人を呼び込むのか
 - ・ どこから呼び込むのか？
 - ・ どうやって継続するのか？

活動概観

～8月

- 草刈り・日置市についてのインターネットを利用したリサーチ
- リサーチについて、日置市役所にプレゼン（中間報告会）

9月

- 現地調査活動（草刈り体験・自治会からの聞き取り・草刈機販売店への聞き取り）
- 日置市役所職員への質問（2月まで継続）

～12月

- 他の草刈りイベント団体への聞き取り調査
- 日置市の自治体活動に関する資料共有を受ける

1月

- 日置市役所職員への諸自治体や草刈りに関するアンケート調査

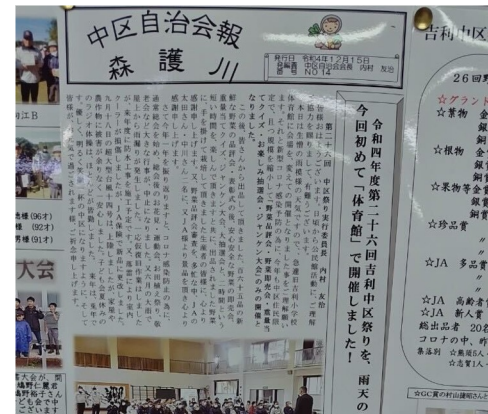
その他、定期的に日置市職員とのmtg及びチーム内のmtgを行う

現地活動 草刈り活動

- ・ 職員等から指導を受けながら草刈り体験
→人数が多ければ広い土地が早く刈りあがる
爽快感・達成感
→黙々とした作業がストレス発散につながる
→ほどよい強度の運動になる



- ・ 2つの自治会の現状について聞き取り調査
✓ いずれも熱心な会長の下で活動が活発
→住民の繋がりを自治会が作り出している
✓ 防草シートを敷くや行政との調整などの工夫



市役所職員200人に自治会と草刈りについてアンケート

「人と作業するのが楽しく、達成感がある。しかし夏場の暑い時期が体力的につらい。払わなくてよいならそれが一番良い」

*** 草刈りは負担**

「決められた日、決められた時間に集まらないといけないのがつらい。こちらの都合もある。その反面強制的な参加だから定期的にきれいにできているし、近所の方との顔合わせにもなっていると感じる。」

*** 自治会の草刈り活動が近所の人との交流の機会になっている**

「草刈りをイベントとして扱う手法には驚かされたし、楽しく参加できた。ただ、このイベントが草刈りの人手不足を解消する手立てにどう繋がっていくのかが見えてこなかった気がした。」

*** イベントと日常の草刈りのギャップ**

他地域草刈りイベント

・鴨川市(房総)・長門市
「草刈はスポーツだ！」@棚田

3団体から聞き取り調査を実施

・草刈りツーリズム@鹿児島県
草刈り×着地型観光(交流会)



向津具地区は特土質の土地が由来が美味しく育つと評判ですが最近では雑草が不足し、農産物の品質が落ち、耕作放棄地も増える一方、またきついな草刈り作業が少なくなり、雑草の増えが原因で、草刈り作業は、季節的では農家にとっては重労働、... 年々むかつく状態をスポーツで楽しく解決!

草刈りはスポーツだ!

MUKATSUKU!?

草刈り 2023 サミット

初級、上級クラスを設定!
草刈機はこちらで用意します。
1チーム2名
募集定員 10組!
参加費 2000円/1チーム

申込先: むかつく地域協議会 0837-34-0868 10/20



他地域草刈りイベントへのアンケート

- 美しい里山の景観の中での地元の農家さんたちとの交流が重要な要素だと考えている(房総草刈りサミット)
- 将来的には、横展開した地域と連携して、「草刈リーグ」を立ち上げ、ホーム&アウェイで互いに行き来することにより、「草刈ツーリズム」の推進も考えている(房総草刈りサミット)
- かならず下見をし、イベントにふさわしい場所か、草刈り作業だけで終わらずにその後の交流や観光・学びの機会が得られるか、参加者が楽しんで参加できるまたは参加したいと思えるところか。そんな要素を見いだせるかが用地選定の基準になっています(草刈りツーリズム)

* 草刈り+α
の重要性

* 他地域との
連携の
可能性

* 草刈りは
地域交流の
入口

参考にした他地域や日置市内での取り組み

- 過去のFS事例：長野県北信地域
 - 厄介者である雪と雪かきを地域資源として活用
 - 雪かき後に集まることができるコミュニティを整備
- 中山間応援サポーター制度 @福岡県
 - 中山間地域でのボランティアを希望する人がメルマガ登録
→集落等が人手を必要とした際(ex.棚田の草刈り、農作業、祭りの準備) に県がボランティア要請メール配信
- 日置市吹上町和田地区公民館
 - 和田水土里クラブと地区公民館産業部により刈払機講習会を開催
←美しい農村景観、持続可能な地域を未来の子どもたちに残すために、農道や市道、河川愛護作業を各自治会で取り組んでいる

提案 ”健康・交流・地域のための草刈り”

運動→健康 黙々と作業→ストレス発散 達成感 人との交流

草刈りの魅力をアピール→自治会等やイベントへの参加を促すきっかけに

地域運営・草刈りの担い手の育成

- 自治会や水土里サークルによる刈払機講習や機材のレンタル
- 町の課題発見ツアー
- 若者が参加しやすい形の自治会等の運営

外との交流

- 「姉妹自治会」制度
- 市による地域団体と個人のマッチング
- 安全と付加価値に配慮した草刈りイベント
- 他地域草刈りイベントとの連携

草刈り負担軽減

- 防草シートの活用
(特に草刈りの困難な場所で)
- 地域外の人々の力も借りる

自走化のためのモチベ作り

- 生ごみ回収処理事業を参考に、刈草の堆肥化→刈草の回収量に従って奨励金

協力→継続

リモセンやオンライン報告→草刈りが必要な場所の把握

本プログラムから学んだこと

- 初めてかかわる地域の実情を把握することは難しかった。調べていくうちに日本がかかえる課題の多くが日置市に該当するところが明らかになり、日本の課題は決して抽象的なものではなく、誰かの生活に密接に関連する具体的なものであることに気づいた。自治会活動の調査を通して、金銭に基づかない協働奉仕の関係について検討できたのが興味深かった。
- 約1年間という短い期間で計画的に行動し政策を立案するというのは難しく、現状を把握するのに時間を要し、あまり多くの地域の方の意見を聞くことに時間は費やせなかったが、その中課題に向き合ったことは貴重な経験になった。草刈りという縁がなかったものに対して、現地調査および日本全国の事例調査などから多角的に調べられたのもとても勉強になった。



初めて鹿児島県へ行き
日置市でフィールドスタディさせていただき
大変光栄でした

ご協力いただいた
全ての方に感謝申し上げます

地域と共に社会課題に挑む 関係人口創出プログラムの構築

水谷玲太・石川龍太・岡本稜大・木戸友仁・佐藤光駿

2024.3.15

どんなまち？

大崎町

- 日本一のリサイクル率：82.6%
※国平均19.6%
- パッションフルーツ生産量日本一

東串良町

- 鹿児島県本土で最小面積
- 石油備蓄基地



どんなまち？



遊



食

うなぎの蒲焼き



あんかけごはん



ラーメンフルコース



さつまあげ



食

ふくれ



アイスクリン

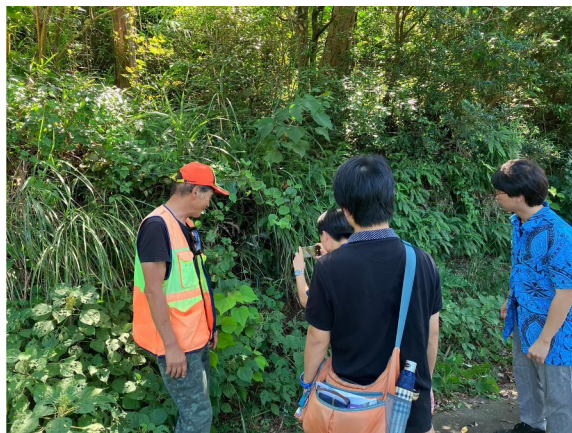
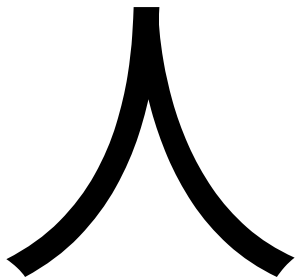


けせんだんご



古墳カレー



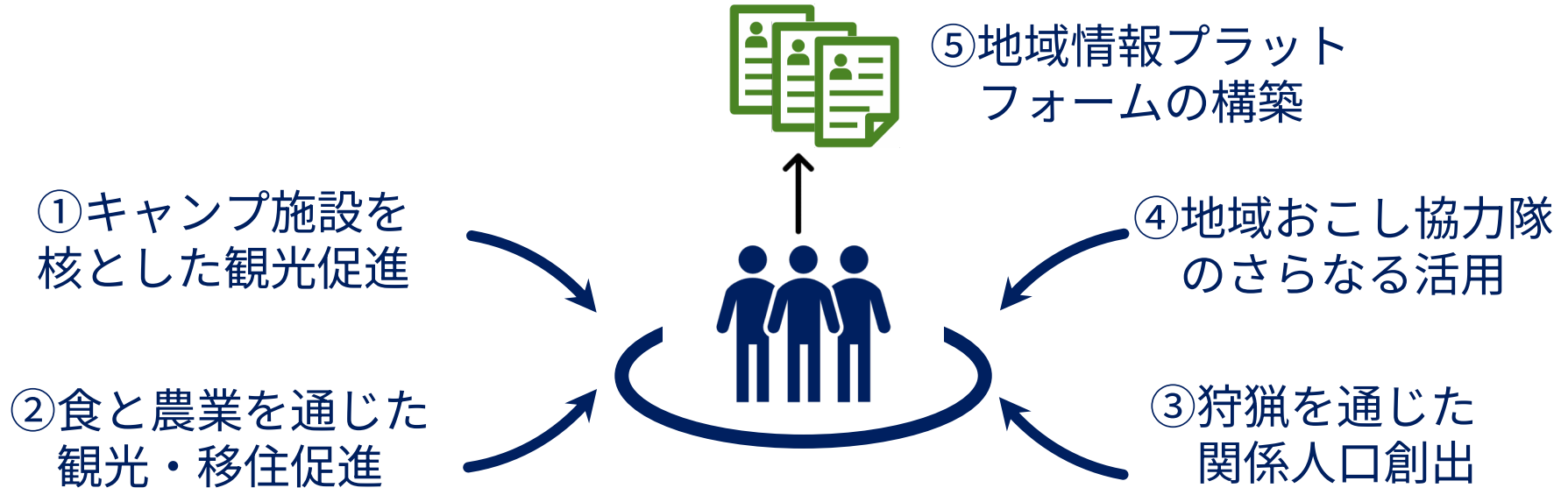


政策提案の全体像

関係人口＝「ある地域に継続的・主体的に関わりを持つ人々」

我々に与えられたミッション：

地域と共に社会課題に挑む関係人口創出プログラムの構築



交流・関係人口を直接増やす

① キャンプ施設を核とした観光促進

② 食と農業を通じた観光・移住促進

③ 狩猟を通じた関係人口創出

交流人口創出

関係人口創出

関係人口創出を促す基盤を作る

④ 地域おこし協力隊のさらなる活用

⑤ 地域情報プラットフォームの構築

キャンプ施設を核とした観光促進策

提案概要

キャンプ場を、“デトックス”する場として活用

近隣住民が主な対象

背景：ひとり時間需要

食の魅力

「ない」ことの資源化



「積ん読（つんどく）解消キャンペーン」

通信圏外の環境を活かし、積読解消

➤ 読んだ本は**寄贈**

- ・ 学校や図書館へ
- ・ 施設内の本棚にためていく

「食」と農業の強みを活かした 地域連携と魅力発信

大崎と東串良の魅力

- 牛、豚、野菜、魚など豊富な食材
- 創意工夫に富んだ“**人の力**”
- Outside Festival（東串良町）
- ふるさと納税などの取組み（大崎町）

しかし、

- 地域外への**プロデュース、販売の弱さ**
- 町に**滞在しない**

地域が連携した、ブランディングと販路拡大

- ✓ 町外発信を**食品事業者 / 農家 / 行政が協力**
- ✓ 「**大崎×東串良ブランド**」
- ✓ 販路拡大や町外への配送などのノウハウは、**地域内の横の繋がり**で**共有**し**効率的な導入**を目指す



ゆいモール大崎
YUIMALLOSAKI

交流人口から関係人口の創出へ

「食の魅力」

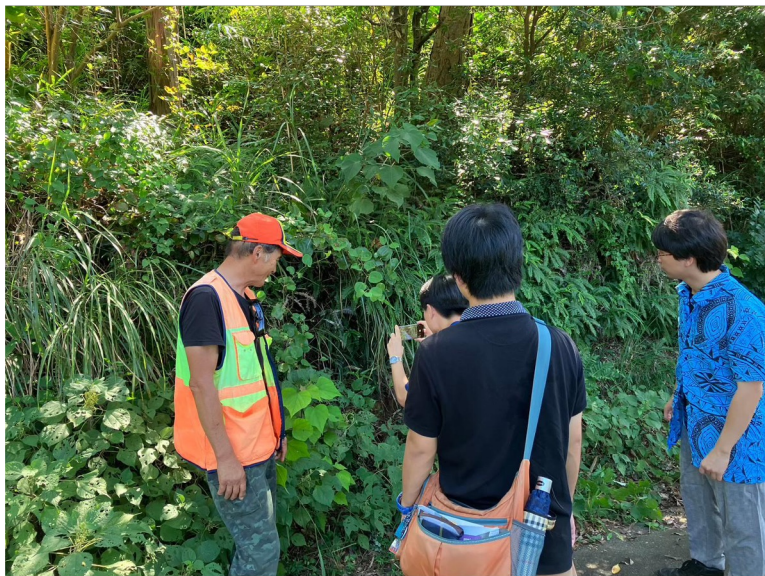
→町の「ファンづくり」を目指す

関係人口の創出には、その地域で打ち込む仕事やミッションが必要



優れた事業条件のもとで農業、漁業、食品業に従事することを決めて移住（Uターン）してくる人の数を増やし、この分野の施策をさらに強化していく循環をつくる

狩猟を通じた関係人口創出



狩猟の新規参入者たるペーパーハンター

- ペーパーハンターの増加

コロナ禍によるアウトドアブームなどにより、若年層の狩猟免許取得は増えているがその殆どは都市部（東京や大阪など）

- 彼らの抱える問題

狩猟はしたいが、どうすればいいかわからない。

猟場なし、知識なし、知り合いなし

しかしやる気（と若さ）はあり。

→このような新規参入者に官民共に意識を向けている。

提案内容の趣旨

（活動）

初心者ハンター（免許取得者）を対象に狩猟ガイド（技術伝達）を行う。

（目標）

初心者に立ちふさがる大きな壁を乗り越える手助けを大隅半島から行う。そしてハンターを増やすことで狩猟業界を活性化させる。

（背景）

高齢化が進む中で新規参入がなければ狩猟にまつわる環境の悪化、狩猟技術の喪失、獣害の深刻化が進む。

地元の方と地域おこし協力隊の協働による
街のさらなる活性化

活動を通して感じたor知った両町の魅力と課題

魅力

- ・ 斬新な取り組みをされている方が多い
- ・ 人口の社会増を達成している

課題

- ・ 近隣地域（大隅、宮崎県南、薩摩）以外との交流が少ない
→ 交流に対して前向きでない人も多く、移住者が排斥意識を感じることもある
- ・ アクセスが悪い
- ・ 技能実習生向けの仕事も多く、日本人向け雇用はそれほど多くない

提案内容

「地元の方と地域おこし協力隊の協働による街のさらなる活性化」

「手伝い」というよりは **「研修から協業」** というような

- ✓ **ミッションの具体化**
- ✓ 移住の不安解消
- ✓ **段階的な地域参画**

東串良・大崎版まちの食べログをつくる

背景

- 「地域」に入るとっかかりがない
- 自分の**地域**を語る難しさ
- 調べても**蓄積**されない



提案内容

- 独自の**調査ノート**（紙媒体）を作成
- フィールドノートの回収と引き換えに**特典**を与える
- そのノートを集めた**図書コーナー**を作る

「まち」の語りを非匿名で蓄積

期待される影響

- **他者の”まなざし”**を通して、まちを知ることができる
- 対応する方の**二度手間を防ぐ**ことができる
- まちの内外の方々にとって**”まち”の再認識**ができる

より深く、絶やすことのない「関係」へ

6. おわりに

大崎町の**宮下功大さま**

東串良町の**畠中輝久さま**をはじめ、

両町役場の方々，大学の関係者の方々，まちの皆様
等々，多くの方に大変お世話になりました。

皆さまご協力いただきありがとうございました。



ご清聴ありがとうございました。